

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシュヤーズ・セミナー＜101＞	石井 裕明	4
フレッシュヤーズ・セミナー＜102＞	伊藤 克容	8
フレッシュヤーズ・セミナー＜103＞	伊藤 公哉	12
フレッシュヤーズ・セミナー＜104＞	井上 慶太	16
フレッシュヤーズ・セミナー＜105＞	井上 潔司	20
フレッシュヤーズ・セミナー＜106＞	井上 智夫	24
フレッシュヤーズ・セミナー＜107＞	内田 雄貴	28
フレッシュヤーズ・セミナー＜108＞	エヴァン ピーター ダニエル	32
フレッシュヤーズ・セミナー＜109＞	太西 雅一郎	36
フレッシュヤーズ・セミナー＜110＞	川越 俊彦	40
フレッシュヤーズ・セミナー＜111＞	庄司 俊章	44
フレッシュヤーズ・セミナー＜112＞	小林 めぐみ	48
フレッシュヤーズ・セミナー＜113＞	財城 真寿美	52
フレッシュヤーズ・セミナー＜114＞	佐々木 大介	56
フレッシュヤーズ・セミナー＜115＞	鈴木 恵美子	60
フレッシュヤーズ・セミナー＜116＞	鈴木 史馬	64
フレッシュヤーズ・セミナー＜117＞	田口 誠	68
フレッシュヤーズ・セミナー＜118＞	田中 研太郎	72
フレッシュヤーズ・セミナー＜119＞	時岡 規夫	76
フレッシュヤーズ・セミナー＜120＞	俊野 雅司	80
フレッシュヤーズ・セミナー＜121＞	中神 康博	84
フレッシュヤーズ・セミナー＜122＞	挾本 佳代	88
フレッシュヤーズ・セミナー＜123＞	浜松 翔平	92
フレッシュヤーズ・セミナー＜124＞	林 潤一郎	96
フレッシュヤーズ・セミナー＜126＞	丸山 桂	100
フレッシュヤーズ・セミナー＜127＞	山上 浩明	104
フレッシュヤーズ・セミナー＜128＞	山崎 由香里	108
フレッシュヤーズ・セミナー＜150＞	大町 健	112
フレッシュヤーズ・セミナー＜211＞	富谷 光良	116
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(a)	池上 敦子	120
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(b)	甲斐 宗徳	124
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(c)	栗林 伸一	128
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(d)	杉山 賢二	132
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(e)	岡本 秀輔	136
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(f)	山本 真基	140
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(g)	酒井 浩之	144
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(h)	千代 英一郎	148
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(i)	脊戸 和寿	152
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(j)	世木 寛之	156
フレッシュヤーズ・セミナー＜221＞(k)	小森 理	160

フレッシュヤーズ・セミナー<221> (I)	松田 源立	164
フレッシュヤーズ・セミナー<231>	柴田 昌明	168
フレッシュヤーズ・セミナー<311>	権田 建二	172
フレッシュヤーズ・セミナー<312>	平山 真奈美	176
フレッシュヤーズ・セミナー<313>	森住 史	180
フレッシュヤーズ・セミナー<314>	日比野 啓	184
フレッシュヤーズ・セミナー<315>	小林 英里	188
フレッシュヤーズ・セミナー<316>	小野 尚美	192
フレッシュヤーズ・セミナー<321>	吉田 幹生	196
フレッシュヤーズ・セミナー<322>	浜田 雄介	200
フレッシュヤーズ・セミナー<323>	平野 多恵	204
フレッシュヤーズ・セミナー<324>	牧 藍子	208
フレッシュヤーズ・セミナー<331>	川村 陶子	212
フレッシュヤーズ・セミナー<332>	佐々木 紳	216
フレッシュヤーズ・セミナー<333>	中野 由美子	220
フレッシュヤーズ・セミナー<334>	田中 一嘉	224
フレッシュヤーズ・セミナー<335>	木村 秀雄	228
フレッシュヤーズ・セミナー<336>	樋口 真魚	232
フレッシュヤーズ・セミナー<341>	見城 武秀	236
フレッシュヤーズ・セミナー<342>	澁谷 智子	240
フレッシュヤーズ・セミナー<343>	内藤 準	244
フレッシュヤーズ・セミナー<344>	西 兼志	248
フレッシュヤーズ・セミナー<345>	金 善美	252
フレッシュヤーズ・セミナー<346>	加藤 祐介	256
フレッシュヤーズ・セミナー<411>	北川 徹	260
フレッシュヤーズ・セミナー<412>	吾妻 聡	264
フレッシュヤーズ・セミナー<413>	関 理秀	268
フレッシュヤーズ・セミナー<414>	尾関 幸美	272
フレッシュヤーズ・セミナー<415>	佐野 つぐ江	276
フレッシュヤーズ・セミナー<416>	藤本 健一	280
フレッシュヤーズ・セミナー<417>	塩澤 一洋	284
フレッシュヤーズ・セミナー<418>	橋場 典子	288
フレッシュヤーズ・セミナー<419>	小沼 史彦	292
フレッシュヤーズ・セミナー<420>	上本 昌昭	296
フレッシュヤーズ・セミナー<421>	湯原 心一	300
フレッシュヤーズ・セミナー<422>	武田 真一郎	304
フレッシュヤーズ・セミナー<423>	鶴 恒介	308
フレッシュヤーズ・セミナー<424>	本多 諭	312
フレッシュヤーズ・セミナー<425>	鶴 恒介	316
フレッシュヤーズ・セミナー<426>	久保田 聡	320
フレッシュヤーズ・セミナー<441>	木花 章智	324

フレッシュヤーズ・セミナー＜442＞	佐藤 高尚		328
フレッシュヤーズ・セミナー＜443＞	立石 洋子		332
フレッシュヤーズ・セミナー＜444＞	木花 章智		336
フレッシュヤーズ・セミナー＜445＞	立石 洋子		340
フレッシュヤーズ・セミナー＜447＞	川口 雄一		344
フレッシュヤーズ・セミナー＜448＞	杉守 慶太		348
フレッシュヤーズ・セミナー＜449＞	杉守 慶太		352
フレッシュヤーズ・セミナー＜450＞	平石 耕		356
フレッシュヤーズ・セミナー＜451＞	今井 貴子		360
フレッシュヤーズ・セミナー＜452＞	佐藤 高尚		364
フレッシュヤーズ・セミナー＜453＞	魚躬 正明		368
フレッシュヤーズ講座＜100＞	フレッシュヤーズ講座 担当チーム		372
フレッシュヤーズ講座＜200＞	フレッシュヤーズ講座 担当チーム		376
フレッシュヤーズ講座＜300＞	フレッシュヤーズ講座 担当チーム		380
フレッシュヤーズ講座＜400＞	フレッシュヤーズ講座 担当チーム		384
成蹊を知る	北川 浩		388
成蹊教養セミナー＜1＞	田辺 春美		392
成蹊教養セミナー＜2＞	李 静和		396
武蔵野地域研究	高田 昭彦		400
地域福祉論	澁谷 智子		404
武蔵野市寄附講座(ITとルールは今・未来)	塩澤 一洋		408
武蔵野地域連携セミナー(吉祥寺ツアープログラム開発)	光田 剛		412
武蔵野地域連携セミナー(ルーマニア語入門)	関口 コルネリア ラルカ		416
武蔵野地域連携セミナー(「おもてなし」のルーマニア語)	シェルブレア ミハエラ		420
人権とジェンダー	堀川 祐里		424
青年の心と身体	林 潤一郎		428
こどもと社会＜1＞	駒谷 真美		432
こどもと社会＜2＞	駒谷 真美		436
老人福祉論	姫野 宏輔		440
福祉社会に生きる	姫野 宏輔		444
情報保障とボランティア	倉谷 慶子		448
成蹊グローバルセミナーA	小田切 由香子		452
成蹊グローバルセミナーB	小田切 由香子		456

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <101>		
教員名	石井 裕明		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本セミナーでは私たちの身の回りにあるサービスを取り上げることで、マーケティングについて学んでいきます。普段、何気なく利用しているコンビニエンスストアやカフェから、休みの日に遊びに行くテーマパークやスポーツ観戦まで、近年の市場には多様なサービスが存在しています。改めて検討してみると、ディズニーやスターバックスのように人気のあるサービスを提供する企業がある一方、そうではない企業も存在することに気が付くはず。なぜ人気のあるサービスとそうではないサービスがあるのでしょうか。あるいは、優れたサービスとはどういうものなのでしょうか。こうしたことが理解できれば、多くの企業の助けになるはず。これまで多くの皆さんは、サービスを楽しむ側の立場を経験してきたことと思います。本セミナーでは、企業について調べたり、優れたサービスを検討したりすることで、提供する側の視点を検討していきます。最終的には、サービスに関わる企画を立案し、プレゼンテーションをする予定です。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、P4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。			
・自ら必要な情報を収集し、整理できるようになる ・グループワークの進め方や心構えを身につける ・プレゼンテーション能力を向上させる ・マーケティング的な視点から企画立案ができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120
第2回	オリエンテーション ・講義の内容や進め方について説明する ・受講生同士の相互理解を深める ・研究倫理について		
	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容を把握しておく。		60
第3回	グループワークの進め方① ・資料に基づいてグループ内でディスカッションを進める ・ディスカッションに基づき、グループとしての結論を出す		
	【予習】配布資料を読んでおく。		60

第4回	グループワークの進め方② ・グループワークで出された結論についての評価を行う ・グループワークの振り返りを行う	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60
第5回	企業研究① ・特定の企業を取り上げ、関連する資料を集める ・資料の検索方法や引用について学ぶ	
	【復習】講義内で与えられた課題に対し、情報を検索し、整理する。	60
第6回	企業研究② ・グループで資料を持ち寄り、企業研究を進める ・プレゼンテーションの進め方について学ぶ	
	【予習】企業の情報を収集しておく。 【復習】講義内で決まったことをパワーポイント資料にまとめる。	60
第7回	プレゼンテーション① ・企業について調べたことを発表する	
	【予習】プレゼンテーションの準備をしておく。	90
第8回	レポートの書き方 ・大学におけるレポート作成の基本事項について学ぶ	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60
第9回	事例研究① ・個人的な経験を通じて優れたサービスについて検討する ・検討結果を課題レポートとしてまとめる	
	【予習】自らが経験した優れたサービスをピックアップしておく。	60

第10回	事例研究② ・学術的な視点を取り入れて優れたサービスについて検討する。 ・検討結果を課題レポートとしてまとめる	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60
第11回	企画立案① ・グループで企画を立案するための準備を行う ・資料を収集し、課題を整理する	
	【復習】資料を整理し、不足している情報を収集する。	60
第12回	企画立案② ・グループで企画を立案する ・どのように課題に対応すべきかをグループで議論する	
	【予習】課題に対する自らの解決案を検討しておく。 【復習】講義内で決まったことをパワーポイント資料にまとめておく。	60
第13回	企画立案③ ・グループで企画を立案する ・プレゼンテーション資料の作成を進める	
	【予習】自分なりの企画案を検討しておく。 【復習】講義内で決まったことをパワーポイント資料にまとめておく。	90
第14回	プレゼンテーション② ・自らのグループが立案した企画を発表する	
	【予習】プレゼンテーションの準備を進める。	120
第15回	まとめ ・プレゼンテーションの振り返りを行う ・本講義で学んだことを総括し、復習する	
	【予習】プレゼンテーションにおける自らの貢献について、達成できた点と達成できなかった点を明確にしておく。	60

授業の方法

- ・グループワーク形式やディスカッション形式で授業を進める。
- ・大学での学びに必要な実践的な知識の習得をめざし、受講生自らが進めるワークを多く展開する。そのため、積極的な姿勢で授業に参加することが期待される。

成績評価の方法

平常点（グループワークへの貢献や発言等）50%、課題の評価（プレゼンテーションやレポート）50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①グループワークを円滑に行えたか。
- ②適切な情報を発見し、十分に活用できたか。
- ③効果的なプレゼンテーションが実現できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特に指定しません。重要な文献については適宜紹介します。

参考書

特に指定しません。重要な文献については適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <102>		
教員名	伊藤 克容		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
このクラスの目的は、企業行動（各種商店や会社の取り組み）を勉強することを通じて、研究調査・プレゼンテーション能力を養うこと、そのための基礎となるトレーニングを実施することです。 現代社会の構造や問題について理解するためには、様々な企業の活動について知っていることが大前提です。また、自分なりの観点・関心から適切な方法でいろいろな社会問題を調査・分析し、その内容を聴いている人が思わずひきこまれるようなプレゼンテーションにまとめあげられることもとても重要な能力です。 この講義では、受講者が関心を持っている実際の企業（業界）をいくつかとりあげ、プレゼンテーションを作成・実施し、それに関して議論を行います。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（総合マネジメント力）を実現するために、この講義を通じて、以下のような6つの目標がある程度まで達成できればよいと考えています。 (1) 企業行動を分析することの必要性和面白さがなんとなく実感できるようになる。 (2) 実際の企業について情報を収集し、調査するための手法について学ぶ。 (3) さらに深い分析を実施するためにはどのような領域での知識が必要であるかを体感し、さらなる学習に対するモチベーションをもつ。 (4) 自分の意見を明確にプレゼンテーションする機会をできるだけ多くあたえる。 プレゼンテーション・スキルを向上させ、発表することに対する抵抗感を取り除く。プレゼンテーションの際に頻繁に使われるツールであるパワーポイントの使い方について習熟する。 (5) グループ・ワークを通じて、チームでの学習活動において各自がどのような貢献が果たせるか、果たすべきかを理解する。 (6) ディスカッションの技術を向上させる。適切な質問・回答の方法とはどのようなものかが分かるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	個別オリエンテーション 講義の進め方の説明とグループ分け 研究倫理について パワーポイントによる個人発表実習(1)		
	【予習】個人発表実習のコンテンツを準備しておくこと。リーフレットの読み込み。 【復習】自分の発表の長所短所を整理しておくこと。	60	
第3回	パワーポイントによる個人発表実習(2)		
	【予習】個人発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】自分の発表の長所短所を整理しておくこと。	60	

第4回	パワーポイントによる個人発表実習(3) + 全体評価・まとめ	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所をしておくこと。	60
第5回	身近な題材を扱ったグループ発表実習(1)	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所をしておくこと。	60
第6回	身近な題材を扱ったグループ発表実習(2)	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第7回	身近な題材を扱ったグループ発表実習(3)	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第8回	身近な題材を扱ったグループ発表実習(4) + 全体評価・まとめ	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第9回	ビジネスモデルの提案(1)	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60

第10回	ビジネスモデルの提案(2)	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第11回	ビジネスモデルの提案(3)+全体評価・まとめ	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第12回	ビジネスモデルの提案(3)+全体評価・まとめ	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第13回	総合演習（前半）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第14回	総合演習（後半）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第15回	全体のまとめ 企業経営を学ぶ意味	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60

授業の方法

主として個人またはグループ・ワークでのプレゼンテーション作成と報告、それに対するディスカッションという形で講義が行われます。プレゼンテーションの際には、パワーポイントというソフトウェアを利用します。必要におうじて、解説・講義の時間をもうけます。

成績評価の方法

成績評価は、クラス（グループワーク）に対する各参加者の貢献度にもとづいて行います。ゼミナール（演習）形式の講義なので、受講者側の積極的な取り組みを前提とします。
平常点70%（個人30%＋グループ点20%）、レポート課題30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度で総合的に評価します。
①発表内容がしっかり準備されたものであったか。
②表現スキルが身に付いているか。
③グループに対する貢献がじゅうぶんなされていたか。
④クラス全体に対する貢献がじゅうぶんなされていたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。
必要な場合は、指示します。

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知します。
連絡先：kito@econ.seikei.ac.jp

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <103>		
教員名	伊藤 公哉		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
フレッシュャーズ・セミナーでは、今後、大学生・社会人として必要とされる基礎的な情報収集、整理・分析、プレゼンテーションの一通りの手法を身に付けることを目的とします。 この授業では、経営や経済に関する時事テーマ（たとえば、企業の新商品や企業経営等に関するホットなトピックス）を扱い、みなさんが企業や経済に関心をもつきっかけとして、また、将来的な就職活動やキャリアデザインの役に立つ授業を目指します。			
到達目標			
DP 1（教養の修得）、2（課題の発見と解決）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の点を到達目標とします。			
① インターネットや図書館の利用を通じた適切な情報収集の手法を修得する。			
② 収集した情報を目的に応じて整理・分析することができる。			
③ Power Pointを用いた効果的なプレゼンテーションの技法を修得する。			
④ 役割分担や信頼関係の構築によりチームワークの作業を気持ちよく進めることができる。			
⑤ チームワークやディスカッションを通じて多様な価値観の存在を認識する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】 情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	ガイダンス（進め方についての説明など） 他己紹介		
	【予習】 簡単な自己紹介を考えておく（簡単なメモ等を用意しておくとい）	30	
第3回	Power Pointを用いた効果的な資料の作成方法を学ぶ。チームごとにメンバー紹介のプレゼン資料（スライド）をPower Pointを用いて作成する（グループワーク）。		
	【復習】 次々回のプレゼンに向けてPower Pointの準備をしておく。アニメーション機能などを効果的に利用した演出があると望ましい。また、趣味や特技などの情報を含め、聞き手が退屈しないように工夫をすとなおよい。	60	

第4回	前回到引続き、チーム毎にプレゼン資料（スライド）をPower Pointを用いて作成する（グループワーク）。	
	【復習】 次々回のプレゼンに向けてPower Pointの準備をしておく。アニメーション機能などを効果的に利用した演出があると望ましい。また、趣味や特技などの情報を含め、聞き手が退屈しないように工夫をすとなおよい。	60
第5回	Power Pointを用いたプレゼンテーション技法を学ぶ。Power Pointでプレゼンテーションを行う。	
	【復習】 フィードバックや他チームの演出などを参考にスライドの手直しをしてPortalで提出する。	60
第6回	Googleや大学の各種データベースを利用して興味のある時事テーマ（分野や内容は自由）についてリサーチを行い、分かりやすくまとめる（個人ワーク）。	
	【復習】 図書館等を利用して、リサーチを深め、分かりやすくPower Pointにまとめ、次回のプレゼンに備える。	60
第7回	Power Pointで、興味のあることについて調べた結果を分かりやすく発表する。	
	【復習】 図書館等を利用して、リサーチを深め、分かりやすくPower Pointにまとめ、プレゼンに備える。	60
第8回	教員が指定する時事テーマ（たとえば日本経済新聞で報道されている経済、産業、新商品、企業経営等に関するホットなトピック）について、チームでリサーチして分かりやすくまとめる（グループワーク）	
	【復習】 図書館等を利用して、リサーチを深め、分かりやすくPower Pointにまとめ、プレゼンに備える。	60
第9回	各チームでリサーチしたことについてプレゼンを行い、また全体でディスカッションを行う。	
	【復習】 フィードバックや他の人の演出などを参考にスライドの手直しをしてPortalで提出する。	60

第10回	前回到引続き、チーム毎のプレゼンと、全体でのディスカッションを行う。	
	【復習】 フィードバックや他の人の演出などを参考にスライドの手直しをしてPortalで提出する。	60
第11回	興味がある業界について、チームでリサーチをして分かりやすくまとめる（グループワーク）。	
	【復習】 図書館等を利用して、リサーチを深め、分かりやすくPower Pointにまとめ、プレゼンに備える。	60
第12回	前回到引続き、チームごとにリサーチを行う。	
	【復習】 図書館等を利用して、リサーチを深め、分かりやすくPower Pointにまとめ、プレゼンに備える。	60
第13回	各チームでリサーチしたことについてプレゼンを行い、また、その業界の将来性等を含めたディスカッションを全体で行う。	
	【復習】 フィードバックや他の人の演出などを参考にスライドの手直しをしてPortalで提出する。	60
第14回	前回到引続き、チーム毎のプレゼンと、全体でのディスカッションを行う。	
	【復習】 フィードバックや他の人の演出などを参考にスライドの手直しをしてPortalで提出する。また、レポートを作成してPortalで提出する。	60
第15回	まとめと振り返り。今後の学修に向けた取組みについてのインプリケーションを得る。	
	【復習】 授業の振り返りを行い、今後の学修につなげる。	60

授業の方法

グループワーク、個人ワーク、ディスカッション等が中心になります。

成績評価の方法

平常点（グループワークへの貢献や発言など70%）及び課題の評価（プレゼンテーション資料等30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① インターネットや図書館の利用を通じた適切な情報収集の手法を修得する。
- ② 収集した情報を目的に応じて整理・分析することができる。
- ③ Power Pointを用いた効果的なプレゼンテーションの技法を修得する。
- ④ 役割分担や信頼関係の構築によりチーム単位の作業を気持ちよく進めることができる。
- ⑤ チームワークやディスカッションを通じて多様な価値観の存在を認識する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。

テキスト

とくにありません。また、必要に応じて、レジュメを配布します。

参考書

必要に応じて、適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <104>		
教員名	井上 慶太		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
<日本の魅力をPRする方法について考えてみよう> 大学の学修では、自分の問題関心に沿って調査を企画・実施し、その成果をほかのヒトに発表することや、レポートとしてまとめることが様々な場面で求められます。調査の経験を積む中で「自分なりに考える力」、「情報を見極める力」、「ほかのヒトと協力し合う力」、「ヒトに伝える力」を身につけておくと、授業だけでなく、就職活動や卒業後にも役立つでしょう。 本セミナーでは、これからみなさんが4年間学ぶために必要な調査のスキルについて一緒に学びます。具体的には、つぎの3部構成で進めます。 パート1：調査の基本について学ぶ 個人やグループで調査を行うための方法について4つのステップで学びます。 ・調べたいテーマや課題の設定。 ・大学図書館のデータベースを使った文献の検索と収集。 ・集めた情報の整理と分析。 ・発表資料やレポートの作成。 パート2：グループで調査する 外国人旅行者に日本の魅力をPRする方法について、各グループで課題を設定して調査します。 パート3：調査の結果をまとめる 調査の結果についてグループごとのプレゼンテーションとクラス全体でのディスカッションを行います。最終発表の後、プレゼンテーションとディスカッションでわかったことや今後の課題についてレポートを作成します。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するために、つぎの5つの点を到達目標として学修します。			
①調査の目的と課題を明確に設定できる。 ②大学図書館のデータベースを用いて適切な情報を収集し、整理・分析できる。 ③役割分担や信頼関係の構築によりグループワークを気持ちよく進めることができる。 ④調査の結果について説得力のある発表ができる。 ⑤自分が伝えたいことをわかりやすく説明するとともに、ほかのヒトの多様な考え方を理解することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】 ・情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】 ・ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120
第2回	本セミナーの進め方 ・セミナーの進め方、予習・復習のし方を説明する。 ・受講者による自己紹介。		
	【予習】 ・簡単な自己紹介（氏名、出身地、趣味、このゼミで身につけたいことなど）を考えておく。		60
第3回	調査の基本 ・調査の基本的な考え方について理解する。 ・事前に調べた記事についてグループ内で紹介し合う。 ・グループで調べたいトピックについて話し合う。		
	【予習】 ・配布資料を読んで、自分の考え、疑問点をまとめる。 ・興味のある記事を1つ取りあげて、どのようなことが書かれているのか要点を整理する。 【復習】 ・調査の基本的な考え方について説明できるように整理しておく。		90

第4回	情報の調べ方 ・調査に必要な情報の検索と収集の方法を修得する。 ・文献リストの作り方を修得する。 ・大学図書館のデータベースの利用方法を修得する。 ・グループで調べたいトピックのキーワードを整理する。	
	【予習】 ・配布資料を読んで、自分の考え、疑問点をまとめる。 【復習】 ・グループで調べたいトピックに関連する図書や記事を2～3件あげ、文献リストを作成する。	90
第5回	情報の分析、調査結果のまとめ方 ・集めた情報を使った課題の分析や説明の方法を修得する。 ・レポートやプレゼンテーションの作成方法（議論の組み立て方）について修得する。	
	【予習】 ・配布資料を読んで、自分の考え、疑問点をまとめる。 【復習】 ・サンプルの文献を使って、今回学んだレポートの組み立て方がどのように取りいれられているのかを考える。	90
第6回	グループワーク①（課題設定） ・外国人旅行者を増やすための方法について、グループでアイデアを整理し、課題を設定する。 ・課題に答えるためにどのような情報が必要なのかを整理する。	
	【予習】 ・グループで話し合えるトピックを5つほど考えてくる。 【復習】 ・使いたいデータベースの利用方法を再度確認する。 ・調査ノートを作成する。	90
第7回	グループワーク①（情報の収集と検討） ・情報の収集、集めた情報の分析。 ・分析した結果をまとめる。	
	【予習】 ・データベースを使って情報を集める。 【復習】 ・分析の結果を調査ノートに記録する。	120
第8回	グループワーク①（調査のまとめ） ・発表の準備（資料の作成、プレゼンテーションの練習）を行う。	
	【予習】 ・調査ノートを確認し、発表資料の構成を考える。 【復習】 ・発表の準備（資料の作成、プレゼンテーションの練習）を行う。	120
第9回	中間発表（前半） ・グループごとの発表とクラス全体でのディスカッションを行う。	
	【予習】 ・発表にむけて準備する。 ・発表担当以外のグループは、発表するグループの資料を確認して疑問点を整理する。 【復習】 ・ほかのグループの発表や、指摘を受けた点をもとに、さらに調査する事項を考える。	120

第10回	中間発表（後半） ・前回に続き、グループごとの発表とクラス全体でのディスカッションを行う。	
	【予習】 ・発表にむけて準備する。 ・発表担当以外のグループは、発表するグループの資料を確認して疑問点を整理する。 【復習】 ・ほかのグループの発表や、指摘をうけた点をもとに、さらに調査する事項を考えて調査ノートに記録する。	120
第11回	グループワーク②（追加の情報収集と分析） ・グループ発表で指摘をうけた点をもとに、追加で情報を収集する。 ・追加の調査で得た情報を整理、分析する。	
	【予習】 ・調査ノートを見直し、どのような情報が必要か確認する。 【復習】 ・追加の調査でわかったことを調査ノートに記録する。	120
第12回	グループワーク②（最終発表にむけた準備） ・最終発表にむけた準備（資料の作成、プレゼンテーションの練習）を行う。	
	【予習】 ・調査ノートを確認し、発表資料の構成を考える。 【復習】 ・発表の準備（資料の作成、プレゼンテーションの練習）を行う。	120
第13回	最終発表（前半） ・グループごとの発表とクラス全体でのディスカッションを行う。	
	【予習】 ・発表にむけて準備する。 ・発表担当以外のグループは、発表するグループの資料を確認して疑問点を整理する。 【復習】 ・最終発表とディスカッションでわかったことや今後の課題について、各グループでレポートを作成する。	120
第14回	最終発表（後半） ・前回に続き、グループごとの発表とクラス全体でのディスカッションを行う。	
	【予習】 ・発表にむけて準備する。 ・発表担当以外のグループは、発表するグループの資料を確認して疑問点を整理する。 【復習】 ・最終発表とディスカッションでわかったことや今後の課題について、各グループでレポートを作成する。	120
第15回	まとめ 授業全体の振り返りを行う。	
	【復習】 ・授業を振り返り、今後の学修に役立てたい項目を整理する。	90

授業の方法

解説や講義，個人やグループでの発表，クラス全体でのディスカッションにより授業を進めます。

成績評価の方法

授業への積極的な参加と課題への取り組みについて総合的に評価します。

授業への積極的な参加（グループワークとディスカッションでの貢献度，コメントシートの記入内容）：20%

課題への取り組み（プレゼンテーションとレポートの内容）：80%

※病気などやむを得ない理由で休む場合は，必ず事前に担当教員へ連絡してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

つぎの4つの項目について到達度を評価します。

- ① プレゼンテーションやレポートの内容が授業で学んだ事項に沿って十分準備されたものであったか。
- ② 自分の伝えたいことを説明するスキルが身についているか。
- ③ グループに十分貢献できているか。
- ④ ディスカッションを通じてクラス全体に十分貢献できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識はとくにありません。

個人やグループで課題を発見し解決する力の修得に重点をおきますので，新聞記事などを通じて社会で起きている問題に注意する習慣をつけることと，準備学修に積極的に取り組むことが重要です。

大学で学ぶために必要な力を身につけたいという意欲をもつみなさんはぜひトライしてください。

テキスト

佐藤望（2012）『アカデミックスキルズ：大学生のための知的技法入門（第2版）』慶応義塾大学出版会。

※第2回の授業を受講した後に購入してください。

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <105>		
教員名	井上 潔司		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
少人数のゼミ形式で、今後4年間成蹊大学で学んでいくための動機付けとなる科目であり、大学での勉強とはどのようなものかを、教員との対話を通して学ぶ。図書館の利用などの情報入手法、レジュメやレポートの書き方、発表の仕方など、大学での学習を進めていくにあたって必要不可欠な技法の基礎を身につけさせることも目標とする。全学共通の科目名で開講される必修科目であり、成蹊大学における導入教育のコアとして位置付けられるものである。 近年、社会のいたるところでデータの入手が可能なものとなっており、同時にデータに関する正確な理解、その的確な解析方法の習得もあわせて要求されています。皆さんの大学生活においても、有益な情報を得る技術とそれらをまとめ、発信する能力が当然のように要求されます。本授業では、与えられた課題を通して、課題解決に必要な情報を入手し、それらを整理した形で分かりやすくプレゼンし、最終的にはレポートにまとめ上げるまでを体系的に学びます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。			
・メディア機器の扱いを修得する。 ・データの整理方法を学ぶ。 ・グループワークを通して議論の仕方を学ぶ。 ・様々なプレゼン方法を習得する。 ・適格な情報収集を行い、プレゼンテーションまでの流れを理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	授業方針 ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・授業を進めていく上での基本的な方針を説明する。 ・班分け。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。	60分	
第3回	Power Pointの使い方を学ぶ ・自己紹介スライド作成。 ・自分について周囲に説明する。		
	【予習】Power Pointの基本操作について理解しておく。 【復習】スライド作成手順を理解する。	90分	

第4回	Excel の使い方を学ぶ ・ グラフ作成の手順。 ・ データの整理方法。	
	【予習】 Excel関数の扱いについて理解しておく。 【復習】 Excelを用いたグラフ作成手順を確認する。	90分
第5回	課題 1 の提示 ・ データ分析による課題解決。 ・ グループディスカッションを通してのデータ整理。	
	【予習】 班ごとに役割分担を決め、問題解決する。 【復習】 班の中で問題点を共有する。	90分
第6回	課題 1 に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第7回	課題 1 に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第8回	データのまとめ方を学ぶ ・ データを表にまとめる。 ・ データの代表値を導出する。	
	【予習】 データ分析の手順について理解しておく。 【復習】 データ分析結果の読み取りを理解する。	90分
第9回	課題 2 の提示 ・ データ分析による課題解決。 ・ グループディスカッションを通してのデータ整理。	
	【予習】 班ごとに役割分担を決め、問題解決する。 【復習】 班の中で問題点を共有する。	90分

第10回	課題2に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第11回	課題2に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第12回	課題3の提示 ・ 業界分析の基本を学ぶ。 ・ 業界を代表するデータの分析、まとめ方を学ぶ。 ・ 今まで習ったことを使った問題解決	
	【予習】 課題の内容について理解しておく。 【復習】 問題点について班員と話し合い、作業手順を確認する。	90分
第13回	課題3に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。 ・ レポート作成	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第14回	課題3に対するプレゼン ・ 班ごとの分析結果を報告する。 ・ 報告に対する質疑応答と総括。 ・ レポート作成	
	【予習】 プレゼンに向けてメンバーとの打合せをしておく。 【復習】 プレゼン後の改善点をメンバーと確認する。	90分
第15回	まとめ等 ・ 授業のまとめ	
	【復習】 この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60分

授業の方法

グループ活動を中心に様々な内容を議論します。グループは各課題ごとに変更する予定です。各テーマは当日説明します。課題が与えられたときから、グループ内で意見交換をすること。

成績評価の方法

授業への参加状況（40%）＋平常点（30%）＋最終レポート（30%）で評価します。
平常点は授業中だけでなく多面的に判断します。授業への積極性を重要視します。
欠席や遅刻は減点対象となります。
詳細については初回のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標

- ・議論を通して問題の発見ができているか。
- ・相手にわかりやすいプレゼンテーションができるか。
- ・他人の考え方にコメントできるかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Word、Excel、Power Point の知識があることが望ましい。

テキスト

授業内で随時紹介します。

参考書

授業内で随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <106>		
教員名	井上 智夫		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

テーマ：長寿社会の生き方を考える

人類がいまだ経験したことのない規模での「長寿社会」に日本社会は突入しています。そこでは、我々の生き方や働き方はどのように変化するのでしょうか。本演習ではビジネス書「Life Shift」を参考にしつつ、来るべき社会の変化（「AIやIoTが我々の生活と仕事をどのように変えていくのか」「低金利や年金制度に不安がある状況でどのように資産形成するか」など）を調査し、いま準備すべきことは何かを議論します。また株式学習ゲームを利用して、株価変動と現実の経済・社会との関係についても学びます。

なお、以下の授業の計画・内容は、授業の進捗によって一部変更する場合があります。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。

- ①課題を発見し、その解決に必要な情報を収集することができる
- ②成果をレポートやプレゼン資料の形式にまとめることができる
- ③成果を口頭報告し、適切に質疑応答をすることができる
- ④グループワークやディスカッションを通じて意見交換の方法を学び、また多様な価値観の存在を認識する

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について	
	・情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 ・ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	90
第2回	オリエンテーション ・自己紹介 長寿社会（1章）について ・新聞記事などをもとにディスカッションする	
	【予習】序章と1章を熟読する 【復習】指定された課題に取り組む。	90
第3回	課題1:資産運用について ・株式投資、株価を動かす要因などについて学ぶ	
	【予習】配布資料を熟読し、要点を整理する 【復習】指定された課題に取り組む。	90

第4回	課題1:資産運用について ・グループを決定 ・調査にもとづいて投資する企業を決定	
	【予習】配布資料を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第5回	課題2:教育・仕事・引退モデルの崩壊(2章) ・3人(現在75歳, 50歳, 20歳)の典型的な人生を概観する 課題1にかかわるグループ報告 ・投資先を選んだ理由を報告	
	【予習】2章を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第6回	課題2:教育・仕事・引退モデルの崩壊(2章) ・3人の時代背景をグループで調査し、報告する	
	【予習】2章を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第7回	課題1にかかわるグループ報告 ・運用状況の報告と投資先を変更した理由を報告 課題2:AIで雇用の未来はどう変わる(3章) ・AIやIoTがもたらす変化を概観する	
	【予習】3章を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第8回	課題2:AIで雇用の未来はどう変わる(3章) ・将来の雇用に影響を与えそうな新技術をグループで調査し、報告する	
	【予習】3章を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第9回	課題1にかかわるグループ報告 ・運用状況の報告と投資先を変更した理由を報告	
	【予習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。 【復習】指定された課題に取り組む。	90

第10回	課題3：資産運用について(1) ・株価を動かす要因について整理する	
	【予習】配布資料を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第11回	課題1にかかわるグループ報告 ・運用状況の報告と投資先を変更した理由を報告 課題3：資産運用について(2) ・情報の収集方法について考える	
	【予習】指定された資料を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第12回	課題3：資産運用について(3) ・財務情報の見方について考える	
	【予習】配布資料を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第13回	課題1にかかわるグループ報告 ・運用状況の報告と投資先を変更した理由を報告 課題3：資産運用について(4) ・投資指標・経営指標について理解する	
	【予習】指定された資料を熟読し、要点を整理。 【復習】指定された課題に取り組む。グループ発表の準備をする。	90
第14回	グループワーク ・プレゼンテーション資料を作成する。	
	【予習】プレゼンテーションの準備に取り組む 【復習】プレゼンテーションの準備に取り組む	90
第15回	最終プレゼンテーション ・グループワークの成果を発表し、メンバー全員でディスカッションする。	
	【予習】プレゼンテーションの準備に取り組む 【復習】発表内容へのコメントを書く	90

授業の方法

授業では講義とディスカッション、ほぼ毎回、グループ報告を行う。

成績評価の方法

報告（報告担当箇所と最終プレゼン）30%、平常点（出席、授業への参加、感想レポートとコメント）70%.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①課題を発見し、その解決に必要な情報を収集することができる
- ②成果をレポートやプレゼン資料の形式にまとめることができる
- ③成果を口頭報告し、適切に質疑応答をすることができる
- ④グループワークやディスカッションを通じて意見交換の方法を学び、また多様な価値観の存在を認識できる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし

参考書

リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 『Life Shift 100年時代の人生戦略』 東洋経済新報社, ISBN 978-4-492-53387-1, 1800円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <107>		
教員名	内田 雄貴		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本演習では、日本経済の歴史を踏まえた上で、現在存在する問題点およびその解決策について考えていきます。まず、文献の輪読を行い、日本経済の歴史および現状について学習します。次に、グループ作業を通じて、日本経済における問題点を見つけ、その解決策について検討します。なお、授業の進捗状況に応じ、内容を一部変更する場合があります。			
到達目標			
D P 1（教養の修得）、D P 2（課題の発見と解決）、D P 4（自発性、積極性）、D P 5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とします。 ・日本経済の歴史・現状について理解する。 ・パワーポイントなどを用いて、資料を作成し、論理的に報告する。 ・積極的に議論に参加する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	オリエンテーション		
	授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。	60	
第3回	基本文献の輪読（1）		
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする。	60	

第4回	基本文献の輪読（2）	
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする。	60
第5回	基本文献の輪読（3）	
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする。	60
第6回	基本文献の輪読（4）	
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする。	60
第7回	基本文献の輪読（5）	
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする。	60
第8回	基本文献の輪読（6）	
	文献の該当箇所を読む。報告者は発表の準備をする	60
第9回	グループ作業（1）	
	調査テーマを決める。調査テーマに基づき、グループごとに作業を行う。	60

第10回	グループ作業（2）	
	調査テーマに基づき、グループごとに作業を行う。	60
第11回	グループ作業（3）	
	調査テーマに基づき、グループごとに作業を行う。	60
第12回	中間報告	
	中間報告に向けて調査結果をまとめる。	60
第13回	グループ作業（4）	
	調査テーマに基づき、グループごとに作業を行う。	60
第14回	グループ作業（5）	
	調査テーマに基づき、グループごとに作業を行う。	60
第15回	最終報告	
	最終報告に向けて調査結果をまとめる。	60

授業の方法

輪読およびグループ作業によって授業を進めていきます。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況、議論への貢献）30%、報告30%、課題40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

『日本経済入門（日経文庫）』、藤井彰夫、日本経済新聞出版社

参考書

適宜紹介

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <108>		
教員名	エヴァン ピーター ダニエル		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
Theme: "Dividing and Understanding the World" Human beings understand things by dividing things. We like to separate people, places and things into understandable groups. Some of these divisions seem very natural, but all of them are based, at least in part, by our own beliefs and assumptions. These in turn influence the beliefs and assumptions of others. In this class, we will look at some of the ways that people and cultures are decided and organised around the world. You will take part in discussions designed to help you understand your own assumptions about the world, and how some of them might be useful, and others harmful. At the same time, you will have a chance to practice critical thinking and research skills.			
到達目標			
DP1 (教養の習得)、DP2 (課題の発見と解決)、DP3 (他者との協働)、DP4 (自発性、積極性)、DP5 (表現力、発信力)、を実現するため、次の点を到達目標とします。 Upon completion of this course, you should: a) have a basic understanding of the issues of globalisation and international society b) be able to express your views in short group presentations c) be able to conduct your own research and write a short research report			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	共通ガイダンス (フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き) 研究倫理について		
	情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120
第2回	The Power of Maps		
	Read through the handouts and complete the homework		60 min.
第3回	The Power of Nature		
	Read through the handouts and complete the homework		60 min.

第4回	The Power of Language	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第5回	The Power of Language	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第6回	How to Give an Effective Presentation	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第7回	Midterm Projects	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第8回	Midterm Projects	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第9回	The Power of Race, Ethnicity and Nationality	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

第10回	The Power of Religion	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第11回	The Power of Information	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第12回	Doing Research in the Field, the Library and Online	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第13回	Writing Effective Research Reports	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第14回	Writing Effective Research Reports	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.
第15回	Final Projects and Evaluation	
	Read through the handouts and complete the homework	60 min.

授業の方法

The class will consist of short (15-20 min.) presentations in English, with a Japanese summary. This will be followed by group discussion in English and/or Japanese. You will also work on short group projects in class every week. Group projects can be done in either English or Japanese, but you will be encouraged to submit your midterm and final projects in English, if possible. Homework will include reading handouts and online material in English and Japanese, and preparing for group discussion and projects.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Participation: 60%

Midterm project: 20%

Final project: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

You don't need to speak English to take this course, and it will be possible to submit all your work in Japanese, if necessary. However, you will be looking at international issues, and will be encouraged to use English sources and to express your opinions in English as much as possible.

テキスト

There is no assigned textbook.

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <109>		
教員名	太西 雅一郎		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
ヨーロッパに直接、間接、関係のある事柄、たとえば国ごとに特色のある文化や歴史、習慣や言語の多様性、社会や経済のありかた、人々のメンタリティ、異なった社会制度や、変化しつつある環境意識や、対立することもある歴史意識の違い、またアクチュアルな時事問題などについて、自分の興味関心にしたがって深く調べ、最終的にレポートを作成することを目的とする授業です。			
到達目標			
D P 1（教養の修得）パターン化された理解を超えた、ヨーロッパに関する基本的知識を得る。 D P 2（課題の発見と解決）グローバルな視点を確保したうえで課題を探り解決を目指す。 D P 3（他者との協働）多様な文化、環境、状況のもとで、多様な価値観を理解し他者を思いやり、他者の意思や感情を的確に理解する。 D P 4（自発性、積極性）積極的に資料を収集し、自発的に問題の背景や解決策について知的・実践的に考える。 D P 5（表現力、発信力）継続的に将来の人生設計の基礎作りに活かすスキルを修得する。 そして多様な異文化の上に立ち、相対化した視点から総合的に問題を論じる力を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120分
第2回	ヨーロッパについてイメージの確認。 前半は、一人ずつ、興味のある国を選び、一般的特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（1）。		
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。		120分
第3回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（2）。		
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。		120分

第4回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的な特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（3）。	
	論ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。	120分
第5回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的な特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（4）。	
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。	120分
第6回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的な特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（5）。	
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。	120分
第7回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的な特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（6）。	
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。	120分
第8回	一人ずつ、興味のある国を選び、一般的な特徴を紹介する。発表は一人20分程度。発表および発表へのリアクションをメモとして提出する（7）。	
	ヨーロッパについての一般的イメージの確認とそれへの問い直しをおこなう。	120分
第9回	後半は、各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表をおこなう。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。（1）	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考える。	120分

第10回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表をおこなう。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(2)	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考える。	120分
第11回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表を行う。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(3)	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考えたうえで、論文完成に向けて説得的な文章表現を練り上げる。	120分
第12回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表を行う。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(4)	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考えたうえで、論文完成に向けて説得的な文章表現を練り上げる。	120分
第13回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表をおこなう。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(5)	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考えたうえで、論文完成に向けて説得的な文章表現を練り上げる。	120分
第14回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表をおこなう。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(6)	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考えたうえで、論文完成に向けて説得的な文章表現を練り上げる。	120分
第15回	各自が積極的に問題意識をもって、ヨーロッパに関するテーマを決定し、より掘り下げた発表をおこなう。関連する書物・資料を用いてその内容を紹介する形で、自分で選んだテーマについて説明をおこなう。 個人発表でもグループでの発表でもかまわない。 一人30分程度での発表とする。 他の学生は発表内容をメモし提出する。(7) 後半の成果をレポートとして提出する。	
	論文作成への準備作業をもとに論理構成などを考えたうえで、論文完成に向けて説得的な文章表現を練り上げる。	120分

授業の方法

前半での個人発表と、後半でのグループないし個人発表とからなる。出席者は発表内容をメモし、疑問点なども記載する。前半では一般的な理解の確認、後半では問題の掘り下げをおこない、批判的視点からの説明を発表することとする。

成績評価の方法

毎回のメモ提出（45%）。
前半の個人発表（20%）。
後半の発表と発表のレポート提出（35%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

異文化理解A,B
ヨーロッパ地域理解

テキスト

特になし。

参考書

随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <110>		
教員名	川越 俊彦		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

★地球環境問題を学ぶ★
 様々な関連するニュースが流れない日がないほど地球環境問題は政治・経済・社会・ビジネスの場で重要となってきています。例えば、企業もその投資に当たって環境への配慮が求められるようになってきているのです。本授業ではこの地球環境問題を手掛かりに、大学での学び方を学修します。具体的には、資料の読み方や、与えられた課題に答えるための調査・分析・レポート作成方法の基礎を体験的に学びます。目標は、4年間の大学生活を通じて、自ら課題を発見し、発信できるようになることです。

到達目標

DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①自ら表現し、発信するために、レポート作成、データ集計・分析、プレゼンテーションおこなうことができる。
- ②課題の発見と解決のため、図書館を利用して文献調査ができる。
- ③自発的、積極的に自ら発見した課題に取り組む姿勢が身についている。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	共通ガイダンス (フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き)	
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120
第2回	オリエンテーション ・授業の方法、計画について。 研究倫理講習 ・研究倫理について学ぶ。	
	【復習】授業の運営方法や計画を復習し、その内容を理解しておく。	60
第3回	図書館オリエンテーション □ 図書館を利用した資料収集について。	
	【予習】図書館の利用方法を予習しておく。 【復習】講習内容を復習し、内容を十分に理解しておく。	60

第4回	テキストの輪読1（環境問題と地球温暖化） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ 課題の設定	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60
第5回	テキストの輪読2（地球温暖化の影響） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ 資料の収集	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60
第6回	テキストの輪読3（環境とエネルギー） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ 資料の収集・分析	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60
第7回	テキストの輪読4（リサイクルと環境問題） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ 中間報告1	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60
第8回	テキストの輪読5（地球温暖化への取り組み） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ 中間報告2	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60
第9回	テキストの輪読6（環境とビジネス） ☐ テキストの報告とディスカッション 課題のためのグループワーク ☐ プレゼンテーション準備	
	【予習】担当者：テキストの内容を、十分に説明できるよう準備する。全員：テキストに目を通して疑問点を整理しておく。 【復習】今回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。	60

第10回	最終報告のための検討会 □プレゼンテーション資料を完成させる。	
	【予習】 報告テーマの選定に向けて整理しておく。 【復習】 選定したテーマに関して資料の収集等、準備を始める。	60
第11回	研究レポート作成方法 □研究レポートの作成方法について（研究倫理を含む）	
	【予習】 資料に目を通しておく。 【復習】 授業で学んだ内容を復習し理解を深めておく。	60
第12回	プレゼンテーション準備 □プレゼンテーションに向けて最終調整を行なう。	
	【予習】 プレゼンテーション準備 【復習】 プレゼンテーション最終調整	60
第13回	プレゼンテーション1	
	【予習】 プレゼンテーション準備 【復習】 プレゼンテーションのレビューを行う。	60
第14回	プレゼンテーション2	
	【予習】 プレゼンテーション準備 【復習】 プレゼンテーションのレビューを行う。	60
第15回	レビュー プレゼンテーションのレビューとセルフ・レビュー	
	【予習】 グループ・プレゼンテーションの結果を整理しておく。 【復習】 プレゼンテーション、レビューの結果を踏まえ、レポートを作成する。	60

授業の方法

テキストの輪読（担当者による報告とディスカッション）、「地球環境問題」をテーマとした課題に取り組み、その成果をPowerPointを用いてプレゼンテーションし、またレビューをおこないます。最後に、プレゼンテーション内容を簡単な研究レポートにまとめます。なお、施設の空き状況等により、日程変更や内容の一部変更もあります。

成績評価の方法

出席を前提に、平常点（ディスカッションへの参加、グループワークへの貢献等）、課題作業（プレゼンテーション、レポート）により多角的に評価します。定期試験は実施しません。なお、評価のウェイトは平常点、課題作業それぞれ50%を目安とします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① 与えられたテーマについて自分の言葉で説明することができる。
- ② 図書館を利用して資料の収集ができる。
- ③ 自ら発見した課題を調査・分析し、自分の言葉でプレゼンテーションできる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

三菱総合研究所環境・エネルギー研究本部 編、『Q & A 環境問題50』、日本経済新聞出版社、ISBN-10: 4532316553、1,620円

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <111>		
教員名	庄司 俊章		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

【教養としての経済学を身につける】
社会経済を取り巻く環境は時々刻々と変化を続け、新たな問いを私たちに投げかけています。最近、米国と中国が貿易摩擦を起こしているのはなぜでしょうか。ごく一部の富裕層に資産が集中し、格差が生まれているのはどうしてでしょうか。Amazonがどんどん成長する一方で、街中の書店や小売店が苦境に立たされていることは、果たして問題でしょうか。この授業ではまず、テキストの輪読を通して、こうした問いに対する考え方を学びます。次に、自分の考えを他人にわかりやすく伝えるためのスキルを習得します。

到達目標

DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）、を実現するため、次の点を到達目標とします。
1. 様々な社会経済問題に対し、自分なりの考えを持てるようになる。
2. 自分の考えをもとに、必要な資料やデータを収集・分析できるようになる。
3. 自分の考えとその根拠を、レポートやプレゼンテーションの形で表現できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き）研究倫理について	
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120
第2回	オリエンテーション ・授業の方法、計画について説明する。	
	【復習】授業の内容を再確認する。	90
第3回	図書館オリエンテーション ・図書館を利用して資料収集する方法を学ぶ。	
	【復習】授業の内容を再確認する。	90

第4回	テキスト輪読1（貿易摩擦） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第5回	テキスト輪読2（日本の財政） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第6回	テキスト輪読3（格差とは？） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第7回	テキスト輪読4（腎臓移植とマーケットデザイン） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第8回	テキスト輪読5（自由な競争） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第9回	テキスト輪読6（数学と統計学） ・テキストの報告とディスカッション	
	【予習】担当者：テキストの内容を説明できるように発表準備をする。全員：テキストに目を通す。 【復習】授業の内容を再確認する。	90

第10回	最終報告のための準備 1 ・ 時事問題やテキスト内容をもとに、最終報告するテーマを選択する。	
	【復習】授業の内容を再確認する。	90
第11回	最終報告のための準備 2 ・ 最終報告テーマに関する資料・データを収集する。	
	【復習】授業の内容を再確認する。	90
第12回	レポート作成方法 ・ 研究レポートの作成方法を学ぶ。	
	【復習】授業の内容を再確認する。	90
第13回	プレゼンテーション 1	
	【予習】プレゼンテーションを準備する。 【復習】プレゼンテーション内容を再確認する。	90
第14回	プレゼンテーション 2	
	【予習】プレゼンテーションを準備する。 【復習】プレゼンテーション内容を再確認する。	90
第15回	総括 ・ 自分のプレゼンテーションについて振り返る。 ・ 他人のプレゼンテーションの良い点・悪い点をディスカッションする。	
	【復習】プレゼンテーションとディスカッションの結果を踏まえ、最終レポートを作成する。	90

授業の方法

テキストを輪読し、担当者に内容を報告してもらい、参加者全員でディスカッションを行う。その後は各自でテーマを設定し、資料やデータを収集して自らの考えをまとめ、プレゼンテーションを行う。最後に、プレゼンテーション内容をレポートの形にまとめる。

なお、受講生の人数によっては、授業計画を一部変更する可能性がある。

成績評価の方法

平常点（出席、輪読報告、ディスカッションへの積極性）とプレゼンテーション、最終レポートに基づいて評価する。なお、評価のウェイトはそれぞれ50%、30%、20%を目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『教養としての経済学-生き抜く力を培うために』、一橋大学経済学部（編）、2013年、有斐閣。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <112>		
教員名	小林 めぐみ		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：日本文化の再発見 自国の文化とはあまりにも身近なため、かえってよく理解出来ていないことがあります。本演習では著名な日本文化論などに触れ、海外から見た日本について学んだり、異文化と比較したり、実際に調査を行ったりすることで、日本の文化を再度見直してみます。ただ一つの正解ではなく、多様なものの見方・考え方を学ぶのがねらいです。当たり前とってきた、もしくはあまり意識したことのなかった日本の社会文化を「再発見」し、これまでとは異なる角度から理解を深めていきましょう。 また、グローバル化を受けて、日本について発信する必要性がますます高まっています。学期末には「海外に紹介したい日本文化」についてペアもしくはグループで発表してもらいます。世界における相互理解を促進するため、自分の文化についてより客観的に説明する力と他文化の視点に対してより柔軟な姿勢を養ってください。			
到達目標			
DP1～5（教養の習得、課題の発見と解決、他者との協働、自発性・積極性、表現力・発信力）を養うため、以下を到達目標とする。 1. 大学生として今後必要な学習スキルの基礎（読んだ内容を簡潔にまとめる、分析・批評する、意見を言う、話し合いをする、他者と協力しながら学ぶ、リサーチをする、発表する、レポートを作成するなど）を身につける。 2. 授業で扱った日本文化のトピックを理解し、自分の意見が言える。 3. 自ら選んだ日本文化のトピックについて調査し、わかりやすく紹介・説明ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き、研究倫理について）		
	【予習】 情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	個別ガイダンス 自己紹介、事前アンケート記入		
	【復習】 シラバス、課題などの確認	60	
第3回	Topic 1 日本のイメージ リーダーの役割とグループ別話し合いの手ほどき （自由に発言、意見を言う） Leader sheetとReaction paperについて説明		
	【予習】 リーディング課題を読んでおく。 【復習】 指定された課題を実施する。	60	

第4回	Topic 2 日本語とコミュニケーションスタイル エクササイズ：質問力 発表グループ相談	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。	90
第5回	Topic 3 日本文化の特質：縮み志向（日本文化論1） 発表グループ決定	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。	90
第6回	Topic 4 日本人の発想（日本文化論2） 発表トピック決定	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。 各グループで発表の調査、準備を始める。	60
第7回	Topic 5 日本の習慣・概念（日本文化論3） 発表順序決定	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。 各グループで発表の調査、準備を行う。	60
第8回	Topic 6 日本人の精神性	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。 各グループで発表の調査、準備を行う。	60
第9回	Topic 7 日本の「若者」 ワールドカフェに挑戦	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。 各グループで発表の調査、準備を行う。	60

第10回	Topic 8 日本の芸術（漫画・アニメなど） 発表準備	
	【予習】リーディング課題を読んでおく。 【復習】指定された課題を実施する。 各グループで発表資料を準備する。	90
第11回	発表準備 資料作成、最終打ち合わせ	
	プレゼンテーションの準備を行う。	90
第12回	プレゼンテーション1 ペアもしくはグループによる発表 教員および学生間による評価	
	発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。それ以外のものは発表を振り返る。 発表終了者はレポートを書き始める。	90
第13回	プレゼンテーション2 ペアもしくはグループによる発表 教員および学生間による評価	
	発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。それ以外のものは発表を振り返る。 レポートを書き始める。	90
第14回	レポート作成 ピアレビュー	
	【予習】レポートのドラフトを作成する。 【復習】レポートを完成させる。	90
第15回	総括 授業を振り返り、各自理解度・成果を評価する 事後アンケート記入、レポート提出	
	【復習】これまでの学習を振り返り、特に習得しきれていない学習スキルの見直しをする。	60

授業の方法

1. 宿題として毎回リーディングを事前に指定するので、それを読んでもくる。授業では内容を問う小テストを行う。
 2. そのトピックをさらに掘り下げ、ペアやグループで話し合った上で、クラス全体でまとめていく。
(reaction paperも学期中2回は提出)
 3. 学習スキルもステップを踏んで導入、指導していく。
- なお、学期末には学習内容を踏まえたうえでの発表とレポートの提出が課題となります。授業時間に発表の指導と準備時間を一部確保しますが、授業外に各自で計画的に発表準備およびレポート作成に取り組んでください。
学習の進捗状況によっては一部内容を変更する場合があります。

成績評価の方法

最終成績は、授業に対する積極的な取り組み・参加態度20%、小テスト25%、リアクション・ペーパーおよびその他宿題25%、発表および期末レポート30%を基準に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。その際、授業の到達目標として掲げた項目がどの程度達成できたかに留意して評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。パワーポイントとエクセルを使用する場合があります。

テキスト

なし。プリントを配布します。

参考書

授業中適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <113>		
教員名	財城 真寿美		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
普段、私たちがなにげなく過ごしている自然環境の中には、様々な凸凹（地形や気温などの高低差）が存在します。それらを日々の生活で楽しむために、地形図や天気図を、描く・塗る・切るといった作業によって、様々な情報を読み取っていきます。また、実際に屋外に出て自然環境を見て歩いたり（巡検）、データを集めたり（観測）することも行います。最終的に、演習の過程で興味を持ったことを、各自の期末レポートの課題として設定し、さらに理解を深めてもらいます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解説）、DP4（自発性・積極性）、DP5（表現力・発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 身近な自然環境について、各々が興味をもつ事象を発見し、それに関する情報を文献などから収集をするスキルを習得する。 各自で収集した情報を考察し、レポートにまとめるスキルを習得する。 各自で収集した情報や考察を、ゼミのメンバーにわかりやすくプレゼンテーションするスキルを習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	初回共通ガイダンス内容 研究倫理について（資料配布）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120
第2回	講義ガイダンス・自己紹介		
	自己紹介の内容を考えてくること		60
第3回	東京の地形を知る①（課題1：東京の地形簡易立体模型の作成）		
	・ 授業のあとに復習し、疑問点は次回の授業時に質問して、解決すること。 ・ 終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。		60

第4回	東京の地形を知る①	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第5回	風土とフード（課題2：食の地域性に関するレポート）	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第6回	風土とフード	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第7回	東京の地形を知る②（課題3：関東地方の地形図の判読）	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第8回	東京の地形を知る②	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第9回	東京の地形を知る③（課題4：東京の「坂」に関するレポート）	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60

第10回	東京の地形を知る③	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第11回	日本の天気（課題5：天気図の作成）	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第12回	日本の天気	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第13回	ヒートアイランドと緑地の冷却効果（課題6：簡易気象観測）	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第14回	ヒートアイランドと緑地の冷却効果	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60
第15回	授業内容の再確認 課題レポートの講評	
	終わらなかった課題は、授業時間外に各自で進めておくこと。	60

授業の方法

- ・ 2 回分の講義で 1 つのテーマをとりあげ、講義（解説）をした後、課題の作業に取り組みます。時間内に仕上がらなかった課題は、各自で時間を見つけて作業をし、指定された期限内に提出してもらいます。作業は、個人の場合とグループワークの場合があります。
- ・ 課題を資料として、発表してもらうことがあります。
- ・ 作業には、ノリ・ハサミ・色鉛筆・油性マジック等を使用しますので、各自で準備してください。必要なときにアナウンスします。
- ・ Word, Excel などを利用した課題もあります。
- ・ 東京周辺の地形図（計 4 枚、1 枚 300 円程度）を各自で購入してもらいます。
- ・ 2018 年度については、休講分の授業を週末に実施するフィールドワークに振り返る予定です。

成績評価の方法

- 1) 出席状況と授業での発言・態度（40%）
なお、5 回以上欠席したものは失格（F）評価となります。
- 2) 課題・期末レポートの評価（40%）
テーマごとの課題（計 6 回の予定）＋期末レポート（1 回）を実施します。
すべての課題およびレポートの提出をもって成績評価対象の最低基準とします。
- 3) プレゼンテーションの評価（20%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の到達目標の達成度に基づいて評価する。

- ① 必要な情報を文献などから収集をするスキルを習得する。
- ② 情報を考察し、レポートにまとめるスキルを習得する。
- ③ 収集した情報や自分の考えを、ゼミのメンバーにわかりやすくプレゼンテーションするスキルを習得する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

授業中にプリントを配布する

参考書

必要に応じて指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <114>		
教員名	佐々木 大介		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
〔世界の動きを英語で知る〕 本演習では、英語のニュースを読むことで世界の動きを知り、英語力を獲得することを目的とします。楽天は2010年より、ファーストリテイリング（ユニクロ）は2012年より、それぞれ社内公用語を英語化し、この動きは拡大しています。また、武田薬品工業は、2013年4月の新卒採用から、TOEIC（＝ Test of English for International Communication、国際コミュニケーション英語能力テスト）730点以上の基準を設けています。これらが意味するところは、もはや英語ができることは企業人の「前提条件」であるといえるでしょう。 本演習では、英文の基本的な構造や構文を理解し、単語や熟語などの語彙力を増強しつつ、さまざまな英文素材に慣れることを最終的な目標としています。 本演習で扱う英文は、皆さんがどのようなものに興味があるかで決まります。さまざまな英語に触れて英語力を向上させましょう。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とします。			
1) 英語ニュースなどさまざまな英文に慣れる。 2) 英文の基本的な構造や構文を理解する。 3) 単語や熟語などの語彙力を増強する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】 情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	Orientation		
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	60	
第3回	時事英語の構造や特徴		
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	60	

第4回	英文を読む (1)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第5回	英文を読む (2)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第6回	英文を読む (3)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第7回	英文を読む (4)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第8回	英文を読む (5)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第9回	英文を読む (6)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120

第10回	英文を読む (7)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第11回	グループ・プレゼンテーション (1)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第12回	グループ・プレゼンテーション (2)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第13回	グループ・プレゼンテーション (3)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第14回	グループ・プレゼンテーション (4)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120
第15回	グループ・プレゼンテーション (5)	
	自宅学習の段階で未知の単語の意味を確認しておくこと	120

授業の方法

ハンドアウトなどを使用して時事英語の構造や特徴、英文の構造や構文などを学び、英字新聞 (The Japan Times [http://www.japantimes.co.jp/]), The Japan News by The Yomiuri Shimbun [http://the-japan-news.com/], The Asahi Shimbun Asia & Japan Watch [http://www.asahi.com/ajw/], The New York Times [http://www.nytimes.com/], The Times [http://www.thetimes.co.uk/] など) や英文雑誌 (Time [http://www.time.com/] など) のこれらのオンライン版から記事を選び、毎回の授業で読んでいきます。

本講義では既成のテキストは使用しません。講義で扱う英文は、すべて、講義日直前に掲載された最新の英文記事 (主にインターネット版) から集めたものです。最初は講師が選んで講義をしますが、中盤以降は参加する学生がそれぞれ関心のある英文記事を選び、プレゼンテーションをしてもらいます。英文記事の背景を含めて、英文記事の解説 (単語・構文の解釈、日本語訳など) をクラス内で発表していただきます。学生の参加人数によっては、グループでのプレゼンテーションを想定しています。

成績評価の方法

授業への積極的な参加 (出席を含む) : 20%

語彙テスト・小テスト : 30%

プレゼンテーション : 50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- 1) 英語ニュースなどさまざまな英文に慣れる。
- 2) 英文の基本的な構造や構文を理解する。
- 3) 単語や熟語などの語彙力を増強する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

平井正朗 (監修)・正村佳紀 (編著) (2001). 『新聞英語の読解ストラテジー—21世紀のグローバルな文化交流に備えて』. 東京: 英潮社. ISBN: 4-268-00342-8.

質問・相談方法等 (オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <115>		
教員名	鈴木 恵美子		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
-日本におけるスペインのイメージと現実- 私たちがスペインに対して抱くイメージとは何でしょうか。 情熱的で陽気な人々、闘牛、フラメンコ、太陽と真っ青な空、白壁の家々などの以前からのイメージにとどまらず、近年ではサッカーやテニスなどのスポーツでの活躍、ガウディやダリなどの芸術家、パエリアに代表されるスペイン料理の数々など実に様々な面が日本にも紹介され、私たちににとってより身近な存在になりつつあります。しかし、これでもまだスペインのほんの一部の側面にすぎないことは、受け身でなく積極的に調べてみない限り、なかなか分からないものです。外国の文化を眺めるとき、私たちはこうした型にはまった見方に陥りがちです。 本演習では、外国向けのスペインのイメージを客観的な目でとらえなおし、本当のスペインに近づく機会にしたいと思います。同時に、私たちに身近な日本の状況と比較しながら、違いや共通点を探っていきます。			
到達目標			
DP1～5(教養の習得、課題の発見と解決、他者との協働、自発性・積極性、表現力・発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。			
・外国の文化や社会の様相、日本との共通点・相違点について理解を深める。 ・情報を収集・整理し、テーマを設定する。 ・テーマについて分析や考察をおこない、レポートやプレゼンテーションにまとめる。 ・他者との共同作業や発表、意見交換によって経験や視野を広げる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き、研究倫理について）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120分	
第2回	オリエンテーション 私たちがスペインに対して抱くイメージ 身の周りの「スペイン」を探す準備		
	授業で紹介されたトピックをさらに調べ、次の授業までの課題に取り組む	60分	
第3回	日本とスペインの交流（歴史、ことばや文化の交流）		
	授業で紹介されたトピックをさらに調べ、次の授業までの課題に取り組む	60分	

第4回	スペインの地域性（中央と地方、北と南、地域の言語とアイデンティティー、人の気質）	
	授業で紹介されたトピックをさらに調べ、次の授業までの課題に取り組む	60分
第5回	身の周りのスペイン文化 調査結果発表	
	授業で紹介されたトピックをさらに調べ、自分のテーマを検討し、次の授業までの課題に取り組む	60分
第6回	食文化（パエリアだけじゃない。食と風土との関係）	
	授業で紹介されたトピックをさらに調べ、自分のテーマを検討し、次の授業までの課題に取り組む	60分
第7回	伝統文化（フラメンコや闘牛だけじゃない。地域のお祭りや風習）＋グループワーク	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	60分
第8回	新しい時代の文化・娯楽（地域とスポーツ、音楽、映画など）＋グループワーク	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	60分
第9回	グループでプレゼンテーション準備＋講義の補足(1)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分

第10回	グループでプレゼンテーション準備＋講義の補足(2)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分
第11回	プレゼンテーションとディスカッション(1)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分
第12回	プレゼンテーションとディスカッション(2)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分
第13回	プレゼンテーションとディスカッション(3)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分
第14回	プレゼンテーションとディスカッション(4)	
	自分のテーマの調査を進め、次の授業までの課題に取り組む	90分
第15回	まとめとレポート提出	
	これまでの授業やプレゼンテーションを振り返り、レポートにまとめる	90分

授業の方法

・前半は教員がスペインに関するトピックを紹介します。第6回目までに調査テーマを決めてください。

・第7～10回

テーマごとにグループを作り、プレゼンテーションとレポートの準備をします。分担を決め、4週間で完成させます。進捗状況を報告し、必要があれば教員が補足説明を行います。

・第11～14回

プレゼンテーションをします。聞き手の人たちは質問&コメントペーパーを作成し、発表グループとディスカッションをします。

・第15回 まとめとレポート提出

・必要に応じて視聴覚資料などを使って理解を深めます。

・数回、宿題を出します。授業で短く発表してもらいます。

成績評価の方法

平常点(コメントペーパー、宿題の発表、グループ作業等)30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

また、上記に掲げた到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：異文化理解A

テキスト

特になし

参考書

授業内で適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <116>		
教員名	鈴木 史馬		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

テーマ：「やってみよう！（経済学の）グループ研究」
 概要：このゼミでは、グループ（4人程度）でひとつのテーマを設定し、研究を行います。研究は、勉強とは違います。自分の興味・関心のあることを調べ、その中から、未解決で面白い問題（Question）を見つけます。そして、その未解決の問題に答えを与えます。その一連のプロセスを研究といいます。このゼミでは、実際にグループ単位で研究を行うことで、経済学や統計学など、講義科目で学習する内容が、研究にどのように役立つのかも理解することも目標とします。また、研究成果を論文（レポート）としてまとめたり、プレゼンテーションを行うことで、大学で学ぶ基本スキルの基礎を学びます。なお、研究テーマは自由としますが、経済学で分析可能なように絞ってもらいます。この点については、授業内で指示します。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）修得のため、以下を到達目標とする。
 ・学生同士でコミュニケーションを取りつつ、考えを整理することができるようになる。
 ・自分の考えを、一定時間内で他人に説明することが出来るようになる。
 ・経験に基づいて論理的に物事を考えることが出来るようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について	
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120分
第2回	個別ガイダンス ・ガイダンス／自己紹介など	
	【予習】特になし。 【復習】授業内容を復習する。	60分
第3回	テーマの決定 ・各自関心のあるテーマを考え発表する。そして、ゼミ内で他のメンバーがどのようなことに関心を持っているのかを把握する。	
	【予習】関心のあるテーマについて調べる。 【復習】特になし	60分

第4回	グループの決定 ・ 各自の関心を集約し、グループを結成する。そして、グループごとの研究テーマの大枠を決める。	
	【予習】他の学生のテーマを考慮しつつ、自分がやりたいテーマについて考える。 【復習】内容を復習する	60分
第5回	グループのテーマの決定 ・ グループごとのテーマを絞る。また、そのテーマについて調べる。	
	【予習】指示がある場合、それを行う 【復習】内容を復習する	60分
第6回	中間発表（1） ・ グループごとのテーマについて、発表する。	
	【予習】発表の準備をする 【復習】内容を復習する	60分
第7回	グループ作業（1） ・ グループのテーマについて調査する。	
	【予習】グループ研究についての作業を行う 【復習】内容を復習する	60分
第8回	グループ作業（2） ・ 今後の作業手順を考える。	
	【予習】グループ研究についての作業を行う 【復習】内容を復習する	60分
第9回	中間発表（2） ・ グループごとに作業手順について発表する。	
	【予習】発表の準備をする 【復習】内容を復習する	60分

第10回	グループ作業（3） ・ 中間発表のコメントを受けて作業を行う。 ・ 論文（レポート）の書き方について学ぶ	
	【予習】 グループ研究についての作業を行う 【復習】 内容を復習する	60分
第11回	グループ作業（4） ・ グループ研究の成果をまとめる	
	【予習】 グループ研究についての作業を行う 【復習】 内容を復習する	60分
第12回	論文（レポート）の提出 ・ 他のグループのレポートを読み、内容についてコメントを考える。	
	【予習】 論文（レポート）をまとめる 【復習】 内容を復習する	60分
第13回	論文（レポート）のコメント発表 ・ 他のグループのレポート内容についてのコメントを考える。	
	【予習】 他のグループの論文（レポート）を読み、コメントを考える。 【復習】 内容を復習する	60分
第14回	最終発表の準備 ・ 最終発表に向けた準備をする。	
	【予習】 グループ研究についての作業を行う 【復習】 特になし	60分
第15回	最終発表	
	【予習】 グループ研究についての作業を行う 【復習】 特になし	90分

授業の方法

授業は、グループごとの作業（調査・議論）と発表（パワーポイント・ポスター）を交互に行い、一つのテーマを深く理解していく形式で行う。学生による積極的な参加を前提に授業を行う。必要に応じて、教員が、経済学や統計学の基本的な概念を講義することもある。なお、受講生の人数や希望に応じて、授業計画を若干変更することがある。

成績評価の方法

平常点（発言や質問等、授業への積極的な参加および課題提出 40%）、プレゼンテーション（40%）、期末レポート（20%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識／先修科目は特になし。関連科目として、「ミクロ経済学入門I」や「マクロ経済学入門I」がある。

テキスト

特になし。

参考書

小浜裕久（2009）『経済論文の技法—データが語る・データで語る』日本評論社

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <117>		
教員名	田口 誠		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本演習のテーマ： 「成蹊大生の大学生活に関する意識を調査する」 自分の考えたテーマについて調査を企画し、結果をレポートや報告書としてまとめて他人に伝えることは、大学生活および卒業後において重要性の高い技術となるでしょう。 しかし、調査を実施して結果をまとめるには、周囲で起こる現象に関心を持ち、それを特定の枠組みから観察し、関連情報を効率的に集め、データを分析する技術を持ち、レポートの構成を考えて結果をまとめ、プレゼンテーションを通して内容を効果的に周囲の人に伝えられるようにするなど様々な技術が要求されます。それらを短期間で習得することは容易ではありません。 本演習の目標は、自らが興味を持ったテーマについてこれらのプロセスを一通り経験してみることで、専門分野に関してさらなる興味を持って積極的に勉強を進めることができるようにする点にあります。 テーマは幅広い分野から自由に設定してもらいます。必ずしも、経済や経営にこだわる必要はありません。グループに分かれて関連する本を読み、情報を集めることから始めます。その後、分析の基本を学び、パワーポイントを用いた発表やレジュメの作成を体験し、成果を期末のレポートとしてまとめます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、次の点を到達目標とする。 1. 自らが興味を持つテーマについて考えること。 2. 社会的に意義のある調査を企画できるようにすること。 3. 基礎的な統計手法を用いて、集めたデータの分析をおこなうこと。 4. 結果を効果的に伝えるための方法を習得すること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） ・研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	イントロダクション ・この演習のテーマ、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。		
	【復習】本セミナーのテーマや意義について説明できるようにする。	60	
第3回	社会調査とは（第1章） ・社会調査の概要や問題点について理解する。		
	【予習】教科書第1章を読む。	60	

第4回	情報資源の発掘（第2章） ・文献や資料の収集に必要な知識を習得する。	
	【予習】教科書の第2章を読む。 【復習】大学情報図書館において、文献の検索と所在の確認ができるようにする。	60
第5回	社会調査の基本的ルール（第3章） ・パワーポイントを用い、各班ごとに第3章の内容を発表する。	
	【予習】教科書の第3章を読む。 また、第3章の内容を要約したパワーポイントの資料を準備し、プレゼンの練習をおこなっておく。	90
第6回	アンケート調査の方法（第4章） ・各班ごとにテーマを選び、第4章の内容にしたがってアンケート調査を企画する。	
	【予習】教科書の第4章を読む。 【復習】各班でアンケート調査を企画する。	90
第7回	アンケート調査の方法（第4章） ・アンケート調査票を作る。	
	【予習】アンケート調査票を作る。 【復習】アンケート調査票を完成させる。	90
第8回	アンケート調査票の発表・修正 ・各班で作成したアンケート調査票について授業で発表する。 ・受けた指摘にもとづき、アンケート調査票を修正する。	
	【予習】アンケート調査票の発表に向けた資料の準備をおこなう。 【復習】授業で受けた指摘にもとづき、アンケート調査票を修正する。	90
第9回	アンケート調査の実施・調査票のデータ化（第6章） ・受講者が相互にアンケートに回答し、サンプルを収集する。 ・回収したアンケート調査票を統計ソフトを用いてデータ化する。	
	【予習】教科書の第6章を読む。 【復習】アンケート調査票を追加配布し、サンプルを増やす。	90

第10回	アンケート調査の分析（第7章） ・アンケート調査の分析方法について，第7章の議論をもとに各班で検討する。	
	【予習】教科書の第7章を読む。 【復習】各班のアンケートについて分析方法を検討する。	120
第11回	アンケート調査の分析（第7章） ・統計ソフトを用いて回収したデータを分析する。	
	【予習・復習】各班で回収したデータの分析をおこなう。	120
第12回	アンケート調査の分析（第7章） ・引き続き，統計ソフトを用いて回収したデータを分析する。	
	【予習】各班で回収したデータの分析をおこなう。 【復習】データの分析を終える。	90
第13回	最終発表に向けた準備 ・調査目的，仮説，分析方法，調査結果について整理し，最終発表に向けた資料を作る。	
	【復習】最終発表の資料を作る。	90
第14回	最終発表 ・各班で調査結果の最終発表をおこなう。 ・発表内容に対するコメントを受ける。	
	【復習】最終発表において指摘を受けた点について，内容の修正を検討する。	60
第15回	授業のまとめ・質疑応答	
	【復習】授業を振り返り，到達目標と自分の理解度を点検し，不足している知識等を確認し，学修する。	60

授業の方法

班ごとに調査の企画、文献の収集、発表などをおこなう。
調査のテーマは、グループの興味にしたがって自由に設定することを基本とする。
期末にはレポートを提出する。

成績評価の方法

平常点100%で評価する。内訳は次の通りです。

グループワークに対する個人の貢献度50%
グループワークの達成水準（グループ点）50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。
(1) 必要な文献の検索・収集ができる。
(2) 教科書の記述にしたがって適切な調査の企画ができる。
(3) データの基本的な分析手法を理解している。
(4) 効果的なプレゼンテーションの方法を習得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』，ミネルヴァ書房，2013年，ISBN：9784623066544，2500円＋税。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <118>		
教員名	田中 研太郎		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：データビジュアリゼーション 情報を伝える様々な場面において、確率や割合などのデータが用いられている。 天気予報では降水確率が必ず伝えられ、野球では打率や防御力などの数字が選手に付きまとう。 近年、情報技術の発達とともに、手に入るデータの量は飛躍的に多くなってきており、それらを分かりやすく伝えるためのデータビジュアリゼーション(データの可視化)の重要性が高まっている。 そこで、本セミナーでは、データビジュアリゼーションを用いた効果的な情報発信の方法の習得を目指すとともに、受け取った情報の有効性を確認する流れについて学んでいく。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 1) 図書館を利用した情報収集、課題の発見、考察した内容のプレゼンテーションなどができるようになる。 2) データビジュアリゼーションの手法などについて学ぶ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス (フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き)、 研究倫理について (資料配布)		
	情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120 分	
第2回	自己紹介その1 (自己紹介のPowerPointファイルを作成する)		
	【課題】PowerPointなどで自己紹介をする資料を作成し、教員に送付する。	60 分	
第3回	自己紹介その1 (前回作った資料を使って簡単な自己紹介をしてもらう)、 自己紹介その2 (自身にまつわるデータを図書館で集める)		
	【予習】図書館の利用方法についてあらかじめ調べておく。【復習】自分と他の人の発表についてレビューを考えておく。	60 分	

第4回	自己紹介その2 (自身にまつわるデータを付加した自己紹介用の発表資料の作成)	
	自己紹介その2 (自身にまつわるデータを付加した自己紹介用の発表資料の作成)	120 分
第5回	自己紹介その2 (前回作った資料を使ってやや長めの自己紹介をしてもらう)	
	【復習】自分と他の人の発表についてレビューを考えておく。	60 分
第6回	グループワークその1 (与えられたテーマに関する情報収集)	
	【予習】与えられたテーマについての情報収集を行う。	60 分
第7回	データビジュアライゼーションについて、 グループワークその1 (与えられたテーマに関する発表資料の作成)	
	【予習】データビジュアライゼーションの概要について調べておく。 【課題】PowerPointなどで発表資料を作成し、教員に送付する。	120 分
第8回	グループワークその1 (発表)	
	【復習】自分のグループと他のグループの発表についてレビューを考えておく。	60 分
第9回	グループワークその2 (与えられたデータについて分析する)	
	【復習】情報分析手法について復習する。	60 分

第10回	グループワークその2 (与えられたデータについて分析する)	
	【復習】情報分析手法について復習する。	60 分
第11回	グループワークその2 (まとめ)	
	【復習】情報分析手法について復習する。	60 分
第12回	グループワークその3 (テーマの選定、情報収集)	
	【予習】与えられたテーマについての情報収集を行う。	60 分
第13回	グループワークその3 (発表資料の作成)	
	【課題】PowerPointなどで発表資料を作成し、教員に送付する。	120 分
第14回	グループワークその3 (発表)	
	【復習】自分のグループと他のグループの発表についてレビューを考えておく。	60 分
第15回	グループワークその3 (発表のつづき)、 まとめ	
	【課題】発表全般についてのレポートを作成する。	60 分

授業の方法

授業の前半は個人による発表を行ってもらう。
後半はグループを形成して協力しながら発表資料を作成して発表してもらう。

成績評価の方法

配点は、授業への参加状況などの平常点60%、グループ点20%、レポート20%を目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 的確な情報収集ができる。
- ii) 効果的なプレゼンテーションを、PowerPointなどを使って行うことができる。
- iii) グループで協調性を持って作業ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <119>		
教員名	時岡 規夫		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」は、文献の読み方、調べ方、討論の方法、発表のしかた、レポートの書き方といった、今後のすべての演習で必要となる事柄の基礎を一通り学ぶことを目標としています。そこで、この授業では、参加者が自分の趣味や興味のあること、得意分野などの中からテーマをみずから設定し、関連する文献（本や雑誌、新聞などの記事、Webページなど）やデータをさがして読み、理解した内容を発表してもらいます。そして、その発表に対して全員参加で質疑応答、討論を行ないます。さらに、そこで出された疑問点等を発表担当者は自分なりに解決して、発表した内容をレポートにまとめて学期末に提出してもらいます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解説）、DP4（自発性・積極性）、DP5（表現力・発信力）を実現するため、以下を到達目標とします： テーマを適切かつ明確に設定し、関係する文献やデータをさがし読みこなしてその本質をつかんで要領よく発表する、また、他の人の報告を聞き討論を行なう、さらに、テーマに関するレポートを作成する、といった能力を養うことをめざします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） ・研究倫理について（資料配布）		
	【予習】 情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	図書館の利用のしかた ・文献等の探し方や図書館の利用のしかたについて学修する。		
	【復習】授業の内容を再確認する。	90	
第3回	データベースの利用のしかた ・学内で利用できるデータベースの利用のしかたについて学修する。 ・パソコン実習を行なうことがあります。		
	【復習】授業の内容を再確認する。	90	

第4回	発表の準備 ・テーマを決めて発表の準備を行ないます。 ・パソコン実習を行なうことがあります。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第5回	発表の準備 ・ひきつづき、発表の準備を行ないます。 ・パソコン実習を行なうことがあります。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第6回	発表の準備 ・ひきつづき、発表の準備を行ないます。 ・パソコン実習を行なうことがあります。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第7回	発表・討論 ・発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第8回	発表・討論 ・ひきつづき、発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第9回	発表・討論 ・ひきつづき、発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90

第10回	発表・討論 ・ひきつづき，発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第11回	発表・討論 ・ひきつづき，発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第12回	発表・討論 ・ひきつづき，発表・討論を行ないます。	
	【予習】次回に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第13回	レポートの書き方 ・レポートの書き方の基礎を学びます。 ・パソコン実習を行なうことがあります。	
	【予習】まとめのレポート作成に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第14回	レポートの書き方 ・ひきつづき，レポートの書き方の基礎を学びます。 ・パソコン実習を行なうことがあります。	
	【予習】まとめのレポート作成に向けた準備を進める。 【復習】授業の内容を再確認する。	90
第15回	まとめ ・これまでに取り組んだ内容を確認します。	
	【復習】これまでの授業を振り返り，補足作業を行ない，まとめのレポートを完成させる。	120

授業の方法

1グループ、3～4人からなるグループ単位で発表を担当してもらおうと考えています。プレゼンテーション、ディスカッションを行ないます。すなわち、①報告担当グループを決めて、設定したテーマについて、「レジュメ（要約）」に基づき発表するための準備を行なう、②実際に発表・報告する、③報告に対する全員参加の質疑応答、討論を行なう、④出された疑問点等を自分なりに解決しながら、報告担当グループはそれぞれの設定したテーマに関するレポートを作成することでまとめる、というを行ないます。

なお、プレゼンテーション、ディスカッション、レポートのねらいは次のとおりです。

- ・プレゼンテーション：設定したテーマに関する自分の理解を効果的に説明できているかを確認する。
- ・ディスカッション：他の人の報告や意見を聞き、その内容をふまえて自分の考えを明確に説明できているかを確認する。
- ・レポート：ディスカッションもふまえて設定したテーマに関する自分の理解を明確に説明できているかを確認する。

上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、進捗度に応じて取り組んでください。

成績評価の方法

授業への参加状況や報告内容、ディスカッションへの参加・貢献度、まとめのレポートの内容などによって、総合的に評価します。評価ウェイトはまとめのレポートが30%、授業への参加状況や報告内容、ディスカッションへの参加・貢献度などが70%をめやすとする予定です。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①テーマを適切かつ明確に設定できる。
- ②関係する文献やデータをさがし読みこなしてその本質をつかんで要領よく発表できる。
- ③他の人の報告を聞き討論を行なうことができる。
- ④設定したテーマに関するレポートを作成することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

科目の性格上、必要な予備知識や先修科目はありません。

関連科目としては、「フレッシュャーズ講座」や取り上げられる題材、問題に対応する科目などです。

テキスト

特定のテキストは用いない予定です。

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <120>		
教員名	俊野 雅司		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本講座では、「情報を収集して、分析を行い、その結果を取りまとめてプレゼンテーションを行う」という調査・研究を行ううえで必要不可欠の一連の基本的技術や方法論を学習します。インターネットを通じて必要な情報を入手し、エクセルを使ってデータの分析や整理を行い、ワードやパワーポイントでその結果を取りまとめるという一連の流れを体験します。講師から2つのテーマを設定して実例を説明する一方、受講生は学修テーマを自主的に設定したうえで、分析と取りまとめを行います。最後に、作成した資料に基づいてプレゼンテーションを行います。 また、原則として、毎回、講義の開始時に新聞の読み合わせを行います。講師からも最近話題になっている新聞記事を紹介しますが、受講生も交代で、各自の関心のある記事を紹介してもらいます。 第1のテーマ：家計調査に基づいて、日本の家計における世帯主年齢別の平均的な収入・支出、貯蓄・負債の動向を調査。時系列比較や世帯主の職業別など、他の基準での統計と比べて特徴を比較する。 第2のテーマ：第二次世界大戦後の物価水準（CPI）と株価水準（日経平均株価）をエクセル上にダウンロードし、グラフを書いたり、分析を行ったりする。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とします。 本講座では、1) 情報を集める、2) 集めた情報を分析する、3) 分析結果をまとめる、4) まとめた資料に基づいて説明する、という調査や研究の一連の流れを学習し、実践的に体験します。これらの内容は、成蹊大学でのこれからの学習を進めていくうえで役立つばかりでなく、社会人になってから日常業務や自主的な知的生産活動を行う際にも有益な汎用性の高い技能です。特に最近では、プレゼンテーション能力の重要性が増しており、いかに自分の考えをまとめて効果的に訴えていくかが強く問われる時代になっています。本講座で体験した知識や技術を生かして、大学や大学院での学習、就職活動、社会的活動における成功を勝ち取るための出発点にしていきたいと考えています。 原則として、講義の最初には、新聞の読み合わせを行います。国内や海外で話題になっている政治や経済に関するニュースを把握しておくことは、社会人になってから不可欠の素養といえます。組織の中で活動していくうえで、構成員と共通の認識を持つておくことが組織の円滑な運営上きわめて重要性が高いからです。すぐには新聞を読む習慣は身につくまで、少しでも早い時期に習慣化することが重要です。就職活動の際にも、最近のニュースについて自分の意見を求められることがあります。日常的に世の中で起こっていることに関心を持って、家族や友人と話し合う習慣を身につけておけば、いざというときに慌てなくても済みます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス ・フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続きについて説明する。 研究倫理について 【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		
第2回	イントロダクション ・自己紹介、講義の全体像の説明、新聞の読み合わせのローテーションの決定等を行う。 ・インターネットを通じた情報の検索やダウンロードの方法、オフィス機能（ワード、エクセル、パワーポイント）の概略の説明等を行う。 【予習】インターネットやオフィス機能の使い方について調べておくこと。 【復習】Office 365におけるOne Drive, Word, Excel, PowerPointの使い方を確認すること。		
第3回	第1のテーマ（1）：家計調査の統計の解説、各自の分析テーマの検討開始 ・新聞の読み合わせを行う。 ・総務省統計局のホームページから家計調査における年齢別の収入・支出、貯蓄・負債関連の情報を入手し、エクセル上にダウンロードしたうえで、このデータに基づいて、作表するプロセスを説明する。		

	【予習】総務省統計局のホームページを見て、どのような情報が提供されているのかを確認しておくこと。 【復習】受講生は自分の分析テーマについて検討を開始する。	60
第4回	第1のテーマ（2）：他の基準のデータとの比較・分析 ・新聞の読み合わせを行う。 ・総務省統計局のホームページから世帯主年齢別の収入・支出や貯蓄・負債に関する過去のデータや職業別・年収別など異なる基準のデータをダウンロードする。 ・分析を行った結果をパワーポイントにまとめる。	
	【予習】総務省統計局のホームページを見て、様々な基準のデータについて調べておくこと。 【復習】説明用資料を完成させる。	60
第5回	第1のテーマ（3）：分析結果の発表 ・新聞の読み合わせを行う。 ・パワーポイントにまとめた分析結果に基づいて、プレゼンテーションを行う。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を行う。	60
第6回	第2のテーマ（1）：データのダウンロード ・新聞の読み合わせを行う。 ・消費者物価指数（CPI）と日経平均株価のデータをエクセル上にダウンロードして、グラフを書く。	
	【予習】消費者物価指数と日経平均株価について調べておくこと。	60
第7回	第2のテーマ（2）：エクセルでの分析 ・新聞の読み合わせを行う。 ・ダウンロードした物価や株価のデータを用いて、エクセル上で簡単な分析を行う。	
	【予習】ダウンロードした消費者物価指数と日経平均株価のデータに基づいて、エクセルの機能を用いてどのような分析が可能かを調べておくこと。	60
第8回	第2のテーマ（3）：論文（俊野[2013]）の解説 ・新聞の読み合わせを行う。 ・インフレ率と資産価格の関係に関する講師の論文を紹介する。	
	【予習】俊野[2013]を読んでおくこと。	60

第9回	受講者の分析（１） ・新聞の読み合わせを行う。 ・事前に受講者各自の研究テーマを決めておき、データの収集や文献調査を行って、分析の準備を始める。	
	【予習】各自の研究テーマに応じて、関連する情報を調べておくこと。	60
第10回	受講者の分析（２） ・新聞の読み合わせを行う。 ・集めたデータに基づいて分析を行う。	
	【予習】各自の研究テーマに関する分析を行うこと。	60
第11回	受講者の分析（３） ・新聞の読み合わせを行う。 ・分析した結果に基づいて、パワーポイントを用いて発表用資料の作成準備を始める。	
	【予習】各自の研究テーマに関する分析を完成させること。	60
第12回	受講者の分析（４） ・新聞の読み合わせを行う。 ・発表用資料の作成を進める。	
	【予習】発表用資料の作成を進めること。	120
第13回	受講者の分析（５） ・新聞の読み合わせを行う。 ・発表用資料を完成させる。	
	【予習】発表用資料の作成を進めること。	120
第14回	プレゼンテーション（１） ・新聞の読み合わせを行う。 ・発表用資料に基づいてプレゼンテーションおよび討論を行う。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を行うこと。	60

第15回	プレゼンテーション（2） ・新聞の読み合わせを行う。 ・発表用資料に基づいてプレゼンテーションおよび討論を行う。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を行うこと。	60
授業の方法		
毎回、冒頭に担当制で、新聞の読み合わせを行う（担当者が記事の紹介）。講師の設定する2つの分析テーマに基づいて、データの分析方法を習得する。各自の研究テーマを設定したうえで分析を行い、発表用資料をまとめてプレゼンテーションおよび討論を行う。		
成績評価の方法		
新聞の読み合わせを10%、第1のテーマの分析（共通テーマ）を30%、最終レポートの作成とプレゼンテーションを40%、授業への参加状況を20%の配分で評価を行う。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。 ・インターネットやオフィス機能を活用して、データの収集・分析・資料作成・発表を的確に行うことができるか ・国内外の政治・経済情勢に関するニュースに関心を持ち、これらのニュースの我々の生活に関する意義や課題について十分に理解しているか		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
特に定めない。		
参考書		
「インフレーションと資産運用」俊野雅司、証券アナリストジャーナル、2013年9月号、20～31ページ（コピーを配付します）		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <121>		
教員名	中神 康博		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、これまでのように正解のある問題を単に追いかけるのではなく、まだ（少なくとも本人にとって）正解が見つからない問題に対して、みずから答えていく必要がある。そのために必要な技法（問題の立て方、情報収集、分析方法、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方）を上野千鶴子著『情報生産者になる』を教科書として学んでいく。			
到達目標			
課題の発見と解決を図り（DP2）、教養を身につける（DP1）、自発性、積極性（DP4）のため、以下を到達目標とする。 ・レジュメ作り方やプレゼンテーションのスキルを学ぶ。（表現力（DP5）） ・ディスカッションの仕方を身につける。（コミュニケーション力） ・文章力のアップを図る。（文章力） ・経済学・経営学の学ぶにあたっての心構えを身につける。（問題解決能力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	オリエンテーション メンバーの自己紹介の後、講義の内容や進め方について説明を行う。		
	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容について確認を行う。教科書のプロローグを熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90	
第3回	1 情報とは何か 2 問いをたてる		
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う	90	

第4回	3 先行研究を批判的に検討する 4 研究計画書を書く 5 研究計画書を書く（当事者研究版）	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第5回	6 方法論とは何か 7 対象と方法の選択	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第6回	8 質的情報とは何か 9 インタビューの仕方	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第7回	10 質的情報の分析とは何か 11 KJ法のその先へ	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第8回	12 目次を書く 13 論文を書く	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第9回	14 コメント力をつける 15 論文の書き方を学ぶ	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90

第10回	16 口頭報告をする 17 メッセージを届ける 18 プロデューサーになる	
	【予習】教科書の該当する章を熟読する。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	90
第11回	プレゼンテーションI	
	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	120
第12回	プレゼンテーションII	
	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	120
第13回	プレゼンテーションIII	
	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	120
第14回	プレゼンテーションIV	
	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	120
第15回	エピローグ（まとめを行う）	
	【予習】ショートエッセイの準備をする。 【復習】授業内で議論された内容の論点整理を行う。	120

授業の方法

発表者の報告をもとにディスカッション形式で授業をすすめる。また、後半にプレゼンテーションやショート・エッセイを課す。

成績評価の方法

報告や授業中の発言など平常点（60％）のほか、プレゼンテーション（20％）やショート・エッセイ（20％）をもとに総合的に評価する。

成績評価の基準

到達目標に掲げた4つのポイント、表現力、コミュニケーション力、文章力、問題解決野力を判断基準として総合的に評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書，2018年。ISBN978-4-480-07167-5

参考書

とくになし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <122>		
教員名	挾本 佳代		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「現代社会はどこに向かっているのかを考える」			
現代社会にはどんな問題があり、そして現代社会はどこに向かっているのかについて考えていきます。 テキストとして、見田宗介『現代社会はどこに向かうか』を使用します。このテキストの中では、現代社会の問題点として家族関係の崩壊、生活スタイル・消費行動・ファッションの変化、環境問題、グローバリゼーション等が挙げられていますが、その考察を通して、最終的に未来の私たちがつかむべき「幸福」とは何かを検討・提示されています。 現代日本をより深く知り、自らの立ち位置も把握しながら、現代社会の行方について考えていきましょう。			
到達目標			
D P 1（教養の修得）、D P 2（課題の発見と解決）、D P 3（他者との協働）、D P 4（自発性、積極性）、D P 5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①プレゼンテーションを綿密に準備し、的確に行うことができる。 ②的確で簡潔なレジュメや資料を作成することができる。 ③協調的な姿勢でグループ・ワークを行うことができる。 ④積極的にディスカッションに参加することができる。 ⑤現代社会の問題点に対し、深い洞察力をもって、個性的に考察することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	60	
第2回	セミナーの進め方について セミナー基礎力アップ（1）レジュメの作成方法について		
	【予習】シラバスを確認しておくこと。 【復習】レジュメの作成方法を確認する。	60	
第3回	セミナー基礎力アップ（2）レポートの作成方法について		
	【予習】レジュメの内容をレポートのするためにはどうすればいいかを考えておく。 【復習】レポートの作成方法を確認する。	60	

第4回	セミナー基礎カアップ（3）個人プレゼンテーションの方法について／資料蒐集方法について	
	【予習】レジュメの内容をプレゼンテーションするにはどうすればいいかと考えておく。 【復習】プレゼンテーションの方法と資料収集法を確認しておく。	60
第5回	グループ・ワーク（1） ・与えられたテーマを各グループで検討し、プレゼンテーションができるようにしておく。	
	【予習】グループ・ワークの前に、テーマについて個人的に検討しておく。 【復習】グループでテーマについて割り当てを決定し、各自で進めると同時に、グループで検討を行う。	60
第6回	グループ・ワーク（2） ・与えられたテーマを各グループで検討し、プレゼンテーションができるようにしておく。	
	【予習】グループで決定した割り当て作業を各自で進めておく。 【復習】グループ内で分担されたプレゼンテーション用の資料を作成する。プレゼンテーションの予行演習を行う。	60
第7回	グループ・プレゼンテーション ・与えられたテーマについて、各グループでプレゼンテーションを行う。	
	【予習】グループ・プレゼンテーションの準備を開始し、資料を作成する。 【復習】テーマえ取り上げられた現代社会の問題点を確認しておく。	60
第8回	グループ・ワークの講評 個人プレゼンテーションの準備 ・テキストの内容をよく理解、把握する。 現代社会論についての講義	
	【予習】テキストを熟読してくる。 【復習】翌週の発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60
第9回	個人プレゼンテーション（1） ・テキスト第1章について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60

第10回	個人プレゼンテーション（2） ・テキスト第2について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60
第11回	個人プレゼンテーション（3） ・テキスト第3章について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60
第12回	個人プレゼンテーション（4） ・テキスト第4章について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60
第13回	個人プレゼンテーション（5） ・テキスト第5章について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。発表しない者は、自分のプレゼンテーションの準備や、さらにテキストを熟読しておく。	60
第14回	個人プレゼンテーション（6） ・テキスト第6章について担当者が発表する。 ・内容に踏み込んだディスカッションを行う。	
	【予習】発表者は、割り当てられた部分のテキスト内容を深く検討し、資料を作成する。発表しない者は、テキストを熟読してくる。 【復習】発表者は、プレゼンテーションの反省をする。レポートの内容を検討する。	60
第15回	セミナーのまとめ 現代社会論のさらなる追究に向けて ・現代日本社会を理解するためのひとつの方法論を獲得する。 レポート提出。	
	【予習】レポートを作成する。 【復習】テキストで展開されていた現代社会論を理解する。	60

授業の方法

- ・テキストを熟読した上で、個人プレゼンテーションを中心に、グループワーク、ディスカッションを行い、レジュメ／レポート提出を実施する。
- ・プレゼンテーションを行ったグループや発表者に対し、積極的な質疑を行い、ゼミ全体に意欲的に参加することが大切である。

成績評価の方法

グループおよび個人プレゼンテーション（2回：40%）、レジュメ／課題レポート（2回：30%）、授業中の発言など、授業への積極的な参加（30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・プレゼンテーションを綿密に準備し、的確に行うことができているか。
- ・的確で簡潔なレジュメや資料を作成することができているか。
- ・現代社会論に対し、深い洞察力をもって、個性的に考察することができているか。
- ・積極的にディスカッションに参加しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

見田宗介『現代社会はどこに向かうか——高原の見晴らしを切り開くこと』岩波新書、2018年。
ISBN：9784004317227

参考書

特になし。開講後に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <123>		
教員名	浜松 翔平		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「学生時代を君たちはどう過ごすか」 本演習では、ロールモデルとなる起業家の大学入学時の年齢である18歳～20歳前半での思想や行動に着目し、自分が学生時代に何を学び行動するかを考えます。起業家がどのようにこの年代を過ごしていたのかを自伝、ビデオ等から探求します。 ほぼ毎週、文献（本全体ではなく、一部の章、該当箇所を指定します）を読んできてもらうので、準備はやや大変です。しかし、演習を受講することで、相当読書力と思考力がつきます。 また、演習の後半には、『私の学生時代の過ごし方』を自分なりに考えて、発表してもらいます。『私の学生時代の過ごし方』で、こうすべきという“絶対的な正解”はありません。自分でプロジェクトを作り、そして実行していくことで、充実した学生生活を送ることができるでしょう。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者と協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、次の5点を達成目標とする。 （１）必要な情報を収集し整理することができる （２）ゴールを設定し、必要な行動をする逆算思考を持つことができる （３）自分の伝えたい内容を、他人にわかりやすく伝えることができる （４）読書の習慣を身に付ける （５）解くべき重要な課題を見つけることができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス （フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	イントロダクション ・本演習の目的、進め方 ・報告担当者の決定 ・自己紹介 ・メール、レジュメ、プレゼンテーションの方法について		
	【予習】一人1分で行う自己紹介の準備してくること	60	
第3回	基礎編：時間の大切さ セネカ『生の短さについて』		
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90	

第4回	基礎編：社会科学的視点 吉野 源三郎 『君たちはどう生きるか』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第5回	基礎編：人間関係 デール・カーネギー 『人を動かす』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第6回	分析編：起業家 ～洪沢栄一～ 城山三郎 『雄気堂々』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第7回	分析編：起業家 ～本田宗一郎～ 伊丹敬之 『人間の達人 本田宗一郎』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第8回	分析編：起業家 ～松下幸之助～ 北 康利 『松下幸之助 経営の神様とよばれた男』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第9回	分析編：起業家 ～孫正義～ 佐野真一 『あんぼん 孫正義伝』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90

第10回	分析編：起業家 ～南場 智子～ 南場智子『不格好経営-チームDeNAの挑戦』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第11回	分析編：起業家 ～スティーブ・ジョブズ～ ウォルター・アイザックソン『スティーブ・ジョブズⅠ・Ⅱ』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第12回	分析編：起業家 ～ジェフ・ベゾス～ ブラッド・ストーン『ジェフ・ベゾス 果てなき野望』	
	【予習】本を入手し、A4 1枚程度に感想をまとめる。報告担当者は、内容をレジュメにまとめ、当日配布すること。 【復習】議論した内容を整理する	90
第13回	調査発表編： 『私の学生時代の過ごし方』を発表する（1）	
	【予習】学生時代に取り組むプロジェクトを自ら見つけ、今後の学生生活をどのように過ごすかを発表する。 【復習】他の受講生の発表を聞いて、感想をまとめ整理する	90
第14回	調査発表編： 『私の学生時代の過ごし方』を発表する（2）	
	【予習】学生時代に取り組むプロジェクトを自ら見つけ、今後の学生生活をどのように過ごすかを発表する。 【復習】他の受講生の発表を聞いて、感想をまとめ整理する	90
第15回	まとめ	
	【予習】これまでの演習を通じて、自分が今何をするべきかについてA 4, 1枚程度にまとめて持参すること 【復習】必要なし	90

授業の方法

毎回指定した本の一部箇所について事前に読んできて、感想をA4,1枚にまとめ、議論を行います。本は、1冊全て読む必要はなく、一部の章や該当箇所を指定します。注目する起業家と課題図書は、変更する可能性があります。初回講義時に詳しく説明をしますので、初回講義後に入手してください。報告者は指定した起業家の本や映像などから学生時代の過ごし方について調査します。

演習の後半には、『私の学生時代の過ごし方』を発表します。大学1年生から自ら今後取り組むべきプロジェクトを考えることで、有意義な学生時代を過ごすことができるでしょう。

成績評価の方法

報告50%、平常点（授業への参加態度、中間課題）50%とし、積極的な演習の参加をプラスとして加味して評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1) 必要な情報を収集し整理することができる
- (2) ゴールを設定し、必要な行動をする逆算思考を持つことができる
- (3) 自分の伝えたい内容を、他人にわかりやすく伝えることができる
- (4) 読書の習慣を身に付ける
- (5) 解くべき重要な課題を見つけることができる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要ありません

テキスト

テキストは、演習内のイントロダクションで告知します。

参考書

必要があれば、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <124>		
教員名	林 潤一郎		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
少人数のセミナー（ゼミ）形式で、今後、4年間成蹊大学で学んでいくための動機付けとなる科目である。このセミナーは、大学での勉強とはどのようなものかを、教員との対話を通して学ぶものである。 図書館の利用などの情報入手法、レジュメやレポートの書き方、発表の仕方など、大学での学習を進めていくにあたって必要不可欠な学修スキルの基礎を身につけることも目標としている。全学共通の科目名で開講される必修科目であり、成蹊大学における導入教育のコアとして位置付くものである。 〔本セミナーのテーマ〕 実生活に役立つストレス対処のレパトリーについて考える。 ストレス社会といわれる現代を生きぬくためには、様々なストレスに対する対処法を身につけておくことが重要となります。そのためには、ストレスやストレスに伴って生じる“イヤな気持ち”について理解を深め、その対処のレパトリーを増やしておくこと（さらに練習しておくこと）は学生生活、ひいては卒後の社会生活を生き抜く際に自分自身を支える上で有益なものとなります。 そこで本セミナーでは、日常生活に散見されるストレスに対して生じる“イヤな気持ち”をどう理解していけばいいのか、また“イヤな気持ち”とどう付き合っていけばいいのか、について学ぶことのできる文献を読みながら、どのようなレパトリーがあるのかを受講者の皆さんと一緒に考えていこうと思います。 文献としては、有効性が示唆されているストレス対処法や“イヤな気持ち”との付き合い方を学ぶことのできる臨床心理学領域の書籍（主に認知行動療法についての書籍）のいくつかをとりあげます。その中のトピックについて受講生で分担の上、前半ではグループワークを実施します。後半では、学生によるプレゼンテーションと質疑（担当教員の補足）を中心に授業をすすめます。学期末にはレポートを作成します。また、ストレス対処法を日常生活で実施してみるという体験ワークを実施する可能性もあります。			
到達目標			
DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するために、以下を達成目標とする。 （１）ストレスの性質を理解し、ストレス対処法やイヤな気持ちとの付き合い方を学ぶ。 （２）自らのストレス対処法のレパトリーを増やす。 （３）情報収集、プレゼンテーション、教員および学生間での討議を通して、今後の学業生活で必要と思われる基礎的なスキル（学修スキル）を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	共通ガイダンス - フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続きなど。 - 研究倫理について		
	【予習および復習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	イントロダクション - 本セミナーの進め方の説明と発表分担決め（グループ別）。 - 自己紹介表の作成など。 - 情報入手、情報発信、資料作成、発表、議論に必要な基礎スキル（学修スキル）を学ぶ。		
	【復習】授業で紹介した内容を振り返り、知識を整理するとともに、基礎スキル（学修スキル）を習得する。	60	
第3回	イントロダクション（２） - 情報入手、情報発信、資料作成、発表、議論に必要な基礎スキル（学修スキル）を学ぶ（続き）。 - 自己紹介とグループワークおよび発表のための準備をする。		
	【復習】授業で紹介した内容を振り返り、知識を整理するとともに、基礎スキル（学修スキル）を習得する。	60	

第4回	イントロダクション（3） ・教員によるプレゼンテーション（デモンストレーション）。 ・認知行動療法の全体像を把握する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表の仕方について理解を深める。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	グループワーク（1） ・教員が出したテーマについて、グループごとに協力して取り組み、それらの成果をまとめて、発表する。	
	【復習】 授業で学んだ内容を振り返り、理解を深める。	60
第6回	グループワーク（2） ・教員が出したテーマについて、グループごとに取り組み、それをまとめて発表する。	
	【復習】 授業で学んだ内容を振り返り、理解を深める。	60
第7回	グループワーク（3） ・教員が出したテーマについて、グループごとに取り組み、それをまとめて発表する。	
	【復習】 授業で学んだ内容を振り返り、理解を深める。	60
第8回	プレゼンテーション（1） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】 発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】 授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第9回	プレゼンテーション（2） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】 発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】 授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20

第10回	プレゼンテーション（３） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第11回	プレゼンテーション（４） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第12回	プレゼンテーション（５） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第13回	プレゼンテーション（６） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第14回	プレゼンテーション（７） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20
第15回	プレゼンテーション（８） ・発表担当の学生（もしくはグループ）によるプレゼンテーションの実施。 ・発表内容に関して学生間および教員とのディスカッション。 授業のまとめ	
	【予習】発表担当者は当該文献を精読し、資料を作成する。その資料を（教員を通して）アップロードする。また、当日の発表と質疑に備える。発表担当者以外の学生も発表予定文献を事前に読み、質疑に備える。また、発表資料をダウンロードして授業に臨むこと。プリントアウトした資料にも事前に一通り、目を通しておくこと。 【復習】授業で学んだ主要トピックやキーワードを振り返り、知識の整理をすすめるとともに、発表資料の作成の仕方や発表の仕方について理解を深める。	【予習】 40 【復習】 20

授業の方法

担当したテーマについて受講生が発表を行う。前半はグループワークを行い、その成果を発表する。後半は、受講生それぞれ（もしくはグループ）が担当した文献をもとに、プレゼンテーションを作成し、発表し、それに対するディスカッションを行う。さらに毎回、授業で学んだことを受けて、その都度考えたこと、感じたこと、感想等をレスポンスシートに記入し提出する。また、プレゼンテーションの内容に即して、体験ワークやエクササイズをホームワークとして実施することもある。

授業当日に質疑ができるように、発表者はもちろんのこと、発表担当者以外の受講生も当日の発表予定箇所（文献）について事前に精読した上で参加すること。また、普段から文献や資料の復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次回の授業時で行う）。

・期末レポート：授業での学修内容および授業を通して得られた自分自身の見解（意見）を確認する。

また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業（グループワークやディスカッション含む）への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、プレゼンテーション（20%）、期末レポート（40%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- （1）ストレスの性質を理解し、ストレス対処法やイヤな気持ちとの付き合い方を学ぶ。
- （2）自らのストレス対処法のレパートリーを増やす。
- （3）情報収集、プレゼンテーション、教員および学生間での討議を通して、今後の学業生活で必要と思われる基礎的なスキル（学修スキル）を獲得する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

参考書に示した書籍の中から、受講生と相談の上、いくつかを選択する予定。

参考書

大学生の学修スキルについて：

- ・山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房

ストレスや認知行動療法について：

- ・デヴィッド・ウエストブルック、ヘレン・ケナリー、ジョアン・カーク 著 下山晴彦 監訳 2012 認知行動療法臨床ガイド 金剛出版
- ・坂野雄二（監修） 鈴木伸一 神村栄一（著） 2005 実践家のための認知行動療法テクニックガイド 行動変容と認知変容のためのキーポイント 北大路書房
- ・伊藤絵美 2011 ケアする人も楽になる認知行動療法入門 医学書院
- ・中野敬子 2009 ケース概念化による認知行動療法・技法別ガイド 問題解決療法から認知療法まで 遠見書房
- ・中野敬子 2005 ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ 金剛出版

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <126>		
教員名	丸山 桂		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
テーマは、結婚の経済学です。 恋愛や結婚は人生の大きなイベントであると同時に、小説やドラマ、映画など多くの人々の関心をひきつけてやまないトピックスです。個人的な事象である結婚も、社会全体からみれば、少子化問題や家族の機能の変化などにつながり、ライフスタイルの変化に対応した政策、企業の商品開発(婚活イベント、結婚式、バレンタイン・ホワイトデー商戦、テーマパーク等のデート関連産業)などが求められるようになります。本演習では、恋愛や結婚などを、経済学、社会学、心理学など多様なアプローチから、研究していきます。 おおむね2回程度の調査テーマを出しますので、途中グループを変えながら、他の履修者と協力して、情報収集、分析、考察をし、履修者全体の前で発表(パワーポイントを使用)することを繰り返していきます。			
調査テーマは、履修者との相談で内容の変更、順番の入れ替えの可能性があります。 なお、パワーポイントの使用方法は、適宜教員が指導しますので、使用経験がない人でも安心して履修できます。			
到達目標			
DP4(自発性、積極性)、DP1(教養の修得)、DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発進力)を実現するため、以下の到達目標を挙げる。 ① 主体的にグループワークに取り組み、客観的な資料・データに基づいた分析、考察ができる。 ② 分かりやすく、かつ論理的に人前で発表ができる。 ③ 発表された内容について、的確なコメント、ディスカッションができる。 ④ 内容を的確なレポートにまとめることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス(フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き) 研究倫理について(資料配付)		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	120	
第2回	授業の進め方の解説 ・演習の進め方、調査のまとめ方、履修者の自己紹介 ・パワーポイントの使い方の説明		
	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業時に与えられた課題について、次回授業までに回答を作成する。	60	
第3回	第1回テーマ グループワーク(1) ・グループごとに「出会い、婚活」に関する研究テーマを決定し、調査方法について話し合う。		
	【予習】研究テーマについてあらかじめ考えてくる。 【復習】必要な調査データなどを探す。	60	

第4回	第1回テーマ グループワーク（2） グループワークを続ける。担当教員、他の履修者などからのアドバイスを聞きながら、調査内容を深める。	
	【予習】必要な調査データなどを探す。 【復習】調査データの収集、分析を行う。	60
第5回	第1回テーマ グループワーク（3） ・発表会に向けて、グループ全体でパワーポイントを作成する。	
	【予習】分析に必要な資料を図書館等で収集する。 【復習】発表に向けて、資料を作成する。	60
第6回	第1回テーマ グループワーク（4） ・発表会に向けて、グループ全体でパワーポイントを作成する。	
	【予習】分析に必要な資料を図書館等で収集する。 【復習】発表に向けて、資料を作成する。	90
第7回	第1回テーマ 発表会（1） ・グループごとの発表会。発表に対する質疑、全員でディスカッションを行う。	
	【予習】発表資料と発表原稿を用意する。 【復習】指摘された課題点について、図書館等で調べる。	90
第8回	第1回テーマ 発表会（2） ・グループごとの発表会。発表に対する質疑、全員でディスカッションを行う。	
	【予習】発表資料と発表原稿を用意する。 【復習】指摘された課題点について、図書館等で調べる。	90
第9回	第1回テーマ発表の講評、レポートの書き方の解説 ・レポートの構成 ・文章の組み立て方 ・資料の調べ方 ・著作権への配慮	
	【予習】前回の発表のプレゼンテーションについて、自分の長所と課題を振り返る。 【復習】大学生としての文章の書き方を理解し、図書館などでレポートや論文の執筆方法に関する	60

第10回	第2回テーマ グループワーク（1） ・グループ分け ・グループごとに詳細な研究テーマを決定し、調査方法について話し合う。	
	【予習】研究テーマについてあらかじめ考えてくる。 【復習】必要な調査データなどを探す。	60
第11回	第2回テーマ グループワーク（2） グループワークを続ける。担当教員、他の履修者などからのアドバイスを聞きながら、調査内容を深める。	
	【予習】必要な調査データなどを探す。 【復習】調査データの収集、分析を行う。	60
第12回	第2回テーマ グループワーク（3） ・発表会に向けて、グループ全体でパワーポイントを作成する。	
	【予習】分析に必要な資料を図書館等で収集する。 【復習】発表に向けて、資料を作成する。	60
第13回	第2回テーマ グループワーク（4） ・発表会に向けて、グループ全体でパワーポイントを作成する。	
	【予習】分析に必要な資料を図書館等で収集する。 【復習】発表に向けて、資料を作成する。	60
第14回	第2回テーマ 発表会（2） ・グループごとの発表会。発表に対する質疑、全員でディスカッションを行う。	
	【予習】発表資料と発表原稿を用意する。 【復習】指摘された課題点について、図書館等で調べる。	90
第15回	第2回テーマ 発表会（2） ・グループごとの発表会。発表に対する質疑、全員でディスカッションを行う。	
	【予習】発表資料、原稿を準備する。 【復習】指摘された問題点について、図書館等で資料を調べる。最終レポートの準備をする。	120

授業の方法

履修者でグループワークを行う。全員で協力して発表資料を作成し、発表、質疑応答を繰り返す。教員や他の履修者からのアドバイスをもとに、発表内容をブラッシュアップしていく。

成績評価の視点は、以下の通りである。

授業の参加状況・ディスカッションなどの貢献度：授業参加の主体性、発表会での質疑応答

グループ作業・発表内容：グループワークの主体性、貢献度、根拠に基づいた発表内容

最終レポート：複数の客観的資料を用いて、自身の意見を論理的に文章に表現できる。

成績評価の方法

平常点（授業の参加状況、ディスカッションなどの貢献度）（30%）、グループ作業、発表内容（40%）、最終レポート（30%）の総合評価。最終レポートは、ポータルサイトを通じた提出となる。

病欠等の場合は、必ず事前に連絡を入れること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 主体的にグループワークに取り組み、客観的な資料・データに基づいた分析、考察ができる。
- ② 分かりやすく、かつ論理的に人前で発表ができる。
- ③ 発表された内容について、的確なコメント、ディスカッションができる。
- ④ 内容を的確なレポートにまとめることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ない。

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

橘木俊詔・迫田 さやか『格差社会 - 二極化する結婚のかたち』中公新書

内閣府『少子化社会対策白書』（各年版）

山田昌弘『家族難民』朝日新聞出版

中島隆信『家族はなぜうまくいかないのか』祥伝社新書

その他、授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <127>		
教員名	山上 浩明		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学生活を有効に過ごすために必要なスキル（①Microsoft Office（Word, Excel, PowerPoint）の活用；②パワーポイントを使用した効果的なプレゼンスキル）を身につける。			
実習形式で各種ソフトの機能を習得し、参加者の好きな映画・書籍を紹介（プレゼン）する。プレゼンに対する評価をアンケート形式で収集し、それらをエクセルで集計する。集計結果を踏まえて、ワードでレポートを執筆する。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者と協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下の ①報告の中で『口頭で』各自の意見・主張や問題点・改善点などを論理的に伝えることができる。 ②レポートの中で、『文章で』各自の意見・主張や問題点・改善点などを論理的に伝えることができる。 ③他者の報告や意見を踏まえたうえで、自身の意見を述べ、議論の場を発展させることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き） 研究倫理について		
	情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。	60-90分	
第2回	セミナー・ガイダンス		
	自己紹介について考えてくる。 シラバスを読み、シラバス内でわからないことなどを自ら調べる。 Internet Explorerを用いて、検索エンジンを用いた情報収集について準備する。	60-90分	
第3回	実習：パワーポイントの活用		
	パワーポイントの使い方について、手順や機能をおさらいする。	60-90分	

第4回	実習：パワーポイントの活用	
	パワーポイントの使い方について、手順や機能をおさらいする。	60-90分
第5回	パワーポイントを使って報告：映画① ・・・ 報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】ディスカッション内容を参考に次回（本の紹介）の準備をする	60-90分
第6回	パワーポイントを使って報告：映画② ・・・ 報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】ディスカッション内容を参考に次回（本の紹介）の準備をする	60-90分
第7回	パワーポイントを使って報告：映画③ ・・・ 報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】ディスカッション内容を参考に次回（本の紹介）の準備をする	60-90分
第8回	アンケートの作成	
	【予習】ワードの使い方を調べる 【復習】アンケートを完成させる	60-90分
第9回	パワーポイントを使って報告：書籍① ・・・ アンケート評価・報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】最終報告書の作成準備	60-90分

第10回	パワーポイントを使って報告：書籍② ・・・ アンケート評価・報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】最終報告書の作成準備	60-90分
第11回	パワーポイントを使って報告：書籍③ ・・・ アンケート評価・報告の仕方についてディスカッション	
	【予習】資料作成 【聴講者復習】自分の報告に向けてディスカッション内容を活かす 【報告者復習】最終報告書の作成準備	60-90分
第12回	実習：エクセルの活用① ・・・ アンケート結果集計	
	【予習】アンケート集計について調べる&エクセルの使い方について調べる 【復習】アンケート集計を完成させる	60-90分
第13回	実習：エクセルの活用② ・・・ アンケート結果集計・ピボットテーブルの作成	
	【予習】アンケート集計を完成させる 【復習】アンケート集計から自分のプレゼンの評価・分析を行なう	60-90分
第14回	実習：ワード① ・・・ アンケート集計を踏まえた最終報告書の作成	
	【予習】アンケート集計から自分のプレゼンの評価・分析を行なう 【復習】最終報告書の作成	60-90分
第15回	実習：ワード② ・・・ アンケート集計を踏まえた最終報告書の作成	
	【予習・復習】最終報告書の作成	60-90分

授業の方法

PCを用いた実習とディスカッションが主たる授業の進行方法である。

成績評価の方法

平常点（30%）＋報告×2（20%×2）＋期末レポート（30%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学内や自宅のPCを日頃から活用し、情報検索やMicrosoft Officeに馴染んでいただきたい。

テキスト

なし

参考書

適宜紹介する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <128>		
教員名	山崎 由香里		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：ビブリオバトルを行いながらAIについて学びディスカッションをしながら意見を構築する。 最近では毎日のように、テレビやインターネットのニュースなどでAI（人工知能）という用語を耳にする。AIは私たちの生活をより便利にしてくれる優れたものと言われている反面、AIによって私たちの仕事や役割が“奪われ”たり世界が”乗っ取られる”というように否定的な表現がなされることもある。このゼミでは、AI（人工知能）に関する書籍と映画（DVD）の内容をビブリオバトルを行いながら学び、AIに関する知識を身につけたり動向を把握する。それを踏まえて、ゼミメンバーでAIについてディスカッションを行い、今後の可能性を探る。大学における学びの1つの方法である、テーマについて知識を身につけ、考え、議論し、自分の意見を構築する方法を身につけることが、この授業の狙いである。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。			
① 図書館の利用を通じた適切な情報収集ができる。			
② 収集した情報を理解し、自分なりに考え、意見を持つことができる。			
③ 理解し自分なりに考えた意見を、的確にまとめることができる。			
④ 他者に自分の意見を表明し、他者の意見も踏まえたディスカッションをすることができる。			
⑤ ディスカッションで出された意見を的確にまとめて、他者にプレゼンテーションすることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	共通ガイダンス（フレッシュャーズ・セミナーの位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。 【復習】ガイダンス終了後、各自が希望するゼミを第5志望までWeb登録する。		120
第2回	ゼミ内ガイダンス ・ 授業の内容や進め方について説明する ・ 受講生同士の相互理解を深める ・ 研究倫理について		
	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容を把握しておく。		60
第3回	ビブリオバトル第1ラウンド（DVD）の準備#1 ・ チームで話し合いながら取り上げる作品を決める。 ・ 原稿作成に向けて、チームで分担等を話し合う。		
	【予習】配布資料を読んでおく。		60

第4回	ビブリオバトル第1ラウンド（DVD）の準備#2 ・メンバーが持ち寄ったビブリオバトル原稿を用いてチーム内でプレ・ビブリオバトルを行う。 ・チームとして作品を紹介するための原稿を作成する。	
	【予習】チームで決めた作品を鑑賞し、ビブリオバトル原稿のたたき台を作成する。	120
第5回	ビブリオバトル第1ラウンドの本番 ・各チームが作品を紹介するプレゼンを行う。 ・各チームの紹介についてディスカッションを行う。 ・優れたチームの選抜と表彰。	
	【復習】ビブリオバトルの結果を踏まえ、改善点をまとめておく。	60
第6回	ビブリオバトル第2ラウンド（書籍）の準備#1 ・チームで話し合いながら取り上げる作品を決める。 ・原稿作成に向けて、チームで分担等を話し合う。	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60
第7回	ビブリオバトル第2ラウンド（書籍）の準備#2 ・メンバーが持ち寄ったビブリオバトル原稿を用いてチーム内でプレ・ビブリオバトルを行う。 ・チームとして作品を紹介するための原稿を作成する。	
	【予習】チームで決めた作品を鑑賞し、ビブリオバトル原稿のたたき台を作成する。	120
第8回	ビブリオバトル第2ラウンドの本番 ・各チームが作品を紹介するプレゼンを行う。 ・各チームの紹介についてディスカッションを行う。 ・優れたチームの選抜と表彰。	
	【復習】ビブリオバトルの結果を踏まえ、改善点をまとめておく。	60
第9回	ビブリオバトル第3ラウンド（DVD）の準備#1 ・チームで話し合いながら取り上げる作品を決める。 ・原稿作成に向けて、チームで分担等を話し合う。	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60

第10回	ビブリオバトル第3ラウンド（DVD）の準備#2 ・メンバーが持ち寄ったビブリオバトル原稿を用いてチーム内でプレ・ビブリオバトルを行う。 ・チームとして作品を紹介するための原稿を作成する。	
	【予習】チームで決めた作品を鑑賞し、ビブリオバトル原稿のたたき台を作成する。	120
第11回	ビブリオバトル第3ラウンドの本番 ・各チームが作品を紹介するプレゼンを行う。 ・各チームの紹介についてディスカッションを行う。 ・優れたチームの選抜と表彰。	
	【復習】ビブリオバトルの結果を踏まえ、改善点をまとめておく。	60
第12回	ビブリオバトル第4ラウンドの準備#1 ・チームで話し合いながら取り上げる作品を決める。 ・原稿作成に向けて、チームで分担等を話し合う。	
	【予習】配布資料を読んでおく。	60
第13回	ビブリオバトル第4ラウンドの準備#2 ・メンバーが持ち寄ったビブリオバトル原稿を用いてチーム内でプレ・ビブリオバトルを行う。 ・チームとして作品を紹介するための原稿を作成する。	
	【予習】チームで決めた作品を鑑賞し、ビブリオバトル原稿のたたき台を作成する。	120
第14回	ビブリオバトル第4ラウンドの本番 ・各チームが作品を紹介するプレゼンを行う。 ・各チームの紹介についてディスカッションを行う。 ・優れたチームの選抜と表彰。	
	【復習】ビブリオバトルの結果を踏まえ、改善点をまとめておく。	60
第15回	まとめ ・4回のビブリオバトルの振り返りを行う。 ・本講義で学んだことを総括し、復習する。	
	【予習】ビブリオバトルにおける自らの貢献について、達成できた点と達成できなかった点を明確にし、しておく。	60

授業の方法

書籍の内容、面白さ、良さや自分の感想などを紹介し、一番読みたくなった本（チャンプ）を投票して選抜する書評ゲームを「ビブリオバトル」という。授業ではチーム制でビブリオバトルを行う。

- ・チーム（4名）を形成して、話し合いながら、紹介したい書籍または映画を選定する。
- ・次回授業までに各自が作品を読破または鑑賞し、ビブリオバトル用の原稿を用意する。
- ・チームで原稿を持ち寄りブレ・ビブリオバトルを行った後、本番のビブリオバトルで紹介する原稿を、ディスカッションをしながらチームで作成する。
- ・チーム制でビブリオバトルを行い、チャンプを投票して選抜し、表彰する。

成績評価の方法

平常点（授業中の貢献や発言等）60%、成果の評価（ビブリオバトル原稿やプレゼンテーションの内容）40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①的確な情報収集ができたか。
- ②作品を的確に理解し、自分の意見を持つことができたか。
- ③自分の意見を的確にまとめることができたか。
- ④他者に自分の意見を的確に表現できたか。
- ⑤チームで話し合いながら成果を作成し、的確にプレゼンテーションできたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特に指定なし。

参考書

特に指定なし。必要な文献については適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <150>		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1101411010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
コミュニケーション能力を高めるためには、自分の意見をまとめて発表することが必要です。大学での授業では、自分の意見をもち、発表し、文書にまとめるための授業として、演習の学習があります。この授業は、最初の演習の授業として、そうした基礎的な力を付けるために、実際にレポートを作成し、発表するスキルを身につけることを目的とした授業です。			
到達目標			
DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 4（自発性、積極性）、DP 5（表現力、発信力）を実現するために、以下の六点を到達目標とします。(1) 日常の情報から、自分自身の問題意識を発見し、まずそれに対する感想を確認することができる。(2) さらにそれを課題として深化するためにその問題へのアプローチの仕方について調べることができる。(3) 自分の感想を意見にまで高めるために、その根拠となるデータ、文献を調べる。ことができる(4) 自分の意見をレジュメにまとめることができる。(5) 意見を発表する。ことができる。(6) 意見を交換し討論することができる。(7) 意見を文章にまとめることができる（レポート作成）。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・演習内容、進め方、予習復習の仕方を説明する。 研究倫理について		
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、自分が取り上げるテーマを考えておく。 〔復習〕 演習の内容、目的、到達目標を確認する。		60分
第2回	テーマ設定1 新聞などの資料を提示し、それぞれの内容について討論して、各自のテーマを明確化する。		
	〔予習〕 新聞など自らのテーマの資料を捜し、レジュメを作成する。 〔復習〕 自分の認識の結果を記録する。		60分
第3回	テーマ設定2 新聞などの資料を提示し、それぞれの内容について討論して、各自のテーマを明確化する。		
	〔予習〕 新聞など自らのテーマの資料を捜し、レジュメを作成する。 〔復習〕 自分の認識の結果を記録する。		60分

第4回	テーマについての調査1 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べるとともに、データを集めて、レジメにまとめて、報告し、討論する。	
	〔予習〕 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べ、レジメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	90分
第5回	テーマについての調査2 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べ、レジメにまとめて、報告し、討論する。	
	〔予習〕 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べ、レジメにまとめる。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	90分
第6回	テーマについての調査3 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べ、レジメにまとめて、報告し、討論する。	
	〔予習〕 参考文献によってテーマへのアプローチの仕方を調べ、レジメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	90分
第7回	意見の形成1 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメにまとめて報告し、討論する。	
	〔予習〕 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	120分
第8回	意見の形成2 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメにまとめて報告し、討論する。	
	〔予習〕 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	120分
第9回	意見の形成3 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメにまとめて報告し、討論する。	
	〔予習〕 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジメを修正する。	120分

第10回	意見の形成4 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジュメにまとめて報告し、討論する。	
	〔予習〕 データや参考文献を調べ、自分の意見をまとめて、レジュメを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容でレジュメを修正する。	120分
第11回	レポートの作成 1 検討結果を文章にまとめ、レポートを作成する。	
	〔予習〕 検討の結果を文章にまとめ、レポートを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容によって、レポートを修正する。	120分
第12回	レポートの作成2 検討結果を文章にまとめ、レポートを作成する。	
	〔予習〕 検討の結果を文章にまとめ、レポートを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容によって、レポートを修正する。	120分
第13回	レポートの作成3 検討結果を文章にまとめ、レポートを作成する。	
	〔予習〕 検討の結果を文章にまとめ、レポートを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容によって、レポートを修正する。	120分
第14回	レポートの作成4 検討結果を文章にまとめ、レポートを作成する。	
	〔予習〕 検討の結果を文章にまとめ、レポートを作成する。 〔復習〕 演習の討論の内容によって、レポートを修正する。	120分
第15回	まとめ レポートを提出し、内容について討論する。	
	〔予習〕 これまでの演習の内容をふまえてレポートを作成する。 〔復習〕 演習での学んだ内容をふりかえる。	120分

授業の方法

受講生には毎回報告をしてもらいますが、問題意識の持ち方、参考文献やデータを調べ方、レジュメやレポートの作成の仕方や内容は、演習で討論するとともに、個別に受講生と相談してすすめていきます。

成績評価の方法

作業の進め方15%、発表の仕方15%、演習での討論への参加15%、作成されたレポート55%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに到達目標に基づいて、以下の点に着目して評価します。(1) 日常の情報から、自分自身の問題意識を発見し、まずそれに対する感想を確認できるか。(2) さらにそれを課題と深化するためにその問題へのアプローチの仕方について調べられるか。(3) 自分の感想を意見にまで高めるために、その根拠となるデータ、文献を調べられるか。(4) 自分の意見をレジュメにまとめられるか。(5) 意見を発表できるか。(6) 討論に参加できるか。(7) 意見を文章にまとめ、レポートを作成できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業のなかで随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <211>		
教員名	富谷 光良、近 匡、鈴木 誠一、中野 武雄、里川 重夫、久富 寿、戸谷 希一郎、山崎 章弘、横山 明弘、青柳 里果、門内 隆明、齋藤 守弘		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
新入生に対して本学科で学ぶ意欲を高めてもらうために行われる科目で10名程度のグループでの授業を主体とする。本学科の三つの分野ごとに分野の担当専任教員が各グループに対して専門分野のトピックスや研究課題についての講義を行い、ディスカッション・レポート作成・調査・発表等を行う。実際には学科全員を3組に分けて実施する。組によって分野の順番は異なるが、全員が1分野あたり4回の授業を3分野について受けることになる。なお、少人数授業における各教員のテーマを以下に示す。			
物質・ナノ分野			
・青柳 データ解析の基礎概念から課題への対処方法を学び、与えられた課題への解決方法を考える力を養う。			
・富谷 サイズによる法則性の違いは、私たちの経験・常識をなぜ飛び越えるのかをディスカッションする。			
・中野 大学での学びや共同作業について議論・ワークショップをする。			
・門内 不可逆性の問題について様々な説を検証する。			
化学・ライフサイエンス分野			
・坪村 身の回りの金属とその役割について発表と討論を行う。			
・戸谷 糖鎖関連疾患を題材に、グループワークで治療法のアイデアを提案する。			
・久富 遺伝子を理解するためのパズルを通して、コミュニケーションを熟考する。			
・横山 有機化合物の構造について学び、機能や用途に関して発表と討論を行なう。			
環境・エネルギー分野			
・齋藤 持続可能社会に向けて電池技術の果たすべき役割を考える。			
・里川 エネルギー資源の種類と環境にやさしい使い方を考える。			
・鈴木 科学とは何かを考える。			
・山崎 環境・エネルギーに関する様々なデータを収集し、今後の日本の環境・エネルギーがどうあるべきかについて、発表討論を行う。			
到達目標			
DP7（実践的な科学技術スキル）およびDP8（理工系分野の基礎的知識）を得るため、以下の点を到達目標とする。すなわち、学科の各分野の内容に関する理解を深め、それらを確実に修得するとともに、各自の本学科における勉学の方向性や自発的な取り組みの重要性を意識すること、また、大学における基本的な勉強姿勢を会得することを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス(授業の方法と学科全体の研究等の紹介)		
	シラバスを読んで授業の進め方を確認しておく。		予習・復習を含めて60分。以下同様。
第2回	物質・ナノ分野の教育・研究紹介		
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。		60

第3回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
第4回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60
第5回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60
第6回	全体講義	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
第7回	化学・ライフサイエンス分野の教育・研究紹介	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
第8回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60

第9回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60
第10回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60
第11回	環境・エネルギー分野の教育・研究紹介	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
第12回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
第13回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60
第14回	グループに分かれ当該分野に関する少人数授業	
	前回の授業の復習、前回の授業で課題などの指示があれば準備しておく。	60

第15回	総括	
	ガイダンスの資料を読んで授業の進め方を確認しておく。	60
授業の方法		
1, 6, 15回目は大教室における講義。それ以外は3組に分けて分野ごとに4回ずつ授業を行う。4回のうち初回は分野全体の紹介、残りの回は少人数に分けて、3回同じ教員から授業を受けるが、どのテーマになるかは機械的に決定する。組分け等詳細は初回のガイダンス時に伝える。		
成績評価の方法		
分野ごとの評価各30%、全体講義の評価10%の合計で評価する。それぞれの分野においては各回の参加状況、ディスカッション、レポートなどから評価を行う。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
原則使用しない。各教員から、必要に応じて提供される。		
参考書		
各教員から、必要に応じて指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付ける。		

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (a)		
教員名	池上 敦子		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。
上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。
① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	
	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (b)		
教員名	甲斐 宗徳		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (c)		
教員名	栗林 伸一		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。
上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。

- ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (d)		
教員名	杉山 賢二		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (e)		
教員名	岡本 秀輔		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (f)		
教員名	山本 真基		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (g)		
教員名	酒井 浩之		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。
上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。

到達目標

DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。

- ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (h)		
教員名	千代 英一郎		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (i)		
教員名	脊戸 和寿		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (j)		
教員名	世木 寛之		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (k)		
教員名	小森 理		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分	

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <221> (Ⅰ)		
教員名	松田 源立		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
情報科学科の新1年生を対象にしたセミナー形式の導入教育である。教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動により調査・分析・実験・発表・報告・議論等の研究活動の一端を体験することを通して、学生が自ら選んだ専門分野のイメージを具体的に描き、今後の学習の方向性や大学4年間で目指すべきゴールについて、考えはじめるきっかけを提供することを目的とする。 上記活動の中で、必要に応じ高校の内容の復習およびPowerPoint、Excel等を用いた資料作成演習をあわせて行う。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP5(表現力、発信力)を実現するため、次の点を到達目標とする。 ① 情報科学分野がどういう活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。 ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。 ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	集合教育(1) ガイダンス、ノートテイキング講座 (注：集合教育の内容は順序が変更になることもある)		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第2回	集合教育(2) レポートの書き方講座		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分
第3回	集合教育(3) Excelを用いた表計算・グラフ作成演習		
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。		60分

第4回	集合教育(4) PowerPointを用いた資料作成演習	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第5回	集合教育(5) キャリアデザイン講座	
	【準備学修】 ・IT技術者について事前に調査し、まとめておくこと。また、自分の人生設計などを事前に考え、まとめておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第6回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(1) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第7回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(2) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第8回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(3) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第9回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(4) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

第10回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(5) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第11回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(6) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第12回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(7) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第13回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(8) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第14回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(9) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分
第15回	教員ごとのグループにわかれてのセミナー活動(10) 調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。	
	【準備学修】 ・受講にあたっては、教材のプリントなどを適宜読み進めておくこと。 ・また、レポートなどの課題が出された場合には直ちに着手し、十分な余裕をもって取り組むこと。	60分

授業の方法

集合教育では全員がまとまって授業を履修する。
グループ別教育では12のグループにわかれ、各担当教員の下、セミナー形式で調査・分析・実験・発表・報告・議論等の活動を行う。担当教員の指示に従い、講義、演習、討論、発表などを行う。授業の進め方によりレポートや小テストなどを実施する。

成績評価の方法

集合教育（30%）および教員ごとのグループにわかれて行うセミナー活動の状況（課題達成度 24%、レポート 23%、発表 23%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 情報科学分野がどのような活動を行う分野なのかを種々の調査に基づき把握する。
- ② ①で把握したことから、今後自らの目指すべきゴールや学習の方向性について、主体的に検討していくことの必要性を認識し、その内容を説明することができる。
- ③ ②の主体的な検討を初歩的なレベルから計画的に実践していくことができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

各教員より指示する。

集合教育のExcel、PowerPointに関する演習では、
『情報リテラシー 入門編 改訂版 Windows 10 Office 2016 対応』 FOM出版、
（ISBNコード：978-4-86510-345-8）を教科書として使用する。

参考書

各教員より指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュヤーズ・セミナー <231>		
教員名	柴田 昌明、鳥毛 明、弓削 康平、齋藤 洋司、小川 隆申、小方 博之、酒井 孝、竹本 雅憲、篠田 心治、岩本 宏之、村上 朝之、関根 務、前川 佐理		
科目ナンバー	1101412000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
少人数のグループに分かれ、大学で学ぶ上で必要となる基礎知識を身につける。特に後半はグループでの体験学習に取り組み、自主性、協調性、リーダーシップ、コミュニケーションといった能力の重要性や基礎学問を学ぶ意味を認識する契機とする。また、卒業生や企業の方々による講演会を通し、あるべき大学生活や職業観について考える。			
到達目標			
・DP1（教養の修得）を実現するために、体験学習を通し、設計における理論の重要性について理解する。また、DP3（他者との協働）を実現するために、体験学習を通し、集団で一つの目標を達成する経験を積む。 ・DP5（表現力、発信力）を実現するために、就職に関する社会情勢を把握して大学で学ぶべきことの意味を明確にするとともに、プレゼンテーション技術の基本を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション・グループ分け、自己紹介		
	シラバス授業計画を確認し、受講するにあたって必要なことがらについて準備しておく。授業内で説明された授業内容・計画を踏まえて、受講するにあたって必要なことがらについて準備しておく。		60分
第2回	プレゼンテーション入門(1)		
	授業内容の復習		60分
第3回	プレゼンテーション入門(2)		
	授業内容の復習		60分

第4回	プレゼンテーション実習，オンライン教育システムの利用方法説明	
	プレゼンテーション資料の作成（事前）	60分
第5回	関数電卓の使い方（オンライン）	
	授業内容の復習，事前に関数電卓のマニュアルを読み，機能や基本的な使い方を習得しておく	60分
第6回	体験学習(1)（課題取り組み：個人）	
	授業内容の復習	60分
第7回	体験学習(2)（課題取り組み：個人）	
	授業内容の復習	60分
第8回	体験学習(3)（課題取り組み：個人）	
	授業内容の復習	60分
第9回	体験学習(4)（発表会：個人）	
	プレゼンテーション資料の作成（事前）	60分

第10回	体験学習(5) (課題取り組み: グループ)	
	授業内容の復習	60分
第11回	体験学習(6) (課題取り組み: グループ)	
	授業内容の復習	60分
第12回	体験学習(7) (発表会資料作成: グループ)	
	授業内容の復習	60分
第13回	体験学習(8) (発表会・競技会: グループ)	
	プレゼンテーション資料の作成 (事前)	60分
第14回	体験学習(9) (発表会・競技会: グループ)	
	プレゼンテーション資料の作成 (事前)	60分
第15回	キャリアプランニング, 卒業生講演会	
	授業内容の復習	60分

授業の方法

少人数の半に分かれて担当教員から直接指導を受ける。ただし、週によっては大教室での講義や講演となるので、指示された場所に集合すること。授業内容に（オンライン）と記載のある第5回はCloud Campusというオンライン教育システムを利用して授業を行う。システムの使い方は第4回で説明する。オンラインの講義では、動画を全て視聴し、小テストを全て完了することで出席したとみなす。

成績評価の方法

以下の重み付けで成績評価を行う。

課題に取り組む態度（50%）、グループ内相互評価（20%）、プレゼンテーション能力（30%）

アカウントを他人に貸与するなどの不正行為が認められる場合には単位を認定しない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目なし。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。関数電卓を所有していなければ学科指定のものを購入することを勧める。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。 https://portal.seikei.ac.jp/up/faces/image/ja/def/button/back_on.gif

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <311>		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP2を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第2回	ノートを取る #1: ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第3回	ノートを取る #2: ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。	60	

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点 (thesis) ・論証 (argument) ・例示 (illustration) ・引用 (citation)	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式 (format) についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法 演習形式（一部講義あり）。
成績評価の方法 それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。 ノートの取り方を習得する 10% 辞典・事典を使いこなす 10% ブックレビュー 30% プレゼンテーション 20% レポート 30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。
テキスト 『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13：978-4790717072
参考書 ○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して 松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13：978-4472403439 山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13：978-4623060450 佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13：978-4766419603 ○レポートの書き方について 戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13：978-4140911945 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13：978-4766409697 授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。 ○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。 後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意すること。 どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。 英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が登載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。 ○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13：978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13：978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <312>		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP2を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第2回	ノートを取る #1: ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第3回	ノートを取る #2: ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。		60

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点（thesis）・論証（argument）・例示（illustration）・引用（citation）	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式（format）についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法

演習形式（一部講義あり）。

成績評価の方法

それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。

ノートの取り方を習得する 10%

辞典・事典を使いこなす 10%

ブックレビュー 30%

プレゼンテーション 20%

レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13: 978-4790717072

参考書

○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して

松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13: 978-4472403439

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13: 978-4623060450

佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13: 978-4766419603

○レポートの書き方について

戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13: 978-4140911945

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13: 978-4766409697

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱いがあるので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』

『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13: 978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <313>		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP 2 を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修 (予習・復習等)	準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第2回	ノートを取る #1 : ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第3回	ノートを取る #2 : ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。	60	

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点（thesis）・論証（argument）・例示（illustration）・引用（citation）	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式（format）についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法

演習形式（一部講義あり）。

成績評価の方法

それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。

ノートの取り方を習得する 10%

辞典・事典を使いこなす 10%

ブックレビュー 30%

プレゼンテーション 20%

レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13：978-4790717072

参考書

○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して

松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13：978-4472403439

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13：978-4623060450

佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13：978-4766419603

○レポートの書き方について

戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13：978-4140911945

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13：978-4766409697

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』

『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13：978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13：978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <314>		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP2を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第2回	ノートを取る #1: ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第3回	ノートを取る #2: ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。		60

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点 (thesis) ・論証 (argument) ・例示 (illustration) ・引用 (citation)	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式 (format) についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法

演習形式（一部講義あり）。

成績評価の方法

それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。

ノートの取り方を習得する 10%

辞典・事典を使いこなす 10%

ブックレビュー 30%

プレゼンテーション 20%

レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13：978-4790717072

参考書

○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して

松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13：978-4472403439

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13：978-4623060450

佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13：978-4766419603

○レポートの書き方について

戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13：978-4140911945

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13：978-4766409697

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』

『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13：978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13：978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <315>		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP2を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第2回	ノートを取る #1: ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。	60	
第3回	ノートを取る #2: ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。	60	

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点 (thesis) ・論証 (argument) ・例示 (illustration) ・引用 (citation)	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式 (format) についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法

演習形式（一部講義あり）。

成績評価の方法

それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。

ノートの取り方を習得する 10%

辞典・事典を使いこなす 10%

ブックレビュー 30%

プレゼンテーション 20%

レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13: 978-4790717072

参考書

○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して

松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13: 978-4472403439

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13: 978-4623060450

佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13: 978-4766419603

○レポートの書き方について

戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13: 978-4140911945

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13: 978-4766409697

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱いがあるので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』

『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13: 978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <316>		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学では、批判的思考 (critical thinking)、知識を体系づけて理解すること (mapping and networking knowledge)、説得力のある議論を展開する技術 (persuasion skills) が求められます。高校生までと違って、授業で教えられた内容を理解するという受け身の姿勢では身につかないこの三つのことを習得するために、到達目標に掲げるような、具体的なスタディ・スキルを一つずつ学んでいきます。			
到達目標			
#1 主体的な学びのためのノートの取り方を習得する #2 英英辞典ほか、英語学習や論文執筆に必要な辞典・事典の種類について学び、使いこなせるようにする #3 文献検索の方法を学ぶ #4 学術書を読み、要約・批判する #5 わかりやすく、明瞭なプレゼンテーションを行う #6 論理的説得力のあるレポートを書く これらの目標を達成することでDP1およびDP2を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス (授業の説明、履修の仕方)		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第2回	ノートを取る #1: ビデオを見てノートテイキングを行う		
	テキスト指定箇所を読む。		60
第3回	ノートを取る #2: ノート合評		
	テキスト指定箇所を読む。		60

第4回	図書館実習：文献を検索する	
	各自の興味・関心に応じて、学術的内容を扱った新書を選び、読み始める。	60
第5回	本を読んでブックレビューを書く #1：ブックレビューとは何か	
	ブックレビューを書く。	60
第6回	本を読んでブックレビューを書く #2：要約と批判	
	ブックレビューを書く。	60
第7回	本を読んでブックレビューを書く #3：ブックレビュー合評	
	合評をもとに自分のブックレビューを推敲し完成させる。	60
第8回	様々な辞典・事典を使う	
	課題ワークシートをやってくる。	60
第9回	プレゼンテーションをする #1：題材を決める／比較・対照する	
	プレゼンテーションの題材を決める。	60

第10回	プレゼンテーションをする #2：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第11回	プレゼンテーションをする #3：グループ・ディスカッション	
	グループ単位でプレゼンテーションの準備を行う。	60
第12回	プレゼンテーションをする #4：グループ・プレゼンテーション	
	レポートのテーマを探す。	60
第13回	レポートを書く #1：論点 (thesis) ・論証 (argument) ・例示 (illustration) ・引用 (citation)	
	レポートを書く。	60
第14回	レポートを書く #2：書式 (format) についての諸注意	
	レポートを書く。	60
第15回	レポートを書く #3：レポート合評	
	合評をもとに自分のレポートを推敲し完成させる。	60

授業の方法

演習形式（一部講義あり）。

成績評価の方法

それぞれのタスクの達成度を以下の比率で評価します。

ノートの取り方を習得する 10%

辞典・事典を使いこなす 10%

ブックレビュー 30%

プレゼンテーション 20%

レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『大学生学びのハンドブック4訂版』（世界思想社）ISBN-13: 978-4790717072

参考書

○大学生として勉強するのに必要な技能全般に関して

松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（玉川大学出版部、2007年）ISBN-13: 978-4472403439

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房、2011年）ISBN-13: 978-4623060450

佐藤望『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2012年）ISBN-13: 978-4766419603

○レポートの書き方について

戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス、2012年）ISBN-13: 978-4140911945

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第三版』（慶応義塾大学出版会、2002年）ISBN-13: 978-4766409697

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB6（オープン価格）またはCASIO AZ-SR9800（税込¥34,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱いがあるので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『ロングマン現代英英辞典 6訂版』

『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

英米文学科が推薦する（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13: 978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13: 978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <321>		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

大学で4年間勉強していくうえで基礎になるものの考え方や調査方法を身につける。
具体的には、「聞く」「話す」「読む」「書く」という基礎力の向上を目指す。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力・発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①相手の話を聞き、効果的な質問ができる。
- ②自分の考えを人にわかりやすく伝えることができる。
- ③論理的に文章を読むことができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	他己紹介	
	相手の話を「聞く」さいのコツや注意点について考える。	60
第2回	自己紹介	
	人前で「話す」さいのコツや注意点について考える。	60
第3回	詩の鑑賞文	
	詩を「読む」さいのコツ、自分の感想を「書く」さいのポイントについて考える。	60

第4回	古典の紹介文	
	相手のレベルに応じて「書く」ことについて考える。	60
第5回	論理トレーニング 1	
	大学で求められる「論理力」について知る。	60
第6回	論理トレーニング 2	
	大学で求められる「論理力」の基礎を身につける。	60
第7回	論理トレーニング 3	
	大学で求められる「論理力」を応用してみる。	60
第8回	プレゼンテーション概説	
	これまでの授業を踏まえて、相手に伝わりやすい話しの構成について考える。	60
第9回	プレゼンテーション準備	
	自分の考えをわかりやすく伝えるための根拠について考える。	60

第10回	プレゼンテーション 1	
	相手に伝わる話し方について、具体的に考える。	60
第11回	プレゼンテーション 2	
	相手に伝わる話し方について、具体的に考える。	60
第12回	プレゼンテーション 3	
	相手に伝わる話し方について、具体的に考える。	60
第13回	プレゼンテーション 4	
	相手に伝わる話し方について、具体的に考える。	60
第14回	プレゼンテーション 5	
	相手に伝わる話し方について、具体的に考える。	60
第15回	まとめ	
	前期の授業を振り返り、「聞く」「話す」「読む」「書く」さいのポイントについて理解を深める。	60

授業の方法

第1回から第7回は、その回のポイントに基づいた課題をこなすことが中心となる。第8回から第14回は、学生のプレゼンテーションが中心となる。

成績評価の方法

平常点および毎回課す課題を基に総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

特に次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①相手の主張に沿って話が理解できる。
- ②相手にわかりやすく自分の考えが伝えられる。
- ③論理的な構成に基づいて文章が書ける。
- ④文章の構成や展開に沿って論点が読み解ける。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <322>		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学での学習の概略を知り、研究の基本的技術を身につける。 授業内容はおよそ下記の「授業の計画と準備学習」に記す通りだが、その順序は扱うテキストによって大幅に変更される。随時、数回先までの予定を伝えるので、それに沿って準備学習をすること。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP3(他者との協働)、DP4(自発性、積極性)、DP5(表現力・発信力)の実現のため、以下を到達目標とする。 ①テキストや人の意見に想像力を働かせ、質問することができる。 ②自ら課題を見出し、調査を行い、考えをまとめて発表することができる。			
授業の計画と準備学習			
回数	授業の計画・内容		準備学習の目安(分)
	準備学習(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス(1)大学での学習について		
	復習を行う。		60
第2回	ガイダンス(2)文学の研究について		
	指定の課題を行う。		60
第3回	調査(1)書誌と本文		
	指定の課題を行う。		60

第4回	調査（2）時代背景	
	指定の課題を行う。	60
第5回	調査（3）作家	
	指定の課題を行う。	60
第6回	調査（4）メディア	
	指定の課題を行う。	60
第7回	自由討議	
	指定の課題を行う。	60
第8回	分析（1）視点	
	指定の課題を行う。	60
第9回	分析（2）構成	
	指定の課題を行う。	60

第10回	分析（3）文章	
	指定の課題を行う。	60
第11回	自由討議	
	指定の課題を行う。	60
第12回	執筆（1）引用	
	指定の課題を行う。	60
第13回	執筆（2）テーマと構成	
	指定の課題を行う。	60
第14回	執筆（3）注と参考文献	
	指定の課題を行う。	60
第15回	自由討議	
	指定の課題を行う。	60

授業の方法

講義と、作業またはディスカッションとをおよそ半分ずつの目安で行う。

成績評価の方法

通常の提出物および授業中の発言をそれぞれ50%程度の割り振りで、質と量の両方から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

主としてプリントを用いる。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <323>		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学生活で必要とされる基本的なアカデミックスキルを身に付け、物事を的確に理解するための読解力や傾聴力、自分の考えを相手に伝えるための表現力、自ら課題を発見して探究する能力を実践的に習得する。			

第4回	傾聴力のレッスン	
	指定の課題を行う。	60分
第5回	情報収集の方法－図書館とデータベースの活用	
	指定の課題を行う。	60分
第6回	大学四年間の生かし方 1	
	指定の課題を行う。	60分
第7回	大学四年間の生かし方 2	
	指定の課題を行う。	60分
第8回	価値観の多様性	
	指定の課題を行う。	60分
第9回	コミュニケーションの双方向性	
	指定の課題を行う。	60分

第10回	レポートの書き方	
	指定の課題を行う。	60分
第11回	プレゼンテーションの基本	
	指定の課題を行う。	60分
第12回	プレゼンテーショントレーニング	
	指定の課題を行う。	60分
第13回	日本を語る 1	
	日本文化をテーマにした 1 分間プレゼンテーションの準備をおこなう。	60分
第14回	日本を語る 2	
	日本文化をテーマにした 1 分間プレゼンテーションの準備をおこなう。	180分
第15回	まとめ	
	第 1 回からの授業内容を見直しておく。	60分

授業の方法

グループワーク・ロールプレイなどを用いたワークショップやプレゼンテーションの実践を通して、学生自身がお互いに学び合うことを基本とする。基礎的な知識やワークショップの内容については、教員が適宜解説する。

成績評価の方法

授業時の課題(50%)、課題レポート(50%)により総合的に評価する他、授業への積極的な取り組みをプラス評価として加算する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュヤーズ・セミナー <324>		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
自ら問題を発見し、主体的に課題に取り組むことが求められる大学での学びに必須のスキルを習得する。具体的には、日本文学研究に必要なレポートの書き方や文献調査の技術、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。			
到達目標			
DP1（教養の習得）、2（課題の発見と解決）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本文学の調べ方の基本的な手順を身につける。 ・情報を客観的に分析し、論理的に組み立てることができる。 ・自分の意見をわかりやすく伝え、また疑問点について話し合うことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス この授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	大学の授業 講義形式と演習形式の授業について		
	指定の課題を行う。		60
第3回	レポートの書き方 ブックレポートを書こう①		
	指定の課題を行う。		60

第4回	図書館実習 貴調書閲覧	
	指定の課題を行う。	60
第5回	レポートの書き方 ブックレポートを書こう②	
	指定の課題を行う。	60
第6回	レポートの書き方 ブックレポートを書こう③	
	指定の課題を行う。	60
第7回	レポートの書き方 課題レポートを書こう①	
	指定の課題を行う。	60
第8回	レポートの書き方 課題レポートを書こう②	
	指定の課題を行う。	60
第9回	プレゼンテーションの方法 レジュメ作りから口頭発表まで①	
	指定の課題を行う。	60

第10回	プレゼンテーションの方法 レジュメ作りから口頭発表まで②	
	指定の課題を行う。	60
第11回	プレゼンテーションの実践①	
	指定の課題を行う。	60
第12回	プレゼンテーションの実践②	
	指定の課題を行う。	60
第13回	プレゼンテーションの実践③	
	指定の課題を行う。	60
第14回	プレゼンテーションの実践④	
	指定の課題を行う。	60
第15回	授業のまとめ	
	これまでの学修内容を確認しておく。	60～

授業の方法

まず講義を行い、各自指定された課題に取り組んでもらう。その後、解説を加え、各自作成した課題をもとに参加者全員で討議を行う。

成績評価の方法

平常点（発表、課題などへの取り組み）50%、課題レポート50%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本文学の調べ方の基本が身についたか。
- ・調べた内容を客観的に分析し、論理的に組み立てることができるか。
- ・自分の意見をわかりやすく伝え、また疑問点について話し合うことができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <331>		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
国際文化学科で扱う「文化」とはどのような概念なのだろうか。国際関係、とくに近代以来の国民国家体制を、日本において、文化の視点から考えるとはどういうことだろうか。 このセミナーでは、2冊のテキストの講読を通して、近代以降および現代の国際関係や「世界における日本」が直面する文化的課題を考察したい。受講者が「国際文化」の教育研究の幅広さや深さを感じ、大学生活における自分なりの関心を見つける手がかりとなれば幸いである。 * 授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。			
到達目標			
このセミナーは、「文化とは」「国際関係における文化の視点とは」といった根源的問題に対し、直接で明確な解答を提示するものではない。しかし、こうした問題について各自が考える手がかりを、講読や討論の中で少しでも見つけられることを目標とする。同時に、大学での勉強に必要な各種のスキル（文献を批判的に読む、ものを調べる、文章や口頭で表現する、ゼミを運営するなど）を身につけることを目指す。こうした作業を通じて、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	<以下の計画は、おおよその目安である。受講者の人数や構成、問題関心等を見た上で、開講後に修正を加える可能性がある。> イントロダクション ・ 授業担当者の問題意識と授業の概要（全体像、進め方など）を説明する。 ・ 受講者の自己紹介を行い、授業への関心や希望を聴取し、今後のスケジュールを調整する。 【予習】テキスト2冊（青木、西川）を入手し、全体にざっと目を通しておく。 【復習】授業での配付資料をおさらいし、ゼミの概要を確認する。授業でコピーを配布した文献（柳父）を含め、テキストの全体を眺めてみる。		40
第2回	ゼミ（演習）形式授業に取り組む準備作業 ・ 講読、補足調査、プレゼン、討論などの方法を概説する。 ・ テキスト講読の報告担当者を決定する。 【予習】 テキストを眺め、自分が報告したいセクションの候補をいくつか選んでおく。 入学時に参加した図書館オリエンテーションの内容を復習する。 【復習】 授業で得た知識を生かして、指定された情報検索の課題に取り組む。		60
第3回	文献に取り組む準備作業 青木、西川、柳父のテキストについて、執筆者の人となりや問題意識、執筆や出版の背景事情を理解する。 【予習】テキストの事前指定箇所を読み、課題についてメモを取ってくる。必要に応じ、さらにネットや文献等で調査を行う。 【復習】授業で整理した情報をおさらいし、「本がつくられた文脈」を確認する。		60～90

第4回	文化の概念史把握と、テキスト報告の準備 柳父『一語の辞典 文化』を読み、文化ということば・概念の西洋および日本における歴史の流れをつかむ。 レジュメの作り方を学ぶ。	
	【予習・復習】柳父のテキストを通読し、事前に指定された課題（レポート執筆、レジュメ作成）に取り組む。	90～180
第5回	西川第2章「好きな国・嫌いな国」の講読 （主要関連テーマ：「国」に対するイメージ、日本人の社会的距離とアイデンティティ）	
	【予習】テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	60
第6回	青木第1章・1「文化とは対立するものなのか」の講読 （主要関連テーマ：グローバル化、文化的多様性）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第7回	青木第1章・2「宗教・民族の課題」の講読 （主要関連テーマ：世界の宗教、民族紛争、ナショナリズム）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第8回	青木第1章・3「理想の追求」の講読 （主要関連テーマ：普遍主義、文化多元主義、文化相対主義）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第9回	中間討論 ここまで読んだテキストの内容をふり返り、内容から導かれる発展的問題に関して討論を行う。	
	【予習】これまで読んだテキストを総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	60～90

第10回	西川第4章「欧化と回帰」の講読 (主要関連テーマ：日本の近代化、巨視的文明史論)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第11回	西川第IV部「文明と文化」の講読 (主要関連テーマ：文明・文化の概念史、西洋近代史、ナショナリズム、日本の近代化)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第12回	青木第2章「ソフト・パワーの時代とは」の講読 (主要関連テーマ：文化とパワーの関係、パブリック・ディプロマシー、国際文化交流)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第13回	テキスト第2章 その3 (世界市民法と友好の条件)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代的背景を考えると同時に、出入国管理、国籍やシティズンシップと外国人の権利、西洋と非西洋の関係、世界市民主義等について考察し理解を深める。	
第14回	総括討論 (1)	
	ゼミ後半で講読したテキストの内容をふり返り、内容から導かれる発展的問題に関して討論を行う。テキスト全体のふり返りも、授業の進捗状況に応じて開始する。	
第15回	総括討論 (2)	
	テキスト全体の内容を総括し、そこから導かれる問題に関して討論を行う。1学期間のゼミ活動のふり返りを行う。	
	【予習】テキスト後半部分（および、進捗状況によってはテキスト全体）を総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。期末レポートの執筆も、この時期やその前後に行うことが望ましい。	60～120
	【予習】テキスト全体を総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。期末レポートを執筆する。 【復習】報告や討論の内容をふり返り、ゼミでの学習で達成できたことや反省点をまとめ、今後の学習に生かしていく。	60～120

授業の方法

テキストの内容の要約および発展的調査研究の報告、それに対する討論を中心とした演習形式で行う。
調査研究と報告は、2名～数名のグループで実施する予定である。グループワークにあたっては、仲間と早めに相談し、協力して準備を行うこと。準備開始時には、テキストの内容把握や議題の設定等に関して、事前に教員と相談することを推奨する。
報告者以外の者も、テキストや事前課題の予習を自主的かつ積極的に行うことを求める。
テキストへの理解を深め、ゼミの活動に必要なスキルを習得するため、学期前半には導入的講義や実習的作業を交える。このほか必要に応じ随時、補足的な資料講読や調査などを行う可能性もある。

成績評価の方法

平常点（報告、討論への参加、各種提出物等）：80%
授業内レポート：20%
をめやすに、総合的に評価する。
報告者以外の者も全員が、毎回ある程度の分量の文献を読み、論点や疑問点を整理してくることが出席の条件となる。自主的に調べ、発言し、授業に積極的に参加する受講者、協力して充実した研究を行ったグループの受講者には、平常点においてプラスの評価を与える。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ゼミ開講時点ではとくに予備知識は必要ないが、インターネットの利用を含めたコンピュータの基本操作を身につけることが望ましい。
世界史や政治経済、倫理等の基礎知識が要求されるが、高校で選択していなくても自分なりに勉強する意欲があれば受講を歓迎する。
受講者には積極的に本を読み、メディア報道やインターネット情報等に注意を向けるなどして、授業の関連トピックにアンテナを張ることを求める。
関連科目：「国際関係論」「国際文化論」等。

テキスト

青木保『多文化世界』岩波新書、2003年。
西川長夫『増補 国境の越え方：国民国家論序説』平凡社ライブラリー、2001年。
→以上2冊は、初回の授業までに各自で用意しておくこと。
柳父章『一語の辞典 文化』三省堂、1995年。
→上記文献はシラバス作成時点で在庫切れのため、初回授業でコピーを配布する予定である。
このほか、開講時および開講中に随時、補足的テキストを追加指定する可能性がある。

参考書

旺文社編『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。
このほか、授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <332>		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、大学での学修活動、とくに演習形式の授業で求められる学術的技能の習得をめざす。はじめに、共通のテキストを読み進めながら、情報収集、報告（プレゼンテーション）、討論（ディスカッション）の練習を重ねる。次に、各自でテーマを選定し、授業内で報告する。最後に、この授業での学修成果を報告書（レポート）にまとめてもらう。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・学術的なプレゼンテーションやディスカッションの経験を積む。 ・レポートの作成作業を通して、学術的な文章を作成するために必要な基礎的技法を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。簡単な自己紹介の準備をしておく。 【復習】 テキストを用意し、概要を確認しておく。	60	
第2回	プレゼンテーションとディスカッションの練習		
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60	
第3回	プレゼンテーションとディスカッションの練習		
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60	

第4回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第5回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第6回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第7回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第8回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第9回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60

第10回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第11回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第12回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第13回	レポート作成の準備	
	【予習】 課題レポートで取り上げるテーマを選び、準備を進める。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第14回	レポート作成の準備	
	【予習】 課題レポートで取り上げるテーマを選び、準備を進める。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第15回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業を通して得た技能・知見・考え方のなかで、今後の各自の学修活動に活かせるものを見きわめる。	60

授業の方法

- ・ 演習形式でおこなう。前半はグループ報告、後半は個別報告で進める。
- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めてプレゼンテーションをおこない、その後、関連するディスカッションをおこなう。
- ・ 報告者（報告グループ）は、報告後に報告内容と今後の展望をまとめた事後レポートを提出する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（30%）、授業内報告（30%）、課題レポート（40%）。
- ・ 授業への取り組みについては、ディスカッションでの発言の回数や内容も評価の判断材料とする。
- ・ プレゼンテーション・ディスカッション・課題レポートでは、体裁や形式についても評価の判断材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

共通テキストには歴史学に関する文献を用いるが、当面は手持ちの日本史・世界史の知識だけで十分。

テキスト

- ・ 木畑洋一『20世紀の歴史』（岩波新書）（岩波書店、2014年）

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <333>		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
日本で海外渡航が自由化された1964年以降、ピーク時の97年には、日本を出国した人の約13パーセントに相当する221万人余りが訪れた場所-それが本演習の対象とするハワイである。2000年代の訪問者数は年間100万人程度に減少したとはいえ、現在でもハワイは「定番」の海外旅行先といえるだろう。 本演習では、ハワイの歴史を概観したうえで、歴史的に重要な出来事（たとえば、合衆国によるハワイ併合や第二次世界大戦など）について、誰によって何が語られたのか、あるいは語られなかったのかを主に日系移民と先住民の視点を踏まえて検討する。これらの事例研究を通じて、最終的には、国民国家主体の歴史観を相対化することを目指す。 なお、本演習では、上記のテーマに基づき、コラムの作成とともに、説得力のあるディスカッション、プレゼンテーションをするトレーニングも行う。			
到達目標			
DP4（「特別な教育プログラムや学外活動（留学、インターンシップ、ボランティア等を含む）に積極的に挑戦した経験を有し、生涯学び続けようとする強い自発的意思を有している」）を実現するため、以下の4点を到達目標とする。			
① 500字程度の文章を、形式的・内容的に過不足なく書くことができる。			
② 事前に準備したレジュメに基づいて、説得力あるプレゼンテーションを行うことができる。			
③ ハワイの歴史に関する事例研究を通じて、歴史叙述における「視点」の多様性を理解し、説明できる。			
④ 主に政治史・社会史・文化史的観点から、ハワイの歴史と文化の特徴を説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	概説：国民国家と島嶼地域 ・ 演習の進め方を説明する。 ・ 事例研究の対象であるハワイについて、その概要を学 修する。		
	【予習・復習】 指定テキストのプロローグを、よく読んでおくこと。		60
第2回	世界史の中のハワイ - 欧米・日本・ハワイ ・ 高校で使用している「世界史」の教科書の一部と比較しながら、指定テキストの特徴を理解する。		
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の1を、よく読んでおくこと。		60
第3回	日本人移民とハワイ - (1)労働者としての官約移民 ・ 日本人移民の歴史について、映像もみながら学修する。		
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の2と3を、よく読んでおくこと。		60

第4回	日本人移民とハワイ - (2) 日本人移民の生活 ・日本人移民の歴史について、映像もみながら学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の4を、よく読んでおくこと。	60
第5回	小括 - 文書・映像資料に基づくグループワーク ・映画を題材として、日本人移民社会の内部の多様性や性差について理解する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第1章を、もう一度よく読んでおくこと。	60
第6回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (1) 日・米・ハワイ関係史 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の1・2を、よく読んでおくこと。	60
第7回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (2) ハワイ王朝の歴史 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の2を、よく読んでおくこと。	60
第8回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (3) ハワイ先住民と観光業 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の3を、よく読んでおくこと。	60
第9回	小括 - 文書・映像資料に基づくグループワーク ・映画を題材として、ハワイ先住民と合衆国によるハワイ併合について学修する。とくに、歴史叙述における視点の違いとはなにかを理解する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第3章の1と2を、よく読んでおくこと。	60

第10回	第二次大戦とハワイ – (1) パールハーバーと日米開戦 ・「パールハーバー」をめぐる歴史的経験や解釈の違いについて、学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の1を、よく読んでおくこと。	60
第11回	第二次大戦とハワイ – (2) パールハーバーの「記憶」の継承と変容 ・「パールハーバー」をめぐる歴史的記憶をめぐる論争について、その意義を把握する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の2と3を、よく読んでおくこと。	60
第12回	小括 – 文書・映像資料に基づくグループワーク ・「パールハーバー」をめぐる戦争観の違いについて、映像史料に基づいて分析する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の4を、よく読んでおくこと。	60
第13回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第14回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。 また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第15回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第3章を、よく読んでおくこと。	60

授業の方法

演習形式で行う。テキストの精読については、事前に担当者を決める形で行う。文書・映像史料分析については、ペアワーク・グループワーク、あるいはクラス全体に対するプレゼンテーションの形で行う。クラスメートに迷惑をかけるので、遅刻は厳禁。

成績評価の方法

授業中の発言と事前あるいは授業中に課す課題＝本セミナーの平常点として換算（60%）、レジュメに基づく要約とコメント（20%）、プレゼンテーション（20%）による総合評価とする。さらに授業中の発言や質問、ペアワークやグループワークでの積極的な貢献に対しては、10%を上限として加算することがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

主に以下の点について、その到達度により評価する。

- ・ハワイの歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
- ・現代史の大きな流れの中にハワイの歴史を位置づけ、その歴史的意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。

テキスト

矢口祐人『ハワイの歴史と文化-悲劇と誇りのモザイクの中で』中公新書、2002年。
ISBN: 4-12-101644-0

参考書

ロナルド・タカキ『パウ・ハナ-ハワイ移民の社会史』刀水書房、1986年。
ハウナニ=ケイ・トラスク『大地にしがみつけ-ハワイ先住民女性の訴え』春風社、2002年。
矢口祐人・中山京子・森茂岳雄『真珠湾を語る-歴史・記憶・教育』東京大学出版会、2011年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <334>		
教員名	田中 一嘉		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
現代ヨーロッパ文化圏のルーツを辿っていきます。時代は中世に焦点を当てていきます。古代ギリシアとローマ帝国時代の後に訪れる中世期において、現代ヨーロッパの枠組みが形成されたといっても過言ではありません。キリスト教的な生活習慣がヨーロッパ全域に浸透したのもこの時期においてです。本セミナーでは、中世当時の身分制度や当地体制など政治的なレベルのものから、音楽、絵画・彫刻などの芸術文化、服飾史や食文化といった当時の生活レベルに密着した事柄を学んでいきます。その延長線上として、中世の時代に生きていた人々の「実感」を感じ取れるようになることが本セミナーの目的です。			
到達目標			
専門書レベルの文献の内容を理解する。 専門的な事柄について文献やデータベースを駆使して調査することができる。 調査した内容を決められたボリュームに収めてプレゼンテーションする力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション 発表テーマ決め。グループ決め。 発表準備およびプレゼン方法の説明。		
	指定したテキストに目を通して、発表したいテーマを予め決めておいてください。		120分
第2回	古代ギリシア・ローマ時代～中世初期にかけての歴史概説		
	ヨーロッパの歴史を復習しておいてください。		90分
第3回	「中世の身分制度」 戦う人（貴族）・祈る人（聖職者）・耕す人（農民）		
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。		60分

第4回	「農業革命」 農業技術の革新、人口増加と世界の拡大	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第5回	「騎士道文化」 貴族としての自意識 城塞、武器、戦争行為	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第6回	「ローマ・カトリックの形成と隆盛」 異端、東西教会分裂	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第7回	「ヨーロッパの周縁世界との交流」 イスラーム文化との交流・融合（イベリア半島） レコンキスタ	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第8回	「都市の形成」 市民の誕生 自治権の獲得	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第9回	「居住環境」 衛生環境	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分

第10回	「服飾文化」 モード（流行）、表象、色彩感覚	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第11回	「食文化」 食材、食器、テーブルマナー コース料理	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第12回	「音楽」 教会音楽、世俗音楽	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第13回	「絵画・彫刻」 象徴と抽象	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第14回	「書物と文字の役割」 法律、記録、娯楽	
	前回の復習、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。	60分
第15回	総括	
	レポート執筆に向けた準備。	60分

授業の方法

演習形式で行います。
各自興味関心のあるテーマを2つ選択して、グループ発表をしてもらいます。
発表に続いてディスカッションの時間を設けます。

成績評価の方法

平常点（発表とリアクションペーパー）70%
期末レポート30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校の世界史レベルの基礎知識があることが望ましい。古代から近代にかけての大まかな歴史の流れおよび地理をおさえておいて下さい。
中世ヨーロッパの世界は、日本の中世における武家社会と類似した点がいくつもあるので、高校で日本史選択だった場合でも、持っている知識を応用することができます。

テキスト

堀越宏一/甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ 中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房、2013

参考書

ジャック・ル・ゴフ（池田健二・菅沼潤訳）『中世とは何か』藤原書店、2005
W・サザーン（森岡敬一郎・池上忠弘訳）『中世の形成』みすず書房、1978
ヨアヒム・ブムケ（平尾浩三ほか訳）『中世の騎士文化』白水社、1995
上記以外のものは適宜、授業内で紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
詳細は初回授業時に周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <335>		
教員名	木村 秀雄		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学における学修の基礎を固めることをめざす。みずからアクティブに学ぶためのやりかた、具体的には研究テーマの設定、プロポーザル・ペーパーの書き方とプレゼンテーション、グループの研究のやり方、成果のプレゼンテーションなどを学修する。発表テーマ・レポートのテーマについては受講生と相談のうえ決定する。			
到達目標			
テーマの設定から研究の実施、さらに成果の報告まで、学生自らが主体的に決定し実施するのがアクティブラーニングである。「学ぶことを自ら決める」という大学における学修の基本を身につけることを最大の目標とする。ゼミを自らの意思によって運営し、その結果に責任を持つ姿勢が身につけば、授業の目標は達成されたことになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	「顔合わせ」と「興味のある分野の確認」 1 担当教員からゼミの方針について説明する。 2 受講生の興味を確認し、分野ごとに小グループに分ける。		
	シラバスで全体の流れを確認	30	
第2回	「共通テーマ」の検討 1 グループごとに「共通テーマ」についての相談 2 「共通テーマ」プレゼンの準備		
	各自「共通テーマ」について事前に考える	60	
第3回	「共通テーマ」の決定 1 グループごとに「共通テーマ」のプレゼン 2 投票によって共通テーマを決定		
	プレゼンに向けた作業	90	

第4回	「グループ研究」 1 共通テーマにもとづき、研究グループを組織 2 グループに分かれて研究の開始 3 レポート作成法	
	自分のやりたい具体的テーマを準備	60
第5回	「小レポートの読み合い」と「グループ研究」 1 作成したレポートを互いに読み合う 2 グループ研究の続行	
	レポート作成 グループ研究作業	60
第6回	「グループ研究」 1 グループ研究の続行 2 グループ発表の準備	
	グループ研究作業の準備	90
第7回	「グループ発表」 1 各グループの研究発表 2 パワーポイントと原稿の提出	
	グループ研究作業 発表パワーポイントと原稿の作成	90
第8回	「グループ発表の反省と第2回めの準備」 1 先週のグループ発表の総括 2 2回目のグループ発表テーマの提案	
	自分のグループの発表の評価を考える 2回目の発表テーマを考える	60
第9回	「第2回グループ発表のテーマ決定」 1 新たなグループの組織 2 グループに分かれて研究の開始 3 レポート作成法の説明	
	自分のやりたい具体的テーマを準備	60

第10回	「小レポートの読み合い」と「グループ研究」 1 作成したレポートを互いに読み合う 2 グループ研究の続行	
	レポート作成 グループ研究作業	60
第11回	「グループ研究」 1 グループ研究の続行 2 グループ発表の準備	
	グループ研究作業の準備	90
第12回	「グループ発表」 1 各グループの研究発表 2 パワーポイントと原稿の提出	
	グループ研究作業 発表パワーポイントと原稿の作成	90
第13回	「グループ発表の反省と第2回めの準備」 1 先週のグループ発表の総括 2 2回の発表を基礎にした個人研究テーマの決定	
	自分のグループの発表の評価を考える 個人レポートのテーマを考える	60
第14回	「個人研究」 1 レポートの書き方の指導 2 個人研究の続行	
	個人研究	60
第15回	「個人研究提出」 1 レポート提出 2 全体の総括	
	個人研究	90

授業の方法

グループ研究・個人研究・レポート作成を組み合わせ、ゼミの間にレポートの読み合わせ・グループ発表・グループ研究作業・個人研究作業を行なう。発表方法やレポート作成方法など、適宜教員が解説する。

成績評価の方法

授業への積極的参加の度合い、発表・レポートの内容を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

とくに定めない

参考書

授業中に適宜指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <336>		
教員名	樋口 真魚		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、大学生に必要とされる文献読解能力に加え、プレゼンテーションやディスカッションの方法、レポートの書き方といったアカデミック・スキルの習得を目指す。まず全員で課題文献の輪読を行う。次に各自が設定したテーマについて、個別に報告してもらう。最終的には、報告の際に指摘された批判や改善点を踏まえたうえで、レポートを提出することが求められる。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・課題文献の輪読を通して、基礎的読解能力を養う。 ・大学生に必要とされるアカデミック・スキルズを習得する。 ・一定水準の内容を備えた2000字程度のレポートが作成できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスを読む。 【復習】授業で配布された資料を読み直す。		60
第2回	自己紹介プレゼンテーション		
	【予習】自己紹介の準備をする。 【復習】授業で配布された資料を読み直す。		60
第3回	文献講読①		
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し、疑問点や論点を整理する。 【復習】授業で得た知見を整理する。		60

第4回	文献講読②	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し、疑問点や論点を整理する。 【復習】授業で得た知見を整理する。	60
第5回	文献講読③	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し、疑問点や論点を整理する。 【復習】授業で得た知見を整理する。	60
第6回	文献講読④	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し、疑問点や論点を整理する。 【復習】授業で得た知見を整理する。	60
第7回	文献講読⑤	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し、疑問点や論点を整理する。 【復習】授業で得た知見を整理する。	60
第8回	個人報告①	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第9回	個人報告②	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60

第10回	個人報告③	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第11回	個人報告④	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第12回	個人報告⑤	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第13回	個人報告⑥	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第14回	個人報告⑦	
	【予習】報告内容について下調べする。 【復習】報告や討論の内容を振り返りながら、要点を整理する。	60
第15回	レポート指導	
	【予習】参考文献や配布資料などに目を通す。 【復習】授業の要点を整理する。	60

授業の方法

- ・ 演習形式で進める。
- ・ 前半の輪読に関しては、毎回全員に400字程度のコメントを用意してもらう。
- ・ 後半の報告に関しては、事前に報告担当者を決め、毎回の授業でプレゼンテーションをおこなってもらう。
- ・ 報告内容を発展させるかたちで、期末レポートを作成してもらう。

成績評価の方法

平常点（報告内容、討論への参加状況）50%

期末レポート50%

次の点に着目して、その達成度により評価する。

- ・ 課題文献の論旨を的確に把握し、独自の分析を行えたか。
- ・ アカデミック・スキルズを習得できたか。
- ・ 自らが設定したテーマについての的確に分析し、他者に伝わるように表現できたか。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

初回授業時に指示する。

参考書

川村陶子監修『レポート・論文の書き方』（旺文社、2015）。

その他については、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <341>		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	情報収集の方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	情報収集の方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <342>		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュヤーズ・セミナー <343>		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	情報収集の方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	情報収集の方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <344>		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	情報収集の方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	情報収集の方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュヤーズ・セミナー <345>		
教員名	金 善美		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	情報収集の方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	情報収集の方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <346>		
教員名	加藤 祐介		
科目ナンバー	1901413000	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	情報収集の方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	情報収集の方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	情報収集の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	文献の読み方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	文献の読み方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	文献の読み方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	問題の立て方（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	問題の立て方（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	問題の立て方（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	プレゼンテーションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	プレゼンテーションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	プレゼンテーションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <411>		
教員名	北川 徹		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
【テーマ】 法律学の基礎 ～法的なものの考え方を学ぶ ♪			
【概要】 本セミナーでは、法の概念や機能、法の解釈など法律学の基本的な事項を学ぶとともに、論理的な思考力を養い、法的なものの考え方を修得することを目的とする。また、ディスカッションやディベートを積極的に取り入れることで、建設的な議論を行うことに慣れてもらう。			
到達目標			
・Diploma Policy（教養の修得（DP1）、課題の発見と解決（DP2）、自発性・積極性（DP4）、表現力・発信力（DP5））を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ① 法律学の基本的な考え方を修得する。 ② 裁判事例を読んで、事実の概要と裁判所が示した判断の要旨を的確に把握することができる。 ③ グループワークを通じて協調性を身につけるとともに、課題の発表やディベートを通じて、プレゼンテーション能力の向上をはかる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	○ガイダンス -本セミナーのねらい、運営方法 ・イントロダクション（1） -私たちの日常生活と法 担当教員が用意するレジュメの内容を十分に理解すること。 難しい法律用語については、法律学辞典などで調べておくこと。		
			30
第2回	・イントロダクション（2） -私たちの日常生活と法 担当教員が用意するレジュメの内容を十分に理解すること。 難しい法律用語については、法律学辞典などで調べておくこと。		
			60
第3回	・法の概念や機能、法の解釈 配付する資料等を読んで、十分に理解すること。		
			60

第4回	・ディベート・セッション【テーマ1】 -特定のテーマを題材にディベートを行う。ディベートの題材は、学生が主体的に選択する。	
	ディベートに参加する班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。	90（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第5回	・裁判例や文献・資料の検索方法／レポートなどの作成方法について	
	配付する資料等を読んで、十分に理解すること。	60
第6回	・ディベート・セッション【テーマ2】 -特定のテーマを題材にディベートを行う。ディベートの題材は、学生が主体的に選択する。	
	ディベートに参加する班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。	90（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第7回	・ディベート・セッション【テーマ3】 -特定のテーマを題材にディベートを行う。ディベートの題材は、学生が主体的に選択する。	
	ディベートに参加する班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。	90（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第8回	・ディベート・セッション【テーマ4】 -特定のテーマを題材にディベートを行う。ディベートの題材は、学生が主体的に選択する。	
	ディベートに参加する班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。	90（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第9回	・ディベート・セッション【テーマ5】 -特定のテーマを題材にディベートを行う。ディベートの題材は、学生が主体的に選択する。	
	ディベートに参加する班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。	90（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）

第10回	・裁判例の読み方（その1） -具体的な民事裁判例を使った演習	
	事前に配付する裁判例について、具体的な事実関係を的確に押さえ、何が争点で、それに対して裁判所はどのような判断をしたのか、説明できるように準備しておく。	60
第11回	・裁判例の読み方（その2） -具体的な民事裁判例を使った演習	
	事前に配付する裁判例について、具体的な事実関係を的確に押さえ、何が争点で、それに対して裁判所はどのような判断をしたのか、説明できるように準備しておく。	60
第12回	・ディベート・セッション【裁判例1】 -民事裁判例を題材にディベートを行う。裁判例は、担当教員が用意する。	
	原告側・被告側それぞれの班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。ジャッジ班のメンバーは、担当する裁判例の「事実の概要」をまとめておく。	120（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第13回	・ディベート・セッション【裁判例2】 -民事裁判例を題材にディベートを行う。裁判例は、担当教員が用意する。	
	原告側・被告側それぞれの班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。ジャッジ班のメンバーは、担当する裁判例の「事実の概要」をまとめておく。	120（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第14回	・ディベート・セッション【裁判例3】 -民事裁判例を題材にディベートを行う。裁判例は、担当教員が用意する。	
	原告側・被告側それぞれの班のメンバーは、事前にメンバーで議論する時間を確保し、班の主張をまとめておく。ジャッジ班のメンバーは、担当する裁判例の「事実の概要」をまとめておく。	120（ディベート担当班） 60（それ以外の学生）
第15回	・レビュー・セッション	
	これまでに扱った各論点を整理し、総まとめを行う。	60

授業の方法

●第1回～第3回：提示された課題について全員で議論する。一部、講義形式を取り入れる。

●第4、第6～9回の【ディベート・セッション（テーマ編）】：学生を2～4名からなる班に分け、各回について、3つの班が参加する。具体的には、各テーマについて①賛成派と②反対派が討論を行い、③ジャッジ班がディベートを評価する形式で行う。ディベートに参加しない学生は、最後にコメントを発表する。

●第12回～第14回【ディベート・セッション（裁判例編）】：各回について、3つの班が参加する。具体的には、①原告側と②被告側に分かれて議論を行い、③ジャッジ班は、該当する裁判例の「事実の概要」を冒頭に説明し、ディベート終了後にジャッジを行う。

成績評価の方法

- ・ディベートにおける主張や組立て等の内容（70%）、各回のテーマに対する意見や質問等の積極的な貢献（30%）を総合的に評価する。
- ・学期末の試験やレポートは実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

評価に際しては、以下の点を基準とする。

- ・法的なものの考え方を十分に理解しているかどうか。
- ・裁判事例について、事実の概要と判旨を的確に把握することができているかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要としない

テキスト

池田真朗・犬伏由子・野川 忍・大塚英明・長谷部由起子 『法の世界へ〔第7版〕』（有斐閣、2017年、1700円+税）
・本セミナーで使用する資料や裁判例は、適宜配付する。

参考書

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩 『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣、2015年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <412>		
教員名	吾妻 聡		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本授業は法学部 1 年生に対する法律学及び関連知識についての入門セミナーである。 受講生とも相談のうえ 10 から 12 の法律学上の重要テーマを選定し、受講人数に応じて適宜グループ分けをして各テーマについて報告していただく。 取り扱うテーマは例えば以下のようなものを考えている。 「罪を犯した少年の実名報道」「非嫡出子の相続分差別規定とその合憲性」「安楽死・尊厳死」「改正臓器移植法」「忘れられる権利」「AI搭載の自動運転車事故の責任所在」その他である。 （＊参加学生皆さんの興味に応じて、取り扱う内容と順番には変更の可能性がありますことを予めお含みきおき下さい。）			
到達目標			
本セミナーでは、DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）及びDP5（表現力、発信力）を実現すること、より具体的には、法律学の基礎及び関連知識の学び方を身に付けること、法学部生として学んで行く上で必要となる「読む」「書く」「論じる」などの基本的な能力を習得ことを実現するために、次の 3 つを到達目標とする。 －法律学的思考とはどのようなものかについて、具体的な社会問題を論じながら基本的なイメージを掴む。 －法律学的思考とはどのようなものかについて、政治学その他の隣接学問をも学びながらより深く理解する。 －法律学的思考とはどのようなものかについて、レジュメやパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス・班分け ゼミのプランについての相談		
	気になっている法現象・社会現象があれば、ご披露ください。		60分
第2回	準備日 報告の順番の決定		
	報告テーマについての配布資料		60分
第3回	法的思考入門（1）		
	事前配布資料その他		70分

第4回	法的思考入門（2）	
	事前配布資料その他	70分
第5回	演習参加者による報告 質疑応答・ディスカッション	
	予習文献・配布資料その他	70分
第6回	同上	
	同上	70分
第7回	同上	
	同上	70分
第8回	同上	
	同上	70分
第9回	同上	
	同上	70分

第10回	同上	
	同上	70分
第11回	同上	
	同上	70分
第12回	同上	
	同上	70分
第13回	同上	
	同上	70分
第14回	同上	
	同上	70分
第15回	ゼミのまとめ	
	報告全体についてのまとめ	60分

授業の方法

1. 報告の基礎となるテーマ・基本文献その他を担当教員が紹介し、受講生と相談して報告テーマを選定する。
2. 受講生が班ごとに（人数が少ない場合は各自で）45分間の報告をする。報告者はレジュメやパワーポイントを用意してください。
3. 報告をもとに、受講生全員で45分間の質疑応答・ディスカッションを行う。

成績評価の方法

平常点（出席・参加姿勢・参加者への敬意）40%、報告（文献の読解力・レジュメとパワーポイントの充実度・問題提起の適切さ）60%、として評価する。＊3回以上の無断欠席があった場合には単位を認めませんのでご注意ください。また、受講生の皆さんと相談の上、評価をより適正なものにするための簡潔なレポートの提出を求める場合があるかもしれませんので、あらかじめお含みおきください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
報告の内容、取り組む姿勢、参加者に対する敬意を全体として評価いたします。
ゼミ生のキラキラ度＝脳が活性化している人の目は、瞳孔が開くために多くの光を取り込み、キラキラと輝く－を高めたいと願っていますので、元気のよい報告・積極的な発言を歓迎・評価いたします。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

受講生と相談のうえ最終決定を行いますが、さしあたり以下のものを候補として考えております（従いまして、購入はテーマ決定後をお願いいたします。）

- ・阿部昌樹・和田仁孝 編 『新入生のためのリーガル・トピック50』（法律文化社）
- ・竜崎喜助『生の法律学』（尚学社）

参考書

- ・福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』（法律文化社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <413>		
教員名	関 理秀		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
裁判制度を通じ、法的なものの方の見方や考え方の基礎を学びます。			
到達目標			
法的思考の仕組み、法律を解釈することのおもしろさを知り、実体法と手続法の違いを知ると共に、民事裁判、刑事裁判の基本的な進み方を身につけることが目標です。 同時に、身近にある法的な問題点を素材に、議論をする力を養います。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	法律の体系／法律学の分類		
	特に準備の必要はありません。		0
第2回	法律を読む／法解釈学とは		
	特に準備の必要はありません。		0
第3回	民事法／刑事法		
	指定教科書 第1章を読んでください。		60

第4回	裁判所の仕組み	
	指定教科書 第2章を読んでください。	60
第5回	法曹の仕事	
	指定教科書 第3章を読んでください。	60
第6回	民事法の仕組み（1）	
	指定教科書 第4章「1」を読んでください。	60
第7回	民事法の仕組み（2）	
	指定教科書 第4章「2」「3」を読んでください。	60
第8回	刑事法の仕組み（1）	
	指定教科書 第4章「4」を読んでください。	60
第9回	刑事法の仕組み（2）／憲法訴訟	
	指定教科書 第4章「5」を読んでください。	60

第10回	裁判の進み方（１）	
	指定教科書 第5章を読んでください。	60
第11回	裁判の進み方（２）	
	指定教科書 第5章を読んでください。	30
第12回	裁判傍聴	
	指定参考書のうち、授業内で指定する部分を読んでください。	60
第13回	会社法の基礎／家族法の基礎	
	特に準備の必要はありません。	0
第14回	裁判傍聴報告会（１）	
	裁判傍聴レポートを提出してください。 傍聴した事件の発表の準備をしてください。	60
第15回	裁判傍聴報告会（２）／まとめ	
	特に準備の必要はありません。	0

授業の方法

少人数でのゼミの雰囲気を実感し、大学の授業の進め方に慣れてもらうために、できる限り受講者の皆さんとの対話を重視し、双方向形式で授業を進めていきます。
自分が疑問に感じることは、他の人もきっと疑問に思っているはずだと信じて、臆せず積極的に発言してください。
発言は、発言内容に関わらず、プラスに評価します。
担当教員は、日々様々な事件、様々な依頼者と向き合っている弁護士です。
ぜひ一緒に勉強しましょう。
(上記の授業計画は、皆さんからの希望等により変更する場合があります。)
(休講案内等について、掲示、ホームページ等をよく確認してください。)

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）30%、裁判傍聴レポート（30%程度）、授業への参加度、授業中の発言（30%程度）、その他（10%程度）を総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は特に必要ありませんが、1年生で学ぶ基本的な法律科目はいずれも本科目の基礎になります。
法律科目の講義で疑問に思ったことの質問も歓迎です。

テキスト

六法は毎回必ず持参してください。（皆さんが使いやすいもので結構です。）
『現代の裁判（第6版）』 市川正人／酒巻 匡／山本和彦 共著 有斐閣アルマ（2013年）
1700円＋税 ISBN 978-4-641-22002-7

参考書

『法廷傍聴へ行こう（第5版）』 井上 薫 著 法学書院（2010年）
1400円＋税 ISBN 4-587-03204-3

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <414>		
教員名	尾関 幸美		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
法律学の学習に必要な基本的な事項を学修する。 具体的には、①法学のイメージを掴む、②勉強方法を知る、③条文の読み方、④リーガルリサーチ、⑤判例報告、⑥レポート作成、⑦プレゼンテーションの方法等について学習する。			
到達目標			
法律を学習するための基礎を作る。 ・重要な条文が適用される具体的な事例を思いつけるようになる【DP 1、2】 ・簡単な事例に対する解決を自分で導けるようになる【DP 2、5】 ・条文と判例との関係を理解できるようになる【DP 2、3】 ・既存のルールと新たなルールとの関係を理解できるようになる【DP 1、2】 ・法律知識に基づき、具体的な事案を分析する専門性の基礎を身につける【DP 6】 ・学修に基づき、新しく生じる問題に法学の観点から対処する基礎を身につける【DP 7】。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	法律学のイメージの掴む① ・従来の勉強との相違 ・リーガルマインドとは何か		
	授業で勉強した内容を見直し、復習する。	30分	
第2回	② ・説得の技術としての法律 ・結論の妥当性と論理整合性 ・条文の解釈の種類		
	〃	〃	
第3回	法律学の勉強方法 ・六法 ・基本書・判例集 ・法律学辞典 ・インターネット		
	〃	〃	

第4回	講義・ゼミにおける勉強方法① ・講義の聴き方 ・予習・復習	
	〃	〃
第5回	講義・ゼミにおける勉強方法② ・法学部のゼミとは？ ・ゼミ報告の準備 ・レジュメの作り方	
	〃	〃
第6回	〃	
	〃	〃
第7回	リーガルリサーチ① ・雑誌論文・単行本を探す ・判例・判例解説・評釈	
	事前に指定したテーマについて調べてくる。	30分
第8回	リーガルリサーチ② ・外国法・制度のリサーチ ・インターネットの情報検索	
	〃	〃
第9回	レポートの作成①準備作業 ・テーマを決める。 ・資料を探す	
	テーマを決めて、それに関係しそうな資料のリストを作成する。	〃

第10回	レポートの作成② ・ 資料を読んで整理する。	
	読んだ資料の内容を簡単なメモにまとめる。	〃
第11回	レポートの作成③ ・ 構成を決める。 ・ 引用と注	
	レポートの構成（章立てや項目等）を決める。	〃
第12回	レポートの作成④ ・ レポートを書く	
	レポートの進捗状況を報告する。	60分
第13回	レポートの作成⑤ ・ レポートを書く	
	〃	〃
第14回	レポートの報告① ・ プレゼンテーション	
	レポートの内容について、プレゼンテーションの準備をする。	30分
第15回	レポートの報告② ・ 〃	
	〃	〃

授業の方法

事前に課題を指定し、当該課題について皆で議論し、理解を深めるという方法を取る。予習は必須であり、また、ゼミでの議論に積極的に参加することが求められる。

成績評価の方法

出席（15%）、報告（30%）、発言等（25%）およびレポート（30%）で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし

テキスト

テキストは特に指定しない。
必要な資料を適宜配布する。

参考書

弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <415>		
教員名	佐野 つぐ江		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
市民生活における法律問題に焦点を当て、実例・判例を題材にして、生活の中で起こりうる紛争・問題に適用される法律を学び、法的センスを養うことを目的とする。			
到達目標			
法学の基礎的な構造を理解し、判例読解に慣れること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・演習の内容、進め方を説明。		
	シラバスを読んで演習の進め方を理解しておく。	60	
第2回	民事裁判と裁判外の紛争手続		
	【予習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問点等をまとめておく。適用される法律条文を確認する。 【復習】 法律書（「コンメンタール」等）で、法律条文の解説、学説、適用事例等を確認しておく。	60	
第3回	一般の不法行為に基づく損害賠償事例		
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60	

第4回	特殊の不法行為に基づく損害賠償事例	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第5回	損害と特殊な事例	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第6回	賃貸借契約	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第7回	消費者取引	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第8回	特定商取引	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第9回	インターネット取引	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60

第10回	時効問題	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第11回	刑事事件	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第12回	刑事裁判と民事裁判	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第13回	労働問題	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第14回	人権問題	
	【予習・復習】 配布したプリントを熟読し、自分の意見、疑問等をまとめておく。適用された法律条文について、法律書で条文の解釈や学説、類似する判例等を確認する。	60
第15回	授業のまとめ、質疑応答。	
	【予習】 これまで配布したプリントを読みかえし、どのような事案に対してどのような法律条文が適用されるのか、自己の理解度を確認する。	60

授業の方法

ガイダンス後、次回の授業で取り上げる問題・判例について特定の記事・判例等のコピーを配布する。各授業においては、課題・判例の説明、問題点・学説等の説明後、各自に意見を求める。参加者は、事前に配布物を読んで条文をチェックし、自己の意見をまとめておくことが要求される。

成績評価の方法

授業への積極的な取組の表明となる自発的な意見を重視して、出席を併せて総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は特になし。

テキスト

小型六法、前の授業における配布資料。

参考書

適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <416>		
教員名	藤本 健一		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本演習では、実際に事件となった事案（裁判例）を素材として、事案分析、当事者の主張の分析、裁判所の判断過程の分析を行いながら、論理的に物事を考える練習をしていきます。
特に、弁護士として法律実務の現場にいる担当教員としては、みなさんには法学部出身者として論理的思考力を身に付けて社会人になっていただきたいという強い希望を持っています。それは、人を説得する、物事を予測する、現実に行っている現象を評価するなど、生活のさまざまな場面で役立つものだからです。
とはいっても、難しく考える必要はありません。担当教員が丁寧に指導していきますので、安心して授業に積極的に参加してください。

到達目標

本演習は、初めて法律学を学ぶみなさんが、今後学問を進めていくために必要な知識、技術、ものの考え方を習得することを到達目標としています。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入として、法律の勉強方法についての説明や、法律家の仕事のイメージを持ってもらうために、担当教員がこれまで行ってきた業務についてのプレゼンテーションを行う予定です。	
	必要ありません。	0
第2回	受講者（3人1組）による報告とそれに基づいた議論 ※報告第1回目を試行的に行います。準備の仕方、発表の方法についても適宜指導しますので、報告者は構えずに安心して準備、発表してください。	
	報告担当者は相談のうえ、市販の判例集（判例百選等）に掲載された事件について、題材を決定し、① 報告者は120~180 事実の概要②判旨③解説に役割を分担してレジメを作成する。	
第3回	受講者（3人1組）による報告とそれに基づいた議論	
	同上	同上

第4回	同上	
	同上	同上
第5回	同上	
	同上	同上
第6回	同上	
	同上	同上
第7回	同上	
	同上	同上
第8回	同上	
	同上	同上
第9回	同上	
	同上	同上

第10回	同上	
	同上	同上
第11回	同上	
	同上	同上
第12回	同上	
	同上	同上
第13回	同上	
	同上	同上
第14回	同上	
	同上	同上
第15回	同上	
	同上	同上

授業の方法

本演習では、民法の教科書や判例集に出てくる裁判例の中から各自一つ選び、報告してもらい、それをもとに議論するという手順で授業を進めることにします。報告内容は具体的には初回のオリエンテーションにて指示しますが、なぜその判例を選択したのか、どのような事案なのか、当事者の言い分は何か、争点はどこか、争点に対する裁判所の判断、その理由は・・・といった観点からレジメを作成してもらいます。

演習授業ですので、教員からも質問しますが、受講者からの積極的な発言を期待します。まだ勉強を始めたばかりであるからこそ、恥ずかしいなどと周囲を気にせずになりたいことが言える貴重なチャンスだと思って、議論に積極的に加わってください。必ず今後の学習に役立ちます。

第1回は導入として、法律の勉強方法についての説明や、法律家の仕事のイメージを持ってもらうために、担当教員がこれまで行ってきた業務についてのプレゼンテーションを行う予定です。

第2回以降は受講者による報告とそれに基づいた議論を行います

成績評価の方法

出席状況、報告内容、議論への参加態度などの総合評価。試験は行いません。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

適宜指示しますが、六法と、民法の授業で使用しているテキストは常に参照できる状態にしてください

参考書

適宜指示しますが、六法と、民法の授業で使用しているテキストは常に参照できる状態にしてください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <417>		
教員名	塩澤 一洋		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

テーマ：法律学への招待——憲法・民法・刑法の仕組みと本質をとらえる

成蹊大学法学部へようこそ!! このフレッシュャーズ・セミナー（略して「shioゼミ」）では、大学での法学研究をいかにして進めるか、その内容とツールについて伝授いたします。大学は「学問」と「研究」をする場であり、「学習」はその手段です。きちんと研究できるようになれば4年間の大学生活が有意義なものになります。能動的な「学習」による主体的な「研究」をして、法律学という面白い「学問」を一緒に楽しみましょう。

日本の法律の基本的な枠組みについて、憲法、民法、刑法の基本的な仕組みを中心に解き明かしていきます。いつも一つの「正解」があった大学入試までとは異なり、「学問」である「法律学」には「解」がたくさんあります。それを実感するため、実際に条文をゆっくりと読み解きながら、徐々に「自分の解」を出せるように思考力を磨いていきましょう。

一方、ツールに関しては、Mac/iPhone/iPadなどの使い方、「[<https://scrapbox.io/>]」をはじめとした各種クラウドサービスの利用方法、紙のノートの書き方、ペンや万年筆の使い方といった法学研究の基礎となるスキルを伝授する予定です。必要があれば毎回、大学のiPadを貸し出します。

もちろん、それ以外にも可能な限り、参加者のみなさんのご要望にお応えします。どんどん私に質問を投げかけてください。私もみなさんに質問します。ゼミ合宿、裁判所見学、お食事会など、みんなで企画して楽しいゼミにしましょう!!

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）、7（法的素養に裏打ちされた判断力）を実現するため、①ゼミ議論に積極的に参加、発言し、②ゼミの課題について各自論述文を起案した上でグループで検討を加えることにより、「論理的な文章表現と口頭表現ができるようになる」とともに、条文を体系的に読み、解釈し、事実に適用できるようにする」ことを到達目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	法律の研究に必要なITツール（Mac/iPhone/iPadなど）の使い方	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第2回	法律の研究に必要な各種のクラウドサービス（Scrapboxなど）の使い方	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第3回	ノートの書き方、本の読み方、条文の読み方、法的三段論法の基本構造	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分

第4回	私たちの生活は法律とどのように関わっているか	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第5回	法律とは何だろう。日本にはどのような法律があるのか。その種類を分けてみよう。	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第6回	法律と憲法はどのような関係があるのだろうか	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第7回	憲法は何のためにあるだろうか	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第8回	憲法地図を描く	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第9回	憲法の構成を解剖してみよう	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分

第10回	民法は何のためにあるのだろうか	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第11回	民法の構成を解剖してみよう	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第12回	民法地図を描く	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第13回	刑法は何のためにあるのだろうか	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第14回	刑法地図を描く	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分
第15回	刑法の構成を解剖してみよう	
	必要に応じて班ごとにサブゼミ（グループワーク）	班ごとに90分

授業の方法

最初の数回は、大学での研究に必要な様々な道具や方法について私からお話しします。そのあとはディスカッションです。毎回、私が問いかける「問い」に対して班ごとに議論し、見解をまとめて全体に発表した上で、クラス全体の見解を集約します。

「？」と「！」の循環を探訪しながら自己を見いだしていくのが学問です。ゼミの友は一生の友。普段のゼミの他、ゼミ合宿、裁判所見学、お食事会等、みんなで企画し、楽しく充実したゼミにしましょう。

成績評価の方法

ゼミというコミュニティに対する「貢献＝コントリビューション」を評価して成績を付けます。ゼミに対してプラスに作用する働きかけはすべて貢献です。

班の仲間とともに十分に準備し、ハンドアウト（文章表現、図解表現、論理表現）を作成し、プレゼンし、自発的、積極的に考えてアイデアを発言し、疑問を呈し、他者の見解をより良くするアイデアを出し、根拠となる資料を探し出し、その意味を解明するなど、議論を面白く発展させていくことはすべて大きな貢献となります。そのほか、ゼミを楽しくし、人間関係を深めて、互いの成長に寄与していくことが本質的に重要です。そのために、ゼミの運営に主体的にかかわり、ゼミやサブゼミを活性化し、各種の企画などを行うことによって、いろいろな貢献ができます。成績は、それら一人一人の貢献を総合的に評価します。

なおタバコの煙は他者の健康を害しますので、当然のことながらゼミの活動は合宿やイベント等も含め完全に全面的に完全禁煙です。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

民法I

テキスト

初回の授業で説明しますので、あらかじめ購入する必要はありません。

- ・法令集（六法）
- ・金子宏・新堂幸司・平井宜雄編『法律学小辞典＜第5版＞』有斐閣（又はそのアプリ）

参考書

授業の進捗に合わせて適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <418>		
教員名	橋場 典子		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本科目は、法学部一年生に対して法の考え方や法と社会との関連を学修してもらうことを目指して開講される。テキストの輪読を通して、レジュメ作成、報告、議論という一連の流れを身に付け、大学生活で必要とされる力の土台を身に付けることを目指す。			
到達目標			
DP4（自発性、積極性）を中心に、DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）を身に付けるため、次の二点を到達目標とする。 ①法の機能・逆機能を理解できる。 ②テキストの読解、レジュメ作成、報告、議論ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・セミナーの全体像と進め方について説明する ・各自の自己紹介		
	(予習) シラバスを読んでくる		30
第2回	報告割当の決定 報告準備の際の留意点の説明 法社会学導入(教員による)		
	(予習) テキストに目を通してくる		70
第3回	報告担当者による発表 参加者全員による質疑応答・ディスカッション		
	(予習) テキスト第一章「法社会学における法の概念」1～3 [報告者] レジュメ、パワーポイントを準備してくる [参加者全員] テキスト該当部分を事前に読み質問を考えてくる		70

第4回	同上	
	(予習) テキスト第二章「法専門職」 1～2	70
第5回	同上	
	(予習) テキスト第二章「法専門職」 3～4	70
第6回	同上	
	(予習) テキスト第三章「民事司法過程」 1～2	70
第7回	同上	
	(予習) テキスト第三章「民事司法過程」 3	70
第8回	同上	
	(予習) テキスト第三章「民事司法過程」 4	70
第9回	同上	
	(予習) テキスト第三章「民事司法過程」 5	70

第10回	同上	
	(予習) テキスト第四章「刑事司法過程」 1～2	70
第11回	同上	
	(予習) テキスト第四章「刑事司法過程」 3～4	70
第12回	同上	
	(予習) テキスト第四章「刑事司法過程」 5	70
第13回	同上	
	(予習) テキスト第五章「行政過程」 1～4	70
第14回	同上	
	(予習) テキスト第六章「日本の法と社会」 1	70
第15回	同上 セミナー総括	
	(予習) テキスト第六章「日本の法と社会」 2	70

授業の方法

毎回、参加者全員が報告テキストの該当部分を読んでくる。報告担当者は該当部分のレジュメを作成し、概ね前半の45分程度報告を行う。残りの45分程度で参加者全員による質疑応答・ディスカッションを行う。レジュメの作成及び報告を経験するとともに、各自が自身の考えを述べ、他者の意見を聞き、議論を行う。報告担当者、参加者双方に相応の準備が求められる。

成績評価の方法

平常点（講義内での発言、議論の姿勢）30%、報告（理解度、レジュメ内容、事前準備の深度）40%、期末レポート30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標に示された、①～②の達成度が評価の基準となる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

村山眞維・濱野亮著『法社会学（第三版）』有斐閣アルマ、2019年

参考書

必要に応じて講義内で提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <419>		
教員名	小沼 史彦		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

法学入門

このクラスは、専門科目や専門のゼミに向けて、法律学を学ぶための基礎を身につけ、勉強の仕方やレポート・発表の仕方を練習する、ゼミナール形式のクラスです。

到達目標

法とはどのようなルールであるのかを理解し、その社会における役割について考えることができる。
法律の条文や、判例に親しむ。
レポート・発表の方法を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、グループ分け、自己紹介。 授業スケジュールの相談	
	シラバスに目を通す。 法律学に対する自身のイメージを思い描いてみる。	90 文科省の単位認定の基準を参考にした数字
第2回	法とは何か（講義とディスカッション） 授業スケジュールの相談	
	第1回で指示された課題に取り組む。	90
第3回	法律文献の探し方	
	第2回で指示された課題に取り組む。	90

第4回	法文の解釈を学ぶ（講義とディスカッション）	
	第3回で指示された課題に取り組む。	90
第5回	裁判の仕組み（課題を各グループごとに発表）	
	第4回で指示された課題に取り組む。	90
第6回	判例を読む1 課題の判例について発表およびディスカッション	
	指定された判例を読む	90
第7回	判例を読む2 課題の判例について発表およびディスカッション	
	指定された判例を読む	90
第8回	レポート課題を選ぶ	
	自身が取り組みたい課題を見つける	90
第9回	レポート課題の途中経過報告とアドバイス	
	レポート課題に取り組む	90

第10回	レポート課題の途中経過報告とアドバイス	
	レポート課題に取り組む	90
第11回	レポート課題の発表とディスカッション	
	レポート課題に取り組む	90
第12回	レポート課題の発表とディスカッション	
	レポート課題に取り組む	90
第13回	レポート課題の発表とディスカッション	
	レポート課題に取り組む	90
第14回	全体の振り返り、レポート（提出用）完成へのアドバイス	
	レポート課題に取り組む	90
第15回	提出用レポート（報告書）の完成	
	これまで学習してきたことをまとめる	90

授業の方法

- ・ゼミナール形式で行います。
- ・部分的に講義形式を取り入れます。参加者の要望によっては、講義の部分を多くすることも考えています。
- ・テーマを決めて発表します。グループによる発表を中心に行います。

成績評価の方法

平常点（発言・発表・まとめのレポート）で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、ニュースや新聞などで社会問題に対する興味を持つようにすると、より関心を持って取り組み、理解も深まります。

テキスト

『法学ダイアリー』森本直子・折原保尚（編）、ナカニシヤ出版、2,000円＋税、ISBN978-4-7795-1137-0

参考書

『法律学習マニュアル』弥永 真生、有斐閣、2,000円＋税、ISBN978-4-6411-2584-1

『目で見える憲法』初宿正典ほか、有斐閣、1,600円＋税、ISBN978-4-6411-3104-0

六法 など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業前後、あるいはメールにて（随時）。

konuma△mail.dendai.ac.jp（△をアットマークに変えてください）

メールには、成蹊のゼミだと分かるようにタイトルを入れてください。本文には名前も入れてください。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <420>		
教員名	上本 昌昭		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
この演習の目的は、大学で必要とされる基礎的な学習スキルを受講者に身につけてもらうことです。受講者自らが文献を講読し、口頭報告ならびに議論に主体的に携わることで、このスキルの習得を目指します。また同時に、法学の基礎的内容を学ぶことで、今後の学習につながる基礎的知識を身につけてもらいたいと思います。			
到達目標			
この授業を通して、大学で必要とされる学習スキル、すなわち、文献の読み方、講義の聴き方、ノートのとり方などの「情報を収集し整理する方法」、ならびにレジュメの作成の仕方、口頭報告のやり方などの「収集した情報を効果的にプレゼンテーションする方法」、さらに「法学の基礎」を修得すること目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業ガイダンス 学習スキルに関する講義		
	【予習】 報告を希望する日の目星をつけておく。 【復習】 クラスフォーラムへ自己紹介を記載する。		60
第2回	文献① ・該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。		
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。		60
第3回	文献① ・該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。		
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。		60

第4回	文献① ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第5回	文献① ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第6回	文献② ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第7回	文献② ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第8回	文献② ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第9回	文献② ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60

第10回	文献③ ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第11回	文献③ ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第12回	文献③ ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第13回	文献③ ・ 該当箇所に関する報告ならびに全体でのディスカッション。	
	【予習】 該当箇所を熟読し、疑問点や私見を明らかにしておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第14回	全体のまとめ ・ これまでの議論に関する報告ならびに全体のまとめのディスカッション。	
	【予習】 これまでの議論を踏まえ、自分の暫定的見解をまとめておく。 【復習】 クラスフォーラムへ意見を記載する。	60
第15回	授業内試験 ・ テキスト内の任意のテーマについて 1 2 0 0 字程度の小論を作成。	
	【予習】 授業全体を振り返り、試験に備える。	60

授業の方法

初回は、学習を進めていく上で必要となるスキルを講義します。本の読み方・講義の聴き方、ノートのとおり方、資料の集め方など情報収集・整理する方法。また、補助資料（レジュメ）の作成、口頭報告のやり方などプレゼンテーションやディスカッションの方法。さらには資料を収集・整理して、レポートとして文章化する方法。これら基礎的なことですが確実に身につけていなければならないスキルについて、まず知識として知ってもらいます。

第2回以降は、テキスト該当箇所の予習を前提に、報告者による口頭報告と全体での議論を行います。担当者には、該当箇所の概要について30分程度の報告を行ってもらいます。受講者に必ず一度は口頭報告をしてもらいます。その後、報告内容とその関連問題について全体で議論を行います。これら一連の作業を通じて、「学習スキル」を経験しその習得を目指します。

成績評価の方法

口頭報告の内容（30％程度）、議論における貢献度（60％程度）、試験の結果（10％程度）などを総合的に判断して評価します。なお、試験は最終授業回に行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

日本語について十分な読解力と論述力があるか否かを評価の対象とします。ただし、これは授業全体での活動を通じて評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありません。幅広い好奇心と積極的に参加する熱意のある人であれば、これまでの知識の多寡は問題となりません。ただし、受講者は指定した文献の該当箇所を予め講読して授業に出席して下さい。その際、分からない言葉や用語はきちんと調べておき、可能な限り内容を理解しておくことが求められます。また、理解できなかった部分、疑問に思った箇所、興味を引かれた部分などを明らかにしておき、授業で指摘できるようにしておくと、学習効果が上がるでしょう。

テキスト

初回の授業で指定する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <421>		
教員名	湯原 心一		
科目ナンバー	1101414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：法学研究の基礎			
概要：法学研究の基礎として、法律を勉強するための基本的な事項を学修する。 学修内容として、法学研究の基礎、引用形式、レポート作成、法律用語、リーガルリサーチ、判例報告、条文の読み方等を学習する。教科書に基づく演習だけでなく、判例報告及びレポート作成等をグループワークとして行う予定である。講義ではなく、演習であるため、受講者が主体的に学習する必要がある。 授業時間におけるグループディスカッションの他に、授業時間外でもグループワークを行う必要があることに留意すること。予習やグループワークに相当の時間を費やす意欲のある受講生を歓迎する。また、議論やグループワークに積極的に貢献する学生を歓迎する。 第2回の授業までに、福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』（法律文化社、2016）を購入すること。 演習に際して、担当教員の企業法務における実務経験を活かし、現実にはどのような紛争が生じうるのか、また、その紛争を予防するためにどのような実務的な措置が採られているのかに配慮するものとする。また、法律実務を担うための実践的基礎となる知識・経験を積むことを目指す。			
到達目標			
今後4年間、法律を学修するために必要な基礎的知識を整え、また、基本的な経験を積む。 DP6について、法律知識に基づき、具体的な事案を分析する専門性の基礎を身につける。また、DP7について、学修に基づき、新しく生じる問題に法学の観点から対処する基礎を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	・ 授業開始にあたって（授業の進め方、評価基準等の確認） ・ ガイダンス 授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。		
		120	
第2回	法学研究の基礎1、引用形式 ・ 福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』3-52頁（法律文化社、2016） ・ 法律編集者懇話会『法律文献等の出典の表示方法』（2014） 授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。		
		120	
第3回	法学研究の基礎2、レポート作成の手引 ・ 福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』83-112頁（法律文化社、2016） ・ 金沢大学共通教育機構『レポート作成の手引』（2015） 授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。		
		120	

第4回	法律用語 ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（1）『及び』『並びに』『かつ』」法教343号6-8頁（2009） ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（2）『又は』『若しくは』」法教344号4-6頁（2009） ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（4）『推定する』『みなす』」法教346号4-6頁（2009） ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（5）『公布』『施行』『適用』」法教347号4-6頁（2009） ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（6）『遅滞なく』『直ちに』『速やかに』」法教348号4-6頁（2009） ・衆議院法制局法制執務研究会「条文の読み方—法制執務用語解説（8）『場合』『とき』『時』」法教350号4-6頁（2009）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第5回	リーガルリサーチ	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第6回	判例報告の準備	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第7回	法学研究の基礎3 ・福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』53-79頁、106-169頁（法律文化社、2016）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第8回	知的生産の技術、思考の整理学 ・梅棹忠夫『知的生産の技術』1-32頁（岩波新書、1969） ・外山滋比古『思考の整理学』10-15頁、30-35頁、91-96頁、134-139頁（ちくま文庫、1986）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120

第9回	法学研究の基礎4 ・ 法制執務用語研究会『条文の読み方』2-26頁（有斐閣、2012）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第10回	判例報告1 ・ 最大判平成27年12月16日民集69巻8号2427頁 ・ 最大判平成27年12月16日民集69巻8号2586頁 ・ 最大判昭和48年12月12日民集27巻11号1536頁	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第11回	判例報告2	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第12回	期末レポートの準備	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第13回	「契約の解釈」に関する議論 ・ シェイクスピア（福田恒存訳）『ヴェニスの商人』（新潮社、1967）（抜粋）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120

第14回	「個人と社会の関係」に関する議論 ・ プラトン（久保勉訳）『ソクラテスの弁明・クリトン』（岩波文庫、1964）（抜粋）	
	授業の内容について復習すること。また、次の授業の内容について、予習すること。	120
第15回	「死刑制度」に関する議論 ・ 平川宗信「死刑廃止論」法学教室228号14頁（1999） ・ 城下裕二「死刑制度—存廃論および適用基準を中心にして」法学教室249号14頁（2001） ・ 清隆「死刑制度に関する内閣府の世論調査について」判タ1416号27頁（2015）	
	授業の内容について復習すること。	120
授業の方法		
事前に予習の課題を与え、当該課題について議論し、理解を深めるという方法を取る。予習は必須であり、また、授業における議論に参加することが求められる。主体的に学ぶ意欲が必要である。		
成績評価の方法		
ゼミにおける出席、報告、参加（50%）及びレポート（50%）を総合的に評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
該当なし		
テキスト		
福本知行『法令・判例学習のツボとコツ』（法律文化社、2016）		
参考書		
弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016）		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <422>		
教員名	武田 真一郎		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
憲法の基本判例を読む。法律とは紙に何かが書いてあるだけのものだが、それによって巨額の金銭の支払いを命じられたり、場合によっては国家に生命を奪われるという事態が発生する。本講義では、憲法の重要な判例を通してこのような法律や裁判の仕組みの概要を理解することを目的とする。			
到達目標			
Diploma Policy（教養の修得（DP1）、課題の発見と解決（DP2）、自発性・積極性（DP4）、表現力・発信力（DP5））を実現するため、法学部の初心者が条文や判例の読み方に慣れるとともに法律的な思考方法に触れ、法学部で勉強を開始したことを実感できるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンスを行う。授業の進め方を説明し、報告する判例を割り当てる。		
	特になし。	なし。	
第2回	1 わいせつ文書取り締りと表現の自由 (チャタレー事件) 最判昭和32. 3. 13		
	外国人の憲法上の権利（マククリーン事件） 報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）	
第3回	2 プライバシーの権利性（「宴のあと」事件） 東京地判昭和39. 9. 28		
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）	

第4回	3 環境権と人格権（大阪空港公害訴訟） 最判昭和56. 12. 16	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第5回	4 尊属殺重罰と法の下での平等 最判昭和48. 4. 4	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第6回	5 死刑と残虐な刑罰 最判昭和23. 3. 12	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第7回	6 企業における女性差別 最判昭和56. 3. 24 7 嫡出性と法定相続分差別 最判平成25. 9. 4	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第8回	8 私立大学における学生の自由（昭和女子大事件） 最判昭和49. 7. 19 9 公務員関係と政治的自由（猿払事件） 最判昭和49. 11. 6	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第9回	10 外国人の基本的人権（マクリーン事件） 最判昭和53. 10. 4 11 人権の私人間効力（三菱樹脂事件） 最判昭和48. 12. 12	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）

第10回	12 地鎮祭と政教分離原則（津地鎮祭訴訟） 最判昭和52. 7. 13	
	13 信教の自由と加持祈祷治療 最判昭和38. 5. 15	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第11回	14 タクシー事業の免許制 最判昭和38. 12. 4	
	15 薬局開設の距離制限 最判昭和50. 4. 30	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第12回	16 行政手続と令状主義（川崎民商事件） 最判昭和47. 11. 22	
	17 戸別訪問の禁止 最判昭和56. 7. 21	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第13回	18 違憲立法審査権の性格（警察予備隊違憲訴訟） 最判昭和27. 10. 8	
	19 法律上の争訟（板まんだら事件） 最判昭和56. 4. 7	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第14回	20 統治行為（砂川事件） 最判昭和34. 12. 16	
	21 統治行為（苫米地事件） 最判昭和35. 6. 8	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）
第15回	全体のまとめ	
	報告者は資料を作成して、各事件の事実、判旨、自分の意見を発表する。報告者以外は事前に配布したプリントを読み、事件の概要を理解する。	90分（報告者以外）

授業の方法

ゼミ形式で行う。各判例について報告者を決め、報告者は資料を作成して全員に配布し、報告を行う。報告に基づき、全員で討論を行う。

成績評価の方法

報告（資料を含む）60%、討論40%の割合で平常点評価とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

憲法の授業を同時に履修していることが望ましい。

テキスト

なし（事前に各判例の判旨と解説をまとめたプリントを配布する）

参考書

戸松秀典著「ブレップ憲法」第4版（弘文堂）
憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <423>		
教員名	鶴 恒介		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学で法律を学ぶための入門のゼミです。具体的な授業内容としては、裁判所の判決を読み、それについて発表をしたり、レポートを書いたりしてもらいます。 上記の授業内容を通じて、第一に六法や判例集など、みなさんがこれまでおそらく使ったことのない、法律を理解するためのツールを使いこなす力をつけます。 また同時に、ゼミでの発表、他の学生との議論、レポートの作成・提出など、大学生に求められる学修のスキルを修得します。 以上の力やスキルを得ることによって、大学でのこれからの法律の学修をよりスムーズに、またより深いものにできるようになるはずで す。さらに、これらによって授業以外でも、社会人になってからも、みずから学んで、伸び続けることができるようになることを目指しま す。			
到達目標			
DP 1～DP5を実現するため、以下の10点を到達目標とする。ただし、10の到達目標のうち、とりわけ2～4（DPの2（課題の発見と解 決）、4（自発性・積極性）、5および6（表現力・発信力）に対応）に重点を置く。 1. 裁判所の判決を読み、当事者のそれぞれの主張と裁判所の判断を的確に要約できる。 2. 六法や判例集を使って、法令や判例、その他の文献を調べられる。 またそのために、インターネットを用いるだけでなく大学の図書館 を活用することができる。 3. ゼミ発表やレポート作成のために何を行うべきかを自ら考え、計画的に実行して目標を達成することができる。 4. 発表のレジュメやレポートを作成し、法令・判例の状況や学者の意見を的確に述べることができる。 5. 法令・判例・学説を理解した上で、自分の意見を明快に述べることができる。 6. 論拠や典拠を示して、説得力のある意見を述べることができる。 7. ゼミ発表やレポートにおいて、正しい用語と適切な日本語を用いて表現をできる。 8. 聞きやすく、わかりやすく、また質問や意見が出やすい内容の発表をすることができる。 9. 他の学生の発表を聞き、質問や意見を積極的に述べて、議論を盛り上げることができる。 10. 他人の文の焼き直しではない、オリジナルのゼミ発表をし、レポートを書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	・ゼミの内容・進め方の説明 ・DP・到達目標についての説明（シラバスの読み方） ・班の編成作業 ・課題1「法令の条文を調べる」出題		
	【予習・復習】 ・シラバスをよく読み、とりわけ到達目標を確認しておく。 ・『法律学習マニュアル』22頁～32頁を読む。 ・課題1に取り組む。		90分
第2回	・課題の答え合わせ ・判決の出典の書き方・判決の見つけ方を学ぶ ・班のメンバー紹介 ・課題2「判決を読む」出題		
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』162頁～174頁を読む。 ・課題2の指示に従い、図書館で判決を入手し、レジュメを作る。		60分

第3回	・判旨のまとめ方・文章の引用の練習 ・課題3「判例評釈を探す」出題 ・課題の答え合わせ	
	【予習・復習】 『法律学習マニュアル』176頁～「4. 判例評釈・解説を読んでみる」を読む。 ・課題3の指示に従い、図書館で評釈を調べ、レジュメにまとめる。	120分
第4回	・文献のデータベース等を使って学者のテキスト、論文を集める方法を学ぶ ・課題4「著書や論文を見つけて調べる」出題 ・課題の答え合わせ	
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』110頁～122頁を読み、単行本／雑誌論文の探し方を概観する。 ・課題4の指示に従い、図書館でデータベースを使って調べ、レジュメにまとめる。	120分
第5回	・判例のデータベース等で判決をたくさん調べる方法を学ぶ ・課題5「過去の裁判例を見つける」出題 ・課題の答え合わせ ・『基本的人権の事件簿』を用いて、発表テーマの指定	
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』127頁～「4. 実際に判例を探してみよう」を読み、判例の探し方を理解する。 ・課題5の指示に従い、図書館で裁判例をたくさん調べ、レジュメとしてまとめる。	120分
第6回	・ゼミ発表の評価規準について議論をし、規準の作成をする。 ・課題の答え合わせ ・課題6「発表の準備の段取り」出題 ・発表の仕方とレジュメの提出について	
	【予習・復習】 シラバスの到達目標をもう一度読む。 これまでの課題の評価に目を通す。	60 分
第7回	これまでの課題について、教員の評価をよく読み、到達目標への到達度をふりかえる。	
	【予習・復習】 これまでの課題を読み返し、到達目標への到達度を判定してみる。 より到達目標に近づくための方法を考え、書き出してみる。	90分
第8回	判決について発表と議論（1） ・1班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分

第9回	判決について発表と議論（2） ・2班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第10回	判決について発表と議論（3） 3班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第11回	判決について発表と議論（4） ・4班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、ループリックで評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第12回	判決について発表と議論（5） ・5班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第13回	・レポートの出題 ・レポート（判例評釈）の書き方の説明 ・レポートの評価規準について議論し、規準を作成する。	
	【予習・復習】 『法律学習マニュアル』第7章を読む。	60分
第14回	レポートの中間報告（判決の「事実」と「判旨」、参考文献表について各自が発表をする）	
	【予習・復習】 レポートのうち「事実」と「判旨」を書く。 その他、参考にする文献を列挙する。 レポートを完成し、指定の日までに、SEIKEI PORTALから提出する。	120分～

第15回	ゼミ発表について、教員や他の学生の評価などを読み、到達目標への到達度をふりかえる。	
	【予習・復習】 発表のレジュメ等を読み返し、到達目標への到達度を判定してみる。 より到達目標に近づくための方法を考え、書き出してみる。	60分
授業の方法		
・法律の学習方法を実践してみるための課題を出すので、あらかじめ図書館で調べ、その課題を行う。授業では、答え合わせをして、習得すべき内容を確認する。 ・3、4人の班を編成し、判決をテーマにした発表を行う。発表以外の者も、十分に予習をした上で、ゼミを盛り上げることが求められる。発表と議論を振り返り、各自、発表の評価とコメントを書く。 ・レポート課題のテーマに沿い、レポートを作成して提出する（提出は15回目よりも後）。		
成績評価の方法		
平常点（授業への参加状況（ゼミ発表での発言など）、課題や発表の評価とコメントの提出状況）が60～70点。ゼミ発表、レポートの提出とそれらの評価を30～40点として、100点満点で評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
次の点に着目し、その達成度により評価する。 1. 判決を読み、事実と法問題についての、当事者の主張、裁判所の判断を読み取ることができるか。 2. さまざまな法令の条文を、六法などを使って調べることができるか。 3. テーマとなる判決と同じ・類似の事案や争点の裁判例を探し、比較する（共通点や異なる点を探す）ことができるか。 4. あるテーマについての学説（学者の論文等）を、データベースなどを使って調べることができるか。 5. 法令・判例・その他の文献を調べるために、大学の図書館を活用することができるか。 6. 発表やレポートの準備において、やるべきことをあらかじめくわしく明確にし、期限に合わせて行うことができるか。 7. レジュメやレポートに、引用を「」で示し、また出典を明記して、他人の文と自分の文の区別がつくように書くことができるか。 8. 自分の意見を、理由を含め、明快に述べることができるか。 9. 論拠や根拠を示して、説得力のある意見を述べることができるか。 10. 聞きやすく、わかりやすく、また質問や意見が出やすい内容の発表をすることができるか。 11. ゼミに十分な予習をしてのぞみ、ゼミ発表に対して質問などで盛り上げることができるか。 12. 正しい用語と適切な日本語で、ゼミ発表をし、レポートを書くことができるか。 13. 他人の文の焼き直しでない、オリジナルのゼミ発表をし、レポートを書くことができるか。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
憲法や民法など基礎的が法律科目を同時に履修すべき。また、新聞やニュースなどで世の中の出来事に興味を持つようにすること。関連科目は、本学で学ぶことのできるすべての法律科目である。		
テキスト		
・弥永真生 著『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣 本体2,000円） ・棟居 快行、松井 茂記、赤坂 正浩、笹田 栄司、常本 照樹、市川 正人 著『基本的人権の事件簿 ― 憲法の世界へ 第5版』（有斐閣 本体1,900円） ・そのほか、毎回、六法を持参すること。初回に詳細を指示する。		
参考書		
・高橋和之、伊藤眞、小早川光郎、能見善久、山口厚 編集代表『法律学小辞典 第5版』（有斐閣 本体4,500円） ・指宿信、齊藤正彰 監修『リーガル・リサーチ 第5版』（日本評論社 本体1,800円） ・青木人志 著『判例の読み方 ― シッシー＆ワッシーと学ぶ』（有斐閣、本体800円）		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付けるほか、随時、電子メールで受け付ける。		

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <424>		
教員名	本多 諭		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本講義のテーマは、身近な問題を法律を使って解決していくことで、法律に慣れ親しんでもらうことです。 よく、法律の勉強とは何をするものかという質問を受けます。 法律の勉強とは、呪文のような条文や判例などを覚えるものなどと誤解されている方もいらっしゃるかと思います。もちろん、基本的な条文や判例等は知識として身につける必要はありますが、ただそれを暗記するだけが法律の勉強ではありません。 法律は、様々な紛争を法律を使って解決するために作られたものです。そこから、法律の勉強とは、法律を使って紛争をどのように解決していくのかを学んでいくものです。 ただ、法律というと皆さんになかなかなじみがないため、イメージしづらいと思います。そこで、本講義では実際にあった事件で、皆さんにもなじみやすい身近な問題を、どのように解決していくかを学んでいただきます。 それによって、法律に慣れ親しんでいただくことが目標です。 具体的には、最初の数回の講義で憲法人権、民法総則の重要な条文とその流れを説明し、それを元に、身近な問題を取り上げて、グループごとにその身近な問題を法律を使ってどのように解決していくか検討してもらうことになります。			
到達目標			
憲法人権の条文を理解し、憲法の一般的な問題をどのように解決していくかを習得する。 民法総則の条文を理解し、民法の一般的な問題をどのように解決していくのかを習得する。 憲法人権の判例を説明できるようになることを目標とする。 民法総則の判例を説明できるようになることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・自己紹介 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方、評価基準等を説明する。		
	シラバスを読む。		10分
第2回	グループ分け。 憲法とは何か、憲法の一般的な特徴、使い方等を理解する。		
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。		60分
第3回	憲法人権の条文について身近な例で理解する。 憲法人権の条文を身近な例で実際に使えるように理解する。		
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。		60分

第4回	憲法人権の条文について身近な例で理解する。 憲法人権の条文を身近な例で実際に使えるように理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。 課題をグループで検討する。	70分
第5回	憲法人権の判例を理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分
第6回	憲法人権の判例を理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。 課題をグループで検討する。	70分
第7回	憲法人権の身近な問題を条文を使って解決する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分
第8回	憲法人権の身近な問題を条文を使って解決できるようにする。 課題の検討をする。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。 課題をグループで検討する。	90分
第9回	民法とは何か。 民法総則の一般的な特徴、使い方等を理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分

第10回	民法総則の条文について身近な例で理解する。 民法総則の条文を身近な例で使えるように理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分
第11回	民法総則の条文について身近な例で理解する。 民法総則の条文を身近な例で使えるように理解する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。 課題をグループで検討する。	70分
第12回	民法総則の身近な問題をグループごとに検討する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分
第13回	民法総則の身近な問題をグループごとに検討する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。	60分
第14回	民法総則の身近な問題についてグループごとに検討する。 課題レポートをグループごとに提出する。	
	講義で配布したレジュメを読み返し講義の内容を復習する。 課題をグループごとに検討する。	90分
第15回	前回提出した課題についての解説、質疑応答 講義のまとめ	
	今までのレジュメを読み返し総復習をする。	90分

授業の方法

ゼミ形式で講義をする。
各科目の最初は、基本的な点を軽く講義をし、その後具体的な問題について議論する。
第2回目の講義で3名程度のグループをこちらが作るので、そのグループごとに検討してもらうこともある。
グループで課題について発表する。

成績評価の方法

ゼミ形式であるので、講義態度（講義中の発言や講義への積極的な参加、質問等）と課題レポートで総合評価します。
特に、各講義最初に行う、前回講義の復習問題については各自積極的に発言して下さい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

講義態度（40%）
グループごとの小課題（4回 30%）
グループごとの大課題（1回 30%）

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

レジュメを配布
六法全書（コンパクトなものでよい）

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <425>		
教員名	鶴 恒介		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学で法律を学ぶための入門のゼミです。具体的な授業内容としては、裁判所の判決を読み、それについて発表をしたり、レポートを書いたりしてもらいます。 上記の授業内容を通じて、第一に六法や判例集など、みなさんがこれまでおそらく使ったことのない、法律を理解するためのツールを使いこなす力をつけます。 また同時に、ゼミでの発表、他の学生との議論、レポートの作成・提出など、大学生に求められる学修のスキルを修得します。 以上の力やスキルを得ることによって、大学でのこれからの法律の学修をよりスムーズに、またより深いものにできるようになるはずで す。さらに、これらによって授業以外でも、社会人になってからも、みずから学んで、伸び続けることができるようになることを目指しま す。			
到達目標			
DP 1～DP5を実現するため、以下の10点を到達目標とする。ただし、10の到達目標のうち、とりわけ2～4（DPの2（課題の発見と解 決）、4（自発性・積極性）、5および6（表現力・発信力）に対応）に重点を置く。 1. 裁判所の判決を読み、当事者のそれぞれの主張と裁判所の判断を的確に要約できる。 2. 六法や判例集を使って、法令や判例、その他の文献を調べられる。 またそのために、インターネットを用いるだけでなく大学の図書館 を活用することができる。 3. ゼミ発表やレポート作成のために何を行うべきかを自ら考え、計画的に実行して目標を達成することができる。 4. 発表のレジュメやレポートを作成し、法令・判例の状況や学者の意見を的確に述べることができる。 5. 法令・判例・学説を理解した上で、自分の意見を明快に述べるができる。 6. 論拠や典拠を示して、説得力のある意見を述べるができる。 7. ゼミ発表やレポートにおいて、正しい用語と適切な日本語を用いて表現をできる。 8. 聞きやすく、わかりやすく、また質問や意見が出やすい内容の発表をすることができる。 9. 他の学生の発表を聞き、質問や意見を積極的に述べて、議論を盛り上げることができる。 10. 他人の文の焼き直しではない、オリジナルのゼミ発表をし、レポートを書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	・ゼミの内容・進め方の説明 ・DP・到達目標についての説明（シラバスの読み方） ・班の編成作業 ・課題1「法令の条文を調べる」出題		
	【予習・復習】 ・シラバスをよく読み、とりわけ到達目標を確認しておく。 ・『法律学習マニュアル』22頁～32頁を読む。 ・課題1に取り組む。	90分	
第2回	・課題の答え合わせ ・判決の出典の書き方・判決の見つけ方を学ぶ ・班のメンバー紹介 ・課題2「判決を読む」出題		
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』162頁～174頁を読む。 ・課題2の指示に従い、図書館で判決を入手し、レジュメを作る。	60分	
第3回	・判旨のまとめ方・文章の引用の練習 ・課題3「判例評釈を探す」出題 ・課題の答え合わせ		
	【予習・復習】 『法律学習マニュアル』176頁～「4. 判例評釈・解説を読んでみる」を読む。 ・課題3の指示に従い、図書館で評釈を調べ、レジュメにまとめる。	120分	

第4回	・文献のデータベース等を使って学者のテキスト、論文を集める方法を学ぶ ・課題4「著書や論文を見つけて調べる」出題 ・課題の答え合わせ	
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』110頁～122頁を読み、単行本／雑誌論文の探し方を概観する。 ・課題4の指示に従い、図書館でデータベースを使って調べ、レジュメにまとめる。	120分
第5回	・判例のデータベース等で判決をたくさん調べる方法を学ぶ ・課題5「過去の裁判例を見つける」出題 ・課題の答え合わせ ・『基本的人権の事件簿』を用いて、発表テーマの指定	
	【予習・復習】 ・『法律学習マニュアル』127頁～「4. 実際に判例を探してみよう」を読み、判例の探し方を理解する。 ・課題5の指示に従い、図書館で裁判例をたくさん調べ、レジュメとしてまとめる。	120分
第6回	・ゼミ発表の評価規準について議論をし、規準の作成をする。 ・課題の答え合わせ ・課題6「発表の準備の段取り」出題 ・発表の仕方とレジュメの提出について	
	【予習・復習】 シラバスの到達目標をもう一度読む。 これまでの課題の評価に目を通す。	60 分
第7回	これまでの課題について、教員の評価をよく読み、到達目標への到達度をふりかえる。	
	【予習・復習】 これまでの課題を読み返し、到達目標への到達度を判定してみる。 より到達目標に近づくための方法を考え、書き出してみる。	90分
第8回	判決について発表と議論（1） ・1班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第9回	判決について発表と議論（2） ・2班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分

第10回	判決について発表と議論（3） 3班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第11回	判決について発表と議論（4） ・4班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、ループリックで評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第12回	判決について発表と議論（5） ・5班目の班による発表、全員での議論 ・発表者は自分の発表について、他の学生は発表者の発表と自分の予習について、評価基準に基づき評価。 ・発表の準備、予習から発表と議論まで全体を振り返り、コメントを書く	
	【予習・復習】 発表者：文献を調べ、レジュメを作成して提出。発表の準備をする。事前にレジュメをアップロードする。 発表者以外：発表テーマとなる判決を探し、「事実」・「判旨」を要約して、SEIKEI PORTALから提出。質疑でゼミを盛り上げられるよう準備する。	120分
第13回	・レポートの出題 ・レポート（判例評釈）の書き方の説明 ・レポートの評価規準について議論し、規準を作成する。	
	【予習・復習】 『法律学習マニュアル』第7章を読む。	60分
第14回	レポートの中間報告（判決の「事実」と「判旨」、参考文献表について各自が発表をする）	
	【予習・復習】 レポートのうち「事実」と「判旨」を書く。 その他、参考にする文献を列挙する。 レポートを完成し、指定の日までに、SEIKEI PORTALから提出する。	120分～
第15回	ゼミ発表について、教員や他の学生の評価などを読み、到達目標への到達度をふりかえる。	
	【予習・復習】 発表のレジュメ等を読み返し、到達目標への到達度を判定してみる。 より到達目標に近づくための方法を考え、書き出してみる。	60分

授業の方法

・法律の学習方法を実践してみるための課題を出すので、あらかじめ図書館で調べ、その課題を行う。授業では、答え合わせをして、習得すべき内容を確認する。

・3、4人の班を編成し、判決をテーマにした発表を行う。発表以外の者も、十分に予習をした上で、ゼミを盛り上げることが求められる。発表と議論を振り返り、各自、発表の評価とコメントを書く。

・レポート課題のテーマに沿い、レポートを作成して提出する（提出は15回目よりも後）。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況（ゼミ発表での発言など）、課題や発表の評価とコメントの提出状況）が60～70点。ゼミ発表、レポートの提出とそれらの評価を30～40点として、100点満点で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. 判決を読み、事実と法問題についての、当事者の主張、裁判所の判断を読み取ることができるか。
2. さまざまな法令の条文を、六法などを使って調べることができるか。
3. テーマとなる判決と同じ・類似の事実や争点の裁判例を探し、比較する（共通点や異なる点を探す）ことができるか。
4. あるテーマについての学説（学者の論文等）を、データベースなどを使って調べることができるか。
5. 法令・判例・その他の文献を調べるために、大学の図書館を活用することができるか。
6. 発表やレポートの準備において、やるべきことをあらかじめくわしく明確にし、期限に合わせて行うことができるか。
7. レジュメやレポートに、引用を「」で示し、また出典を明記して、他人の文と自分の文の区別がつくように書くことができるか。
8. 自分の意見を、理由を含め、明快に述べることができるか。
9. 論拠や転居を示して、説得力のある意見を述べることができるか。
10. 聞きやすく、わかりやすく、また質問や意見が出やすい内容の発表をすることができるか。
11. ゼミに十分な予習をしてのぞみ、ゼミ発表に対して質問などで盛り上げることができるか。
12. 正しい用語と適切な日本語で、ゼミ発表をし、レポートを書くことができるか。
13. 他人の文の焼き直しでない、オリジナルのゼミ発表をし、レポートを書くことができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

憲法や民法など基礎的が法律科目を同時に履修すべき。また、新聞やニュースなどで世の中の出来事に興味を持つようにすること。関連科目は、本学で学ぶことのできるすべての法律科目である。

テキスト

- ・弥永真生 著『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣 本体2,000円）
- ・棟居 快行、松井 茂記、赤坂 正浩、笹田 栄司、常本 照樹、市川 正人 著『基本的人権の事件簿 ― 憲法の世界へ 第5版』（有斐閣 本体1,900円）
- ・そのほか、毎回、六法を持参すること。初回に詳細を指示する。

参考書

- ・高橋和之、伊藤真、小早川光郎、能見善久、山口厚 編集代表『法律学小辞典 第5版』（有斐閣 本体4,500円）
- ・指宿信、齊藤正彰 監修『リーガル・リサーチ 第5版』（日本評論社 本体1,800円）
- ・青木人志 著『判例の読み方 ― シッシー＆ワッシーと学ぶ』（有斐閣、本体800円）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、随時、電子メールで受け付ける。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <426>		
教員名	久保田 聡		
科目ナンバー	1001414010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「『法律の世界』を見て、聞いて、体験してみよう!」というのがこのゼミのテーマです。必要なのは、知識よりも好奇心!!です。 前半は、「社会科見学」を予定しています。法律家と呼ばれる人たちがそれぞれどんな仕事をしているのか、証言台に立つとどんな気持ちになるのか（裁判官席や当事者席でも良いのですが）、本物の裁判はどのように行われているのかなど、「法律の世界」を実際に見たり聞いたりしてみましょう。 中盤から後半にかけては、事例の検討（民事）や模擬裁判（刑事）を通じて、「法律を使う」ことを体感してもらいます。「法律は覚えるものではなく使うもの」という意識を明確にするとともに、抽象論ではなく具体的に考えることの大切さ、そして面白さを体感して下さい。 全般を通じて、まずは自由に発言をして、議論をすることに慣れるとともに、問いかけ（法的な問題に限りません）に対して「回答」（「解答」ではありません!）をするクセをつけましょう。その後、その「回答」についての法的な根拠づけを考えてみましょう。このような過程を通じて、「法的な考え方、物の見方」を体験してもらおう予定です。 併せて、弁護士としての体験談なども随時お話する予定です。			
到達目標			
なぜ?という疑問を持ち、「解答」（正解）を探すという高校までの発想を卒業して、自分の頭で考えて「回答」するクセを身につけること、その際に具体的なイメージを持てるようにすることが目標です。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、自己紹介など		
	シラバスや授業計画を読み、自分自身の目標を考えておく。 ゼミでやってみたいこと、興味のあることについて、考えをまとめておく。		60
第2回	「法律でメシを食う人びと」（法律家のお仕事） 「法廷って勝手に入れるの?」（裁判傍聴の準備・説明）		
	「法律家」と呼ばれる職業にはどんなものがあるか、それぞれどのような仕事をしているか、調べておく		60
第3回	「最初で最後の証言台?!」（模擬法廷見学）		
	【復習】授業時間中に説明する訴訟手続（特に刑事手続）の流れを確認し、裁判傍聴に備える。		60

第4回	「傍聴に行こう！」①（裁判傍聴）	
	【復習】傍聴に関して、後日報告（発表）できるようにまとめておく。	60
第5回	「傍聴に行こう！」②（傍聴の報告）	
	傍聴に関して、報告できるようにまとめておく。 ※詳細は、授業時間中に指示します。	60
第6回	民事（法）の世界を覗いてみよう！	
	日常生活の中の何気ない行為が法律とどのように関わっているのかを考え、まとめておく。	60
第7回	民事事件を解決してみよう！①	
	5人程度のグループに分かれての作業となるため、グループ内で話し合い、準備を進めておく。	60
第8回	民事事件を解決してみよう！②	
	【復習】授業時間中に取り扱った事例を見直し、併せて、関連する判例や文献を読む。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60
第9回	民事事件を解決してみよう！③	
	【復習】授業時間中に取り扱った事例を見直し、併せて、関連する判例や文献を読む。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60

第10回	刑事（法）の世界を覗いてみよう！	
	刑法各論の条文に目を通しておく。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60
第11回	模擬裁判をやってみよう！①	
	刑事訴訟における裁判官、検察官、弁護人それぞれの役割や、手続の流れについて調べておく。	60
第12回	模擬裁判をやってみよう！②	
	【復習】授業時間中に取り扱った問題点や手続について、関連する条文や判例を読む。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60
第13回	模擬裁判をやってみよう！③	
	【復習】授業時間中に取り扱った問題点や手続について、関連する条文や判例を読む。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60
第14回	模擬裁判をやってみよう！④	
	【復習】授業時間中に取り扱った問題点や手続について、関連する条文や判例を読む。 ※詳細は授業時間中に指示します。	60
第15回	まとめ～「法的な発想」とは	
	【復習】ゼミで取り扱ったことを振り返り、「法的な発想」とは何かを確認して、後期以降の学修につなげる。	60

授業の方法

ゼミ形式・双方向型が基本です。楽しむためには、観ているのではなく参加するのが一番です。積極的に参加してください!!

成績評価の方法

出席率のほか、参加度・貢献度を重視します（70%～80%）。ここには、積極性や発言度のほか、「自分の頭で考える」という姿勢も含まれます。もちろん、発言内容をマイナスに評価することはありません。

なお、裁判傍聴のレポート（発表）（20%）のほか、期末に簡単なレポートを課すかもしれません（0～10%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

一切不要です（必要なのは好奇心のみ!）。なお、適宜「民法Ⅰ」の授業をフォロー出来ればと思っています。

テキスト

ありません。オリジナルのレジュメを使用します。

参考書

授業時間中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ゼミ終了後の時間のほか、随時、電子メールで受け付けます。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <441>		
教員名	木花 章智		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士の討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること		90
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <442>		
教員名	佐藤 高尚		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度(万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度)、(2) 課題提出(50%程度)の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <443>		
教員名	立石 洋子		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること		90
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <444>		
教員名	木花 章智		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度(万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度)、(2) 課題提出(50%程度)の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <445>		
教員名	立石 洋子		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士の討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること		90
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度(万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度)、(2) 課題提出(50%程度)の2点を総合的に判断して成績を評価します。

なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <447>		
教員名	川口 雄一		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度(万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度)、(2) 課題提出(50%程度)の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <448>		
教員名	杉守 慶太		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること		90
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。

なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <449>		
教員名	杉守 慶太		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法 基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。 したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。 準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。
成績評価の方法 (1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。 なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。
テキスト 演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。
参考書 少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <450>		
教員名	平石 耕		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。
なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <451>		
教員名	今井 貴子		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
(A) 学問の方法を身につける (1)社会科学の文献を読みこなすことができる (DP1 教養の修得) (2)テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる (DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力) (3)レジュメ（報告資料）を作成することができる (DP5 表現力、発信力) (4)分からないことを適切な方法で調べることができる (図書館やインターネットを正しく使いこなす) (DP2 課題の発見と解決) (5)レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる (DP5 表現力、発信力)			
(B) 学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる (1)ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる (DP1 教養の修得) (2)身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる (DP2およびDP6 専門分野の知識・理解) (3)批判的な考察力と建設的な思考力を培う (DP7 総合的判断力) (4)討論を通じて思索を深める (DP5 表現力、発信力)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してること		90
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと		90

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法 基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。 したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。 準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。
成績評価の方法 (1) 演習に関する態度(万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度)、(2) 課題提出(50%程度)の2点を総合的に判断して成績を評価します。 なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。
テキスト 演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。
参考書 少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <452>		
教員名	佐藤 高尚		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
（Ａ）学問の方法を身につける （１）社会科学の文献を読みこなすことができる（DP1 教養の修得） （２）テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる（DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力） （３）レジュメ（報告資料）を作成することができる（DP5 表現力、発信力） （４）分からないことを適切な方法で調べることができる（図書館やインターネットを正しく使いこなす）（DP2 課題の発見と解決） （５）レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる（DP5 表現力、発信力） （Ｂ）学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる （１）ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる（DP1 教養の修得） （２）身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる（DP2およびDP6 専門分野の知識・理解） （３）批判的な考察力と建設的な思考力を培う（DP7 総合的判断力） （４）討論を通じて思索を深める（DP5 表現力、発信力）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。

なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ・セミナー <453>		
教員名	魚躬 正明		
科目ナンバー	1001414020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）は「政治学への案内」（前期）「社会科学方法論」（後期）とともに、新入生を政治学の学習や研究へと導くための授業です。「フレッシュャーズ・セミナー」（前期）と「社会科学方法論」（後期）は、科目名は異なりますが、通年の演習（ゼミ）と考えてください。この演習では、政治学や関連分野の文献を幅広く読みながら、その基礎を学び、学問的な関心を深めていきます。その際、担当教員やゼミ生同士との討論を通じて、書物を読む習慣をつけ、読んだ内容を要約し、自分の意見を論理的にまとめ、他者に説明し、他者の説明に耳を傾けるという、ゼミでの作法を身につけることも目的にしています。			
到達目標			
(A) 学問の方法を身につける (1)社会科学の文献を読みこなすことができる (DP1 教養の修得) (2)テキストや自主研究の内容を論理的に報告することができる (DP4 自発性、積極性。DP5 表現力、発信力) (3)レジュメ（報告資料）を作成することができる (DP5 表現力、発信力) (4)分からないことを適切な方法で調べることができる (図書館やインターネットを正しく使いこなす) (DP2 課題の発見と解決) (5)レポート作成を通じて、正しく論理的な文章を書くことができる (DP5 表現力、発信力) (B) 学ぶための視野を広げる／学問によって視野を広げる (1)ある事象を歴史的、論理的な視座から捉えることができる (DP1 教養の修得) (2)身近な問題を「政治」や「社会」との関わりのなかで考えることができる (DP2およびDP6 専門分野の知識・理解) (3)批判的な考察力と建設的な思考力を培う (DP7 総合的判断力) (4)討論を通じて思索を深める (DP5 表現力、発信力)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	担当教員による趣旨説明・自己紹介・2回目以降の演習の調整など		
	シラバスに目を通してくること	90	
第2回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	
第3回	各担当教員が初回に指示する		
	「授業の方法」欄を参照のこと	90	

第4回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第5回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第6回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第7回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第8回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第9回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

第10回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第11回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第12回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第13回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第14回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90
第15回	各担当教員が初回に指示する	
	「授業の方法」欄を参照のこと	90

授業の方法

基本的に演習形式で、テキストの要約報告と、それをふまえた討論が中心となります。
したがって、報告者は分担の上、テキストの概要と、それに対する感想・疑問点・論点を記したレジュメを作成・配布し、報告することが求められます。もちろん、全ての参加者がテキストを事前に精読してくることが大前提です。
準備学修の時間については一概には言えませんが、受講者全員には、事前にテキストを精読し、分からない箇所は調べ上げ、適宜レポートを作成することが要求されます。具体的な準備学習の内容・方法については、各担当教員が演習内で指示します。

成績評価の方法

(1) 演習に関する態度（万全な準備学習、積極的な討論への参加、報告内容など。50%程度）、(2) 課題提出（50%程度）の2点を総合的に判断して成績を評価します。

なお、特段の事情を除き、遅刻・欠席は許されません。遅刻・欠席がやむを得ない場合には、必ず担当教員に相談してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「政治学への案内」をはじめ、他の政治学系科目との関連を意識しながら演習に参加してください。

テキスト

演習で使用するテキストについては、各担当教員の指示に従ってください。

参考書

少しでも興味を持ったテーマがあったなら、担当教員に相談してみてください。きっと面白い本を紹介してくれるはずです。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	フレッシュャーズ講座 <100>		
教員名	フレッシュャーズ講座 担当チーム		
科目ナンバー	1001411100	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
フレッシュャーズ講座は、「高校までの学び」のスタイルから、大学生らしい「主体的な学び」へと転換するための基礎作りを行う特別プログラムです。皆さんが「生徒」から「学生」に成長し、「主体的な学び」を身につけるために、各回の授業ではグループワークを積極的に行います。自分の考えを持ち、また、他者に自分の考えを自分の言葉で表現できるように意識し、「主体的に」授業に取り組んでください。			
到達目標			
① 自ら課題を発見し、自ら課題を解決する姿勢を身に付けること。 ② 自分が考えたことや伝えたいことを、自らの言葉で人に説明できるようになること。 上記2点を到達目標とし、DP4（自発性・積極性）及びDP5（表現力・発信力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業ガイダンス ・本講座の目標と学び方の説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて、準備を行う。 ・動画を見て、今後の大学生活をどのように送るか考える。		
	【予習】 ・事前に、このシラバスをよく読み、講座の概要（評価基準を含む）を理解しておく。	30	
第2回	世界とつながろう ・講義：日本の課題についての理解と、課題がもたらしたものと自分への影響・対処 ・事前の課題に基づいたグループディスカッション（グローバル化と自分への影響・対処） ・講義とディスカッション：大学生がどうやって世界とつながるか、またその成果について ・モナシユサマースクール紹介		
	【予習】 ・「グローバル化」と言われる世の中であるが、何を意味する言葉か考え記入する。 ・言葉の意味を定義した上で、具体的にグローバル化がもたらした変化の例を3つ挙げる。 ・グローバル化は様々な変化をもたらすと思われるが、自分への影響はどんなことが考えられ、それに対処するためにはどんなことが必要かを考える。	60	
	【復習】 ・今後の社会の変化を認識し、大学生のうちに身につけたいスキルと大学生活でやってみたいことを具体的に書きあげる。		

第3回	大学での行動計画を立てよう（1） アセスメント受検 ・自分の現状を知り、大学生活の目標を立てるための準備として、アセスメントを受検する。	
	アセスメント受検のため特になし	0
第4回	キャリアをデザインする ・「キャリア」とは何か、大学生活で身に付くキャリアとは何かを知る。 ・自分を取り巻く国内外の環境はどのように変化しているのかを知る。 ・これまでの学びと大学での学びの違いを知る。 ・大学生活は自分で選択し決断することの連続であることを知る。 ・キャリア支援センターの歩き方（利用の仕方）を知り、行ってみる。	
	【予習】 ・大学生活でチャレンジしてみたいこと、行ってみたい場所を書き出してみる。 ・社会で起きていることで気になっていることをまとめる。 【復習】 ・ワークシートを完成させる。	60
第5回	社会人から学ぼう ・社会人のコミュニケーションを学ぶ。 ・働くこと、働き甲斐を知る。 ・社会人の先輩の大学生活を知る。 ・学生の皆さんへのメッセージ（大学時代にしておくことなど）を受けて、どのような学生生活を送るか考える。	
	【予習】 ・ゲスト講師（第5回ゲスト）の会社の概要を調べて質問したいことをまとめておく。 ・気になる新聞記事の切り抜きを持参する。 【復習】 ・ゲスト講師の企業をさらに調べてみる。 ・職業選択の自分なりの基準をまとめてみる。 ・ワークシートを完成させる。	60
第6回	フレッシュャーズ ブックトーク ・本から必要な情報を読み取り、活用する力をつける。 ・「伝える」上手なプレゼンテーションを習得する。 ・意見の共有・共感から、コミュニケーション能力を育む。	
	【予習】 ・他の人にも読んでほしいと思う“おすすめ本”を選び、事前課題シートに記入する。 ・自分の言葉で人に本を薦められるよう準備する。	60
第7回	大学での行動計画を立てよう（2） アセスメントのガイダンス ・第3回で受検したアセスメントの結果である「大学生基礎力レポート」を使いながら、大学生活のテーマや1年間の目標を設定する。 ・今後の成蹊大学での学修や学生生活に役立てる。	
	【復習】 授業で具体的に説明する。	60

第8回	新聞を活用しよう ・新聞記事を読んで、理解し、その背景などを考えながら簡潔かつ正確に、第三者に伝わるように文章を作成する。 ・授業を通じて、下記的能力を身につける。 ① 表面的ではなく多面的且つ深層的に、事象を捉える ② 事実と意見を明確に分け、且つ論理的に伝える ③ 意見を文字にあらわし、自他共にそれを根拠に次のコミュニケーションへとつなげる	
	【予習】 新聞記事の構成と用語について、事前に調べておく。 例：「題字」（題号）とは？「見出し」とは？「袖見出し」とは？「前文（リード）」とは？	60
第9回	充実した大学生活を送るために ～“ストレス”と上手に付き合おう～ ・充実した大学生活のために役立つ“ストレス”や“うつ”の正しい理解と対処法を身につける。 ・本講座の学び方と目標についての説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて準備を行う。	
	【予習】 ・オリエンテーションで配布された3つのリーフレット（「学生相談室のあんない：あなたのためにできること」「forゆう」「ハラスメントされたときどうしたらいいの？」）を事前に必ず読んだ上、それらを授業に持参する。 ・オリエンテーション期間に開催される「利用資格取得講習会」の時間内で行われる「新入生質問リスト」に回答する。もし、できなかった場合は、4/13（金）18時までに各自でポータルサイトにアクセスし、回答を最後まで済ませておくこと。 【復習】 ・必要な時に学んだ知識と技術を活用できるように、内容を復習し整理すること。	予習：40 復習：20
第10回	ロジカルライティングを身につけよう（1） ・第10回、11回、12回の授業で、論理的な文章を書けるようになる。 ・第10回では、ロジカルとは何か、ロジカルなことがなぜ重要なのか、そのことが大学での学びやアウトプットにどう求められるのかを理解し、ロジカルライティングの基本構造（主張・意見⇒3つの根拠⇒念押し）の形を学習する。	
	【予習】 ・ロジカルライティング教科書P1に次の問への回答を記入する。「今後、世界的な人口増加に伴う食料不足が問題になった場合、海外からの食料輸入が難しくなることも考えられます。こうした状況で、日本国内の農業生産量を増やしていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？」 ・P2の「ロジライ事前チェック」に記入する。	60
第11回	ロジカルライティングを身につけよう（2） ・第11回では、執筆内容への自他の確認を通じ、ロジライチャートの理解、応用の観点を知る。 ・その中で、根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。	
	【課題】 ・P11の「STEP4」を完成し、第2章（P15～P26）を読み込む。	60
第12回	ロジカルライティングを身につけよう（3） ・第12回では、第10回、第11回の学習内容が身についているかどうかを確認する。 ・より根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。	
	【課題】 ・P50～P53の資料①～⑫を読み込む。	60

第13回	被災された方の気持ちを考えてみよう 大学生生活、あるいは卒業後の社会生活において、さまざまな価値観を持った人や、異なる背景・状況の中で生活している人と関わることが、今後不可欠となります。 この講座では、「被災者」という言葉をキーワードに、被災された方の言葉に耳を傾けて、その意味を考えるワークや、自分や他者にとっての大切な人、もの、ことについて考える機会を持つことで「被災者」とはどのような人たちのことなのか、そして支援を考えるうえで重要なことは何かを学びます。 日々の生活にも重要な「他者理解」について学び、より大学生生活を豊かにしていくためのヒントとしてください。	
	【予習】 ・授業担当者より事前に指定する資料を読み、自分の考えをまとめる（資料の配布方法は追って指示します）。 【復習】 ・本日の授業を通じて気付いたこと、感じたことを自分の周囲の人に話して共有してみよう。	60
第14回	先輩の話を聞いて大学生活を考えよう ・自分が大学、学部、学科で何を学ぶかを念頭に、教務部等の説明を参考にして、具体的に後期以降どのような授業科目を履修するのかを考える。	
	【予習】 ・履修要項の「成蹊教養カリキュラム」・「初修外国語」・「成蹊国際コース」、「学部カリキュラム」の部分をよく読んでくる。 ※授業終了後、ポータル上で「初修外国語希望調査アンケート」を実施する。 （理工学部、日本文学科を除く）	60
第15回	フレッシュャーズ講座 振り返り ・経済・文・法学部は1500字、理工学部は600字のレポートを、授業内で記述して提出する。 ・理工学部は、これに加えて、到達度確認テストを実施する。	
	【予習】 （経済学部、文学部、法学部） 第14回までの授業内容を振り返り、授業内に実施する課題を、制限時間（60分）内に1500字の文章が書けるように準備する。 （理工学部） 授業内に実施する課題及び到達度確認テストを、制限時間（60分）内に終わらせるように準備する。	60
授業の方法 複数の担当者によるオムニバス形式で、15回の講義を行います。使用する「テキスト」と「ワークブック」は、初回の授業で配布します。「ロジカルライティングテキスト」は、10～12回の授業で使用するので、各自で用意をしてください。 授業はグループワークと発表を中心とした構成となっており、授業のサポートをSA（Student Assistant）が行います。授業の最後に、ワークブックを回収し、内容を確認して、次の授業で戻すことを繰り返します。詳しくは、「テキスト」をよく読み、授業の準備をしてください。毎回の授業に出席し、大学で学ぶ意義を考え、最終15回目の授業で「課題レポート」を記入します。理工学部では、これに加えて、「到達度確認テスト」を実施します。 教室は、基本的に4号館を使用しますが、第7回、第10回～第13回で教室変更をする予定です。授業を受ける座席は「指定」です。座席表をポータルサイトに掲示するので、各自で確認をしてください。		
成績評価の方法 成績は、「P（Pass）」（合格）又は「N（Non-Pass）」（不合格）で評価します。また、GPAの計算には算入されません。 「P（Pass）」（合格）は、①課題レポートの提出、②授業への参加貢献、を基本とし、総合的に評価し付与します。 なお、理工学部では、「到達度確認テスト」（1回）の結果も、授業への参加貢献の評価に加味します。		
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特に必要としません。		
テキスト 初回授業で配布する「テキスト」「ワークブック」（再配布はしません。大切に使用してください。） ロジカルライティングテキスト（各自購入：1,800円税込み）		
参考書 「テキスト」の各授業のページで、参考書に関する記載を確認してください。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 質問・相談等があれば、各担当部署または教務部各学部カウンターでたずねてください。		

科目名	フレッシュャーズ講座 <200>		
教員名	フレッシュャーズ講座 担当チーム		
科目ナンバー	1001411100	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
フレッシュャーズ講座は、「高校までの学び」のスタイルから、大学生らしい「主体的な学び」へと転換するための基礎作りを行う特別プログラムです。皆さんが「生徒」から「学生」に成長し、「主体的な学び」を身につけるために、各回の授業ではグループワークを積極的に行います。自分の考えを持ち、また、他者に自分の考えを自分の言葉で表現できるように意識し、「主体的に」授業に取り組んでください。			
到達目標			
① 自ら課題を発見し、自ら課題を解決する姿勢を身に付けること。 ② 自分が考えたことや伝えたいことを、自らの言葉で人に説明できるようになること。 上記2点を到達目標とし、DP4（自発性、積極性）及びDP5（表現力・発信力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業ガイダンス ・本講座の目標と学び方の説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて、準備を行う。 ・動画を見て、今後の大学生活をどのように送るか考える。		
	【予習】 ・事前に、このシラバスをよく読み、講座の概要（評価基準を含む）を理解しておく。	30	
第2回	世界とつながろう ・講義：日本の課題についての理解と、課題がもたらしたものと持たすものについて ・事前の課題に基づいたグループディスカッション（グローバル化と自分への影響・対処） ・講義とディスカッション：大学生がどうやって世界とつながるか、またその成果について ・モナシユサマースクール紹介		
	【予習】 ・「グローバル化」と言われる世の中であるが、何を意味する言葉か考え記入する。 ・言葉の意味を定義した上で、具体的にグローバル化がもたらした変化の例を3つ挙げる。 ・グローバル化は様々な変化をもたらすと思われるが、自分への影響はどんなことが考えられ、それに対処するためにはどんなことが必要かを考える。 【復習】 ・今後の社会の変化を認識し、大学生のうちに身につけたいスキルと大学生活でやってみたいことを具体的に書きあげる。	60	
第3回	大学での行動計画を立てよう（1） アセスメント受検 ・自分の現状を知り、大学生活の目標を立てるための準備として、アセスメントを受検する。		
	アセスメント受検のため特になし	0	

第4回	キャリアをデザインする ・「キャリア」とは何か、大学生活で身に付くキャリアとは何かを知る。 ・自分を取り巻く国内外の環境はどのように変化しているのかを知る。 ・これまでの学びと大学での学びの違いを知る。 ・大学生活は自分で選択し決断することの連続であることを知る。 ・キャリア支援センターの歩き方（利用の仕方）を知り、行ってみる。	
	【予習】 ・大学生活でチャレンジしてみたいこと、行ってみたい場所を書き出してみる。 ・社会で起きていることで気になっていることをまとめる。 【復習】 ・ワークシートを完成させる。	60
第5回	社会人から学ぼう ・社会人のコミュニケーションを学ぶ。 ・働くこと、働き甲斐を知る。 ・社会人の先輩の大学生活を知る。 ・学生の皆さんへのメッセージ（大学時代にしておくことなど）を受けて、どのような学生生活を送るか考える。	
	【予習】 ・ゲスト講師（第5回ゲスト）の会社の概要を調べて質問したいことをまとめておく。 ・気になる新聞記事の切り抜きを持参する。 【復習】 ・ゲスト講師の企業をさらに調べてみる。 ・職業選択の自分なりの基準をまとめてみる。 ・ワークシートを完成させる。	60
第6回	フレッシュアーズ ブックトーク ・本から必要な情報を読み取り、活用する力をつける。 ・「伝わる」上手なプレゼンテーションを習得する。 ・意見の共有・共感から、コミュニケーション能力を育む。	
	【予習】 ・他の人にも読んでほしいと思う“おすすめ本”を選び、事前課題シートに記入する。 ・自分の言葉で人に本を薦められるよう準備する。	60
第7回	大学での行動計画を立てよう（2） アセスメントのガイダンス ・第3回で受検したアセスメントの結果である「大学生基礎力レポート」を使いながら、大学生活のテーマや1年間の目標を設定する。 ・今後の成蹊大学での学修や学生生活に役立てる。	
	【復習】 授業で具体的に説明する。	60
第8回	新聞を活用しよう ・新聞記事を読んで、理解し、その背景などを考えながら簡潔かつ正確に、第三者に伝えるように文章を作成する。 ・授業を通じて、下記の能力を身につける。 ① 表面的ではなく多面的且つ深層的に、事象を捉える ② 事実と意見を明確に分け、且つ論理的に伝える ③ 意見を文字にあらわし、自他共にそれを根拠に次のコミュニケーションへとつなげる	
	【予習】 新聞記事の構成と用語について、事前に調べておく。 例：「題字」（題号）とは？「見出し」とは？「袖見出し」とは？「前文（リード）」とは？	60

第9回	充実した大学生活を送るために ～“ストレス”と上手に付き合おう～ ・充実した大学生活のために役立つ“ストレス”や“うつ”の正しい理解と対処法を身につける。 ・本講座の学び方と目標についての説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて準備を行う。	
	【予習】 ・オリエンテーションで配布された3つのリーフレット（「学生相談室のあんない：あなたのためにできること」「forゆう」「ハラスメントされたときどうしたらいいの？」）を事前に必ず読んだ上、それらを授業に持参する。 ・オリエンテーション期間に開催される「利用資格取得講習会」の時間内で行われる「新入生質問リスト」に回答する。もし、できなかった場合は、4/13（金）18時までに各自でポータルサイトにアクセスし、回答を最後まで済ませておくこと。 【復習】 ・必要な時に学んだ知識と技術を活用できるように、内容を復習し整理すること。	予習：40 復習：20
第10回	ロジカルライティングを身につけよう（1） ・第10回、11回、12回の授業で、論理的な文章を書けるようになる。 ・第10回では、ロジカルとは何か、ロジカルなことがなぜ重要なのか、そのことが大学での学びやアウトプットにどう求められるのかを理解し、ロジカルライティングの基本構造（主張・意見⇒3つの根拠⇒念押し）の形を学習する。	
	【予習】 ・ロジカルライティング教科書P1に次の問への回答を記入する。「今後、世界的な人口増加に伴う食料不足が問題になった場合、海外からの食料輸入が難しくなることも考えられます。こうした状況で、日本国内の農業生産量を増やしていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？」 ・P2の「ロジライ事前チェック」に記入する。	60
第11回	ロジカルライティングを身につけよう（2） ・第11回では、執筆内容への自他の確認を通じ、ロジライチャートの理解、応用の観点を知る。 ・その中で、根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。	
	【課題】 ・P11の「STEP4」を完成し、第2章（P15～P26）を読み込む。	60
第12回	ロジカルライティングを身につけよう（3） ・第12回では、第10回、第11回の学習内容が身についているかどうかを確認する。 ・より根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。	
	【課題】 ・P50～P53の資料①～⑫を読み込む。	60
第13回	被災された方の気持ちを考えてみよう 大学生活、あるいは卒業後の社会生活において、さまざまな価値観を持った人や、異なる背景・状況の中で生活している人と関わるのが、今後不可避となります。 この講座では、「被災者」という言葉をキーワードに、被災された方の言葉に耳を傾けて、その意味を考えるワークや、自分や他者にとっての大切な人、もの、ことについて考える機会を持つことで「被災者」とはどのような人たちのことなのか、そして支援を考えるうえで重要なことは何かを学びます。 日々の生活にも重要な「他者理解」について学び、より大学生生活を豊かにしていくためのヒントとしてください。	
	【予習】 ・授業担当者より事前に指定する資料を読み、自分の考えをまとめる（資料の配布方法は追って指示します）。 【復習】 ・本日の授業を通じて気付いたこと、感じたことを自分の周囲の人に話して共有してみよう。	60

第14回	先輩の話を聞いて大学生活を考えよう	
	・自分が大学、学部、学科で何を学ぶかを念頭に、教務部等の説明を参考にして、具体的に後期以降どのような授業科目を履修するのかを考える。 【予習】 ・履修要項の「成蹊教養カリキュラム」・「初修外国語」・「成蹊国際コース」、「学部カリキュラム」の部分をよく読んでくる。 ※授業終了後、ポータル上で「初修外国語希望調査アンケート」を実施する。 (理工学部、日本文学科を除く)	60
第15回	フレッシュャーズ講座 振り返り	
	・経済・文・法学部は1500字、理工学部は600字のレポートを、授業内で記述して提出する。 ・理工学部は、これに加えて、到達度確認テストを実施する。 【予習】 (経済学部、文学部、法学部) 第14回までの授業内容を振り返り、授業内に実施する課題を、制限時間(60分)内に1500字の文章が書けるように準備する。 (理工学部) 授業内に実施する課題及び到達度確認テストを、制限時間(60分)内に終わらせるように準備する。	60
授業の方法		
複数の担当者によるオムニバス形式で、15回の講義を行います。使用する「テキスト」と「ワークブック」は、初回の授業で配布します。「ロジカルライティングテキスト」は、10～12回の授業で使用するので、各自で用意をしてください。 授業はグループワークと発表を中心にした構成となっており、授業のサポートをSA(Student Assistant)が行います。授業の最後に、ワークブックを回収し、内容を確認して、次の授業で戻すことを繰り返します。詳しくは、「テキスト」をよく読み、授業の準備をしてください。毎回の授業に出席し、大学で学ぶ意義を考え、最終15回目の授業で「課題レポート」を記入します。理工学部では、これに加えて、「到達度確認テスト」を実施します。 教室は、基本的に4号館を使用しますが、第7回、第10回～第13回で教室変更をする予定です。授業を受ける座席は「指定」です。座席表をポータルサイトに掲示するので、各自で確認をしてください。		
成績評価の方法		
成績は、「P(Pass)」(合格)又は「N(Non-Pass)」(不合格)で評価します。また、GPAの計算には算入されません。 「P(Pass)」(合格)は、①課題レポートの提出、②授業への参加貢献、を基本とし、総合的に評価し付与します。 なお、理工学部では、「到達度確認テスト」(1回)の結果も、授業への参加貢献の評価に加味します。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特に必要としません。		
テキスト		
初回授業で配布する「テキスト」「ワークブック」(再配布はしません。大切に使用してください。) ロジカルライティングテキスト(各自購入: 1, 800円税込み)		
参考書		
「テキスト」の各授業のページで、参考書に関する記載を確認してください。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
質問・相談等があれば、各担当部署または教務部各学部カウンターでたずねてください。		

科目名	フレッシュャーズ講座 <300>		
教員名	フレッシュャーズ講座 担当チーム		
科目ナンバー	1001411100	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
フレッシュャーズ講座は、「高校までの学び」のスタイルから、大学生らしい「主体的な学び」へと転換するための基礎作りを行う特別プログラムです。皆さんが「生徒」から「学生」に成長し、「主体的な学び」を身につけるために、各回の授業ではグループワークを積極的に行います。自分の考えを持ち、また、他者に自分の考えを自分の言葉で表現できるように意識し、「主体的に」授業に取り組んでください。			
到達目標			
① 自ら課題を発見し、自ら課題を解決する姿勢を身に付けること。 ② 自分が考えたことや伝えたいことを、自らの言葉で人に説明できるようになること。 上記2点を到達目標とし、DP4（自発性、積極性）及びDP5（表現力・発信力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス ・本講座の目標と学び方の説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて、準備を行う。 ・動画を見て、今後の大学生活をどのように送るか考える。 【予習】 ・事前に、このシラバスをよく読み、講座の概要（評価基準を含む）を理解しておく。		30
第2回	世界とつながろう ・講義：日本の課題についての理解と、課題がもたらしたものとたらすものについて ・事前の課題に基づいたグループディスカッション（グローバル化と自分への影響・対処） ・講義とディスカッション：大学生がどうやって世界とつながるか、またその成果について ・モナシュサマースクール紹介 【予習】 ・「グローバル化」と言われる世の中であるが、何を意味する言葉か考え記入する。 ・言葉の意味を定義した上で、具体的にグローバル化がもたらした変化の例を3つ挙げる。 ・グローバル化は様々な変化をもたらすと思われるが、自分への影響はどんなことが考えられ、それに対処するためにはどんなことが必要かを考える。 【復習】 ・今後の社会の変化を認識し、大学生のうちに身につけたいスキルと大学生活でやってみたいことを具体的に書きあげる。		60
第3回	大学での行動計画を立てよう（1） アセスメント受検 ・自分の現状を知り、大学生活の目標を立てるための準備として、アセスメントを受検する。 アセスメント受検のため特になし		0

第4回	キャリアをデザインする ・「キャリア」とは何か、大学生活で身に付くキャリアとは何かを知る。 ・自分を取り巻く国内外の環境はどのように変化しているのかを知る。 ・これまでの学びと大学での学びの違いを知る。 ・大学生活は自分で選択し決断することの連続であることを知る。 ・キャリア支援センターの歩き方（利用の仕方）を知り、行ってみる。	
	【予習】 ・大学生活でチャレンジしてみたいこと、行ってみたい場所を書き出してみる。 ・社会で起きていることで気になっていることをまとめる。 【復習】 ・ワークシートを完成させる。	60
第5回	社会人から学ぼう ・社会人のコミュニケーションを学ぶ。 ・働くこと、働き甲斐を知る。 ・社会人の先輩の大学生活を知る。 ・学生の皆さんへのメッセージ（大学時代にしておくことなど）を受けて、どのような学生生活を送るか考える。	
	【予習】 ・ゲスト講師（第5回ゲスト）の会社の概要を調べて質問したいことをまとめておく。 ・気になる新聞記事の切り抜きを持参する。 【復習】 ・ゲスト講師の企業をさらに調べてみる。 ・職業選択の自分なりの基準をまとめてみる。 ・ワークシートを完成させる。	60
第6回	フレッシュャーズ ブックトーク ・本から必要な情報を読み取り、活用する力をつける。 ・「伝わる」上手なプレゼンテーションを習得する。 ・意見の共有・共感から、コミュニケーション能力を育む。	
	【予習】 ・他の人にも読んでほしいと思う“おすすめ本”を選び、事前課題シートに記入する。 ・自分の言葉で人に本を薦められるよう準備する。	60
第7回	大学での行動計画を立てよう（2） アセスメントのガイダンス ・第3回で受検したアセスメントの結果である「大学生基礎力レポート」を使いながら、大学生活のテーマや1年間の目標を設定する。 ・今後の成蹊大学での学修や学生生活に役立てる。	
	【復習】 授業で具体的に説明する。	60
第8回	新聞を活用しよう ・新聞記事を読んで、理解し、その背景などを考えながら簡潔かつ正確に、第三者に伝わるように文章を作成する。 ・授業を通じて、下記の能力を身につける。 ① 表面的ではなく多面的且つ深層的に、事象を捉える ② 事実と意見を明確に分け、且つ論理的に伝える ③ 意見を文字にあらわし、自他共にそれを根拠に次のコミュニケーションへとつなげる	
	【予習】 新聞記事の構成と用語について、事前に調べておく。 例：「題字」（題号）とは？「見出し」とは？「袖見出し」とは？「前文（リード）」とは？	60

第9回	充実した大学生活を送るために ～“ストレス”と上手に付き合おう～ ・充実した大学生活のために役立つ“ストレス”や“うつ”の正しい理解と対処法を身につける。 ・本講座の学び方と目標についての説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて準備を行う。 【予習】 ・オリエンテーションで配布された3つのリーフレット（「学生相談室のあんない：あなたのためにできること」「forゆう」「ハラスメントされたときどうしたらいいの？」）を事前に必ず読んだ上、それらを授業に持参する。 ・オリエンテーション期間に開催される「利用資格取得講習会」の時間内で行われる「新入生質問リスト」に回答する。もし、できなかった場合は、4/13（金）18時までに各自でポータルサイトにアクセスし、回答を最後まで済ませておくこと。 【復習】 ・必要な時に学んだ知識と技術を活用できるように、内容を復習し整理すること。	予習：40 復習：20
第10回	ロジカルライティングを身につけよう（1） ・第10回、11回、12回の授業で、論理的な文章を書けるようになる。 ・第10回では、ロジカルとは何か、ロジカルなことがなぜ重要なのか、そのことが大学での学びやアウトプットにどう求められるのかを理解し、ロジカルライティングの基本構造（主張・意見⇒3つの根拠⇒念押し）の形を学習する。 【予習】 ・ロジカルライティング教科書P1に次の問への回答を記入する。「今後、世界的な人口増加に伴う食料不足が問題になった場合、海外からの食料輸入が難しくなることも考えられます。こうした状況で、日本国内の農業生産量を増やしていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？」 ・P2の「ロジライ事前チェック」に記入する。	60
第11回	ロジカルライティングを身につけよう（2） ・第11回では、執筆内容への自他の確認を通じ、ロジライチャートの理解、応用の観点を知る。 ・その中で、根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。 【課題】 ・P11の「STEP4」を完成し、第2章（P15～P26）を読み込む。	60
第12回	ロジカルライティングを身につけよう（3） ・第12回では、第10回、第11回の学習内容が身についているかどうかを確認する。 ・より根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。 【課題】 ・P50～P53の資料①～⑫を読み込む。	60
第13回	被災された方の気持ちを考えてみよう 大学生活、あるいは卒業後の社会生活において、さまざまな価値観を持った人や、異なる背景・状況の中で生活している人と関わるのが、今後不可避となります。 この講座では、「被災者」という言葉をキーワードに、被災された方の言葉に耳を傾けて、その意味を考えるワークや、自分や他者にとっての大切な人、もの、ことについて考える機会を持つことで「被災者」とはどのような人たちのことなのか、そして支援を考えるうえで重要なことは何かを学びます。 日々の生活にも重要な「他者理解」について学び、より大学生活生活を豊かにしていくためのヒントとしてください。 【予習】 ・授業担当者より事前に指定する資料を読み、自分の考えをまとめる（資料の配布方法は追って指示します）。 【復習】 ・本日の授業を通じて気付いたこと、感じたことを自分の周囲の人に話して共有してみよう。	60

第14回	先輩の話を聞いて大学生活を考えよう	
	・自分が大学、学部、学科で何を学ぶかを念頭に、教務部等の説明を参考にして、具体的に後期以降どのような授業科目を履修するのかを考える。 【予習】 ・履修要項の「成蹊教養カリキュラム」・「初修外国語」・「成蹊国際コース」、「学部カリキュラム」の部分をよく読んでくる。 ※授業終了後、ポータル上で「初修外国語希望調査アンケート」を実施する。 (理工学部、日本文学科を除く)	60
第15回	フレッシュャーズ講座 振り返り	
	・経済・文・法学部は1500字、理工学部は600字のレポートを、授業内で記述して提出する。 ・理工学部は、これに加えて、到達度確認テストを実施する。 【予習】 (経済学部、文学部、法学部) 第14回までの授業内容を振り返り、授業内に実施する課題を、制限時間(60分)内に1500字の文章が書けるように準備する。 (理工学部) 授業内に実施する課題及び到達度確認テストを、制限時間(60分)内に終わらせるように準備する。	60
授業の方法		
複数の担当者によるオムニバス形式で、15回の講義を行います。使用する「テキスト」と「ワークブック」は、初回の授業で配布します。「ロジカルライティングテキスト」は、10～12回の授業で使用するので、各自で用意をしてください。 授業はグループワークと発表を中心にした構成となっており、授業のサポートをSA(Student Assistant)が行います。授業の最後に、ワークブックを回収し、内容を確認して、次の授業で戻すことを繰り返します。詳しくは、「テキスト」をよく読み、授業の準備をしてください。毎回の授業に出席し、大学で学ぶ意義を考え、最終15回目の授業で「課題レポート」を記入します。理工学部では、これに加えて、「到達度確認テスト」を実施します。 教室は、基本的に4号館を使用しますが、第7回、第10回～第13回で教室変更をする予定です。授業を受ける座席は「指定」です。座席表をポータルサイトに掲示するので、各自で確認をしてください。		
成績評価の方法		
成績は、「P(Pass)」(合格)又は「N(Non-Pass)」(不合格)で評価します。また、GPAの計算には算入されません。 「P(Pass)」(合格)は、①課題レポートの提出、②授業への参加貢献、を基本とし、総合的に評価し付与します。 なお、理工学部では、「到達度確認テスト」(1回)の結果も、授業への参加貢献の評価に加味します。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特に必要としません。		
テキスト		
初回授業で配布する「テキスト」「ワークブック」(再配布はしません。大切に使用してください。) ロジカルライティングテキスト(各自購入: 1, 800円税込み)		
参考書		
「テキスト」の各授業のページで、参考書に関する記載を確認してください。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
質問・相談等があれば、各担当部署または教務部各学部カウンターでたずねてください。		

科目名	フレッシュャーズ講座 <400>		
教員名	フレッシュャーズ講座 担当チーム		
科目ナンバー	1001411100	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
フレッシュャーズ講座は、「高校までの学び」のスタイルから、大学生らしい「主体的な学び」へと転換するための基礎作りを行う特別プログラムです。皆さんが「生徒」から「学生」に成長し、「主体的な学び」を身につけるために、各回の授業ではグループワークを積極的に行います。自分の考えを持ち、また、他者に自分の考えを自分の言葉で表現できるように意識し、「主体的に」授業に取り組んでください。			
到達目標			
① 自ら課題を発見し、自ら課題を解決する姿勢を身に付けること。 ② 自分が考えたことや伝えたいことを、自らの言葉で人に説明できるようになること。 上記2点を到達目標とし、DP4（自発性・積極性）及びDP5（表現力・発信力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業ガイダンス ・本講座の目標と学び方の説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて、準備を行う。 ・動画を見て、今後の大学生活をどのように送るか考える。 【予習】 ・事前に、このシラバスをよく読み、講座の概要（評価基準を含む）を理解しておく。		30
第2回	世界とつながろう ・講義：日本の課題についての理解と、課題がもたらしたものとやらすものについて ・事前の課題に基づいたグループディスカッション（グローバル化と自分への影響・対処） ・講義とディスカッション：大学生がどうやって世界とつながるか、またその成果について ・モナシュサマースクール紹介 【予習】 ・「グローバル化」と言われる世の中であるが、何を意味する言葉か考え記入する。 ・言葉の意味を定義した上で、具体的にグローバル化がもたらした変化の例を3つ挙げる。 ・グローバル化は様々な変化をもたらすと思われるが、自分への影響はどんなことが考えられ、それに対処するためにはどんなことが必要かを考える。 【復習】 ・今後の社会の変化を認識し、大学生のうちに身につけたいスキルと大学生活でやってみたいことを具体的に書きあげる。		60
第3回	大学での行動計画を立てよう（1） アセスメント受検 ・自分の現状を知り、大学生活の目標を立てるための準備として、アセスメントを受検する。 アセスメント受検のため特になし		0

第4回	キャリアをデザインする ・「キャリア」とは何か、大学生活で身に付くキャリアとは何かを知る。 ・自分を取り巻く国内外の環境はどのように変化しているのかを知る。 ・これまでの学びと大学での学びの違いを知る。 ・大学生活は自分で選択し決断することの連続であることを知る。 ・キャリア支援センターの歩き方（利用の仕方）を知り、行ってみる。	
	【予習】 ・大学生活でチャレンジしてみたいこと、行ってみたい場所を書き出してみる。 ・社会で起きていることで気になっていることをまとめる。 【復習】 ・ワークシートを完成させる。	60
第5回	社会人から学ぼう ・社会人のコミュニケーションを学ぶ。 ・働くこと、働き甲斐を知る。 ・社会人の先輩の大学生活を知る。 ・学生の皆さんへのメッセージ（大学時代にしておくことなど）を受けて、どのような学生生活を送るか考える。	
	【予習】 ・ゲスト講師（第5回ゲスト）の会社の概要を調べて質問したいことをまとめておく。 ・気になる新聞記事の切り抜きを持参する。 【復習】 ・ゲスト講師の企業をさらに調べてみる。 ・職業選択の自分なりの基準をまとめてみる。 ・ワークシートを完成させる。	60
第6回	フレッシュャーズ ブックトーク ・本から必要な情報を読み取り、活用する力をつける。 ・「伝わる」上手なプレゼンテーションを習得する。 ・意見の共有・共感から、コミュニケーション能力を育む。	
	【予習】 ・他の人にも読んでほしいと思う“おすすめ本”を選び、事前課題シートに記入する。 ・自分の言葉で人に本を薦められるよう準備する。	60
第7回	大学での行動計画を立てよう（2） アセスメントのガイダンス ・第3回で受検したアセスメントの結果である「大学生基礎力レポート」を使いながら、大学生活のテーマや1年間の目標を設定する。 ・今後の成蹊大学での学修や学生生活に役立てる。	
	【復習】 授業で具体的に説明する。	60
第8回	新聞を活用しよう ・新聞記事を読んで、理解し、その背景などを考えながら簡潔かつ正確に、第三者に伝えるように文章を作成する。 ・授業を通じて、下記の能力を身につける。 ① 表面的ではなく多面的且つ深層的に、事象を捉える ② 事実と意見を明確に分け、且つ論理的に伝える ③ 意見を文字にあらわし、自他共にそれを根拠に次のコミュニケーションへとつなげる	
	【予習】 新聞記事の構成と用語について、事前に調べておく。 例：「題字」（題号）とは？「見出し」とは？「袖見出し」とは？「前文（リード）」とは？	60

第9回	充実した大学生活を送るために ～“ストレス”と上手に付き合おう～ ・充実した大学生活のために役立つ“ストレス”や“うつ”の正しい理解と対処法を身につける。 ・本講座の学び方と目標についての説明を聞き、理解する。 ・次回以降のグループワークに向けて準備を行う。 【予習】 ・オリエンテーションで配布された3つのリーフレット（「学生相談室のあんない：あなたのためにできること」「forゆう」「ハラスメントされたときどうしたらいいの？」）を事前に必ず読んだ上、それらを授業に持参する。 ・オリエンテーション期間に開催される「利用資格取得講習会」の時間内で行われる「新入生質問リスト」に回答する。もし、できなかった場合は、4/13（金）18時までに各自でポータルサイトにアクセスし、回答を最後まで済ませておくこと。 【復習】 ・必要な時に学んだ知識と技術を活用できるように、内容を復習し整理すること。	予習：40 復習：20
第10回	ロジカルライティングを身につけよう（1） ・第10回、11回、12回の授業で、論理的な文章を書けるようになる。 ・第10回では、ロジカルとは何か、ロジカルなことがなぜ重要なのか、そのことが大学での学びやアウトプットにどう求められるのかを理解し、ロジカルライティングの基本構造（主張・意見⇒3つの根拠⇒念押し）の形を学習する。 【予習】 ・ロジカルライティング教科書P1に次の問への回答を記入する。「今後、世界的な人口増加に伴う食料不足が問題になった場合、海外からの食料輸入が難しくなることも考えられます。こうした状況で、日本国内の農業生産量を増やしていくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか？」 ・P2の「ロジライ事前チェック」に記入する。	60
第11回	ロジカルライティングを身につけよう（2） ・第11回では、執筆内容への自他の確認を通じ、ロジライチャートの理解、応用の観点を知る。 ・その中で、根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。 【課題】 ・P11の「STEP4」を完成し、第2章（P15～P26）を読み込む。	60
第12回	ロジカルライティングを身につけよう（3） ・第12回では、第10回、第11回の学習内容が身についているかどうかを確認する。 ・より根拠を磨いて、説得力があり、伝わりやすい文章が書けるようになる。 【課題】 ・P50～P53の資料①～⑫を読み込む。	60
第13回	被災された方の気持ちを考えてみよう 大学生活、あるいは卒業後の社会生活において、さまざまな価値観を持った人や、異なる背景・状況の中で生活している人と関わるのが、今後不可避となります。 この講座では、「被災者」という言葉をキーワードに、被災された方の言葉に耳を傾けて、その意味を考えるワークや、自分や他者にとっての大切な人、もの、ことについて考える機会を持つことで「被災者」とはどのような人たちのことなのか、そして支援を考えるうえで重要なことは何かを学びます。 日々の生活にも重要な「他者理解」について学び、より大学生生活を豊かにしていくためのヒントとしてください。 【予習】 ・授業担当者より事前に指定する資料を読み、自分の考えをまとめる（資料の配布方法は追って指示します）。 【復習】 ・本日の授業を通じて気付いたこと、感じたことを自分の周囲の人に話して共有してみよう。	60

第14回	先輩の話を聞いて大学生活を考えよう	
	・自分が大学、学部、学科で何を学ぶかを念頭に、教務部等の説明を参考にして、具体的に後期以降どのような授業科目を履修するのかを考える。 【予習】 ・履修要項の「成蹊教養カリキュラム」・「初修外国語」・「成蹊国際コース」、 「学部カリキュラム」の部分をよく読んでくる。 ※授業終了後、ポータル上で「初修外国語希望調査アンケート」を実施する。 （理工学部、日本文学科を除く）	60
第15回	フレッシュャーズ講座 振り返り	
	・経済・文・法学部は1500字、理工学部は600字のレポートを、授業内で記述して提出する。 ・理工学部は、これに加えて、到達度確認テストを実施する。 【予習】 （経済学部、文学部、法学部） 第14回までの授業内容を振り返り、授業内に実施する課題を、制限時間（60分）内に1500字の文章が書けるように準備する。 （理工学部） 授業内に実施する課題及び到達度確認テストを、制限時間（60分）内に終わらせるように準備する。	60
授業の方法		
複数の担当者によるオムニバス形式で、15回の講義を行います。使用する「テキスト」と「ワークブック」は、初回の授業で配布します。「ロジカルライティングテキスト」は、10～12回の授業で使用するので、各自で用意をしてください。 授業はグループワークと発表を中心とした構成となっており、授業のサポートをSA（Student Assistant）が行います。授業の最後に、ワークブックを回収し、内容を確認して、次の授業で戻すことを繰り返します。詳しくは、「テキスト」をよく読み、授業の準備をしてください。毎回の授業に出席し、大学で学ぶ意義を考え、最終15回目の授業で「課題レポート」を記入します。理工学部では、これに加えて、「到達度確認テスト」を実施します。 教室は、基本的に4号館を使用しますが、第7回、第10回～第13回で教室変更をする予定です。授業を受ける座席は「指定」です。座席表をポータルサイトに掲示するので、各自で確認をしてください。		
成績評価の方法		
成績は、「P（Pass）」（合格）又は「N（Non-Pass）」（不合格）で評価します。また、GPAの計算には算入されません。 「P（Pass）」（合格）は、①課題レポートの提出、②授業への参加貢献、を基本とし、総合的に評価し付与します。 なお、理工学部では、「到達度確認テスト」（1回）の結果も、授業への参加貢献の評価に加味します。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特に必要としません。		
テキスト		
初回授業で配布する「テキスト」「ワークブック」（再配布はしません。大切に使用してください。） ロジカルライティングテキスト（各自購入：1,800円税込み）		
参考書		
「テキスト」の各授業のページで、参考書に関する記載を確認してください。		
質問・相談方法等（オフィス・アワー）		
質問・相談等があれば、各担当部署または教務部各学部カウンターでたずねてください。		

科目名	成蹊を知る		
教員名	北川 浩		
科目ナンバー	1101415010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
みなさんはどうして成蹊大学に入学しようと思ったのでしょうか。また成蹊大学のことをどこでどのように知ったのでしょうか。みなさんは「成蹊」というものについてどれだけのことを知っていますか。例えば次のような質問に自分なりに答えてみてください。「成蹊を創った人はだれ?」「成蹊と三菱は関係あるの?」「成蹊は始めから吉祥寺にあったの?」この講義はいわゆる「自校史」の授業です。成蹊にはこれまで100年の歴史があります。その中でさまざまなものが積み上げられ、現在の成蹊を形づくっています。成蹊の歴史を知ること、成蹊の中に身を置く自分自身のアイデンティティを知ることです。この授業を聴くことによって、みなさんが成蹊の学生であることに自信と誇りを持つようになることを期待しています。★将来成蹊学園の職員として就職することを希望する学生のみなさんがいたら、ぜひこの授業を履修することをお勧めします。			

到達目標			
・日本の歴史の流れの中で、教育の変遷と成蹊学園のあゆみを正確に理解する。 ・(DP5) 成蹊の特色を踏まえて自己のアイデンティティを確立し、自分自身を的確に表現できるようになる。 ・さまざまな歴史的フェーズにおいて、組織や個人の行動の良しあしを自ら考えられるようになる。 ・(DP4) 自校史の学習を通して、中村教育の神髄である「自発的精神」を養い、自分自身の将来を考察する能力を身につける。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の趣旨および進め方を説明し、成蹊学園の歴史の全貌を概説します。		
	講義された内容（成蹊の歴史の概略）の復習		60分
第2回	中村春二の生い立ちと人物像 創立者中村春二の生い立ちと、明治期の学制に関する歴史的背景について講義します。		
	講義された内容（中村春二の人物像）の復習		60分
第3回	成蹊教育の確立 成蹊実務学校、中学校、小学校の開校過程について概説します。		
	講義された内容（成蹊教育の確立）の復習		60分

第4回	成蹊教育の特色 中村春二がめざした教育の特色について概説します。	
	講義された内容（成蹊教育の特色）の復習	60分
第5回	成蹊学園の変貌と中村春二の死 財団法人成蹊学園設立と中村春二の死が成蹊教育に及ぼした影響について、大正期の教育状況を合わせて講義します。	
	講義された内容（大正期の成蹊学園）の復習	180分
第6回	中村春二が目指した教育（まとめ） 中村春二がめざした教育についての総まとめと 映画「たしかなあしぶみ」の鑑賞を行います。 （中間レポート課題提示）	
	中間レポート作成	60分
第7回	三菱財閥形成史 戦前の日本最大の財閥である三菱財閥がどのように形成されていったのか講義します。	
	講義された内容（三菱財閥形成史）の復習	60分
第8回	岩崎小弥太の生い立ちと人物像 創立期から生計を支えてきた岩崎小弥太の生い立ちと人柄について講義します。	
	講義された内容（岩崎小弥太の人物像）の復習	60分
第9回	旧制七年制成蹊高校の教育 旧制七年制成蹊高校の教育の特色と、校長浅野孝之の目指したものについて講義します。	
	講義された内容（浅野孝之の教育）の復習	60分

第10回	第二次大戦下の成蹊学園 第二次世界大戦中の成蹊学園の状況について、校長土田誠一が行った施策と併せて講義します。	
	講義された内容（土田誠一の教育）の復習	60分
第11回	成蹊大学開設 成蹊大学政治経済学部がどのように開設され、その教育はどのような特色を持っていたのかについて講義します。	
	講義された内容（成蹊大学政治経済学部の特色）の復習	60分
第12回	成蹊風土記 これまで授業であつてきた成蹊の歴史上重要な史跡が現在の成蹊の中にどのように残されているかについてまとめて講義します。	
	講義された内容（成蹊風土記）の復習	60分
第13回	成蹊大学四学部体制の確立 成蹊大学政治経済学部一学部のみからスタートした大学が、どのようにして四つの学部を備えるにいたったか、またそれぞれの学部はその後どのような変遷をたどったかについて講義します。	
	講義された内容（成蹊大学四学部体制の確立）の復習	60分
第14回	戦後の学生生活 終戦直後から学生運動終結までのながれを学生の目線でとらえていきます。	
	講義された内容（戦後の学生生活）の復習	60分
第15回	成蹊大学の現状と展望 成蹊大学の相対的な社会的評価の変化を概説し、将来に向けた戦略について考察していきます。	
	最終レポートの作成	180分

授業の方法

パワーポイントを用いた講義形式の授業です。
毎回ポータル（アンケート）で授業の質問、感想等の小レポートを提出してください。
そのほか中間レポートと最終レポートがあります。

成績評価の方法

毎回の小レポート提出を20パーセント、中間レポート30パーセント、最終レポート50パーセントのウエイトで評価を行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・ 成蹊学園の歴史上の主要な人物に関する事項の理解
 - ・ 中村春二の教育の特色の理解
 - ・ 成蹊と三菱の関係に関する知識の習得
 - ・ 成蹊学園100年の歴史の流れを順を追ってたどれるようになったか
 - ・ 大きな歴史の中で、組織や個人の行動を自分自身の視座で評価できるようになったか。
 - ・ 歴史や時代背景理解の中で、自分自身の将来について考察できるようになったか。
- の4つの観点を主要ポイントとして評価を行います。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の近現代史に関する知識があると良い。

テキスト

特定のテキストは使用しません。必要な資料があれば授業中に配布します。

参考書

「大正自由教育の旗手－中村春二」（まんが、みやぞえ郁雄） 小学館 1200円＋税
（興味のある人は成蹊ブックセンターで購入してください。）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	成蹊教養セミナー <1>		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	1101415020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

サイバースペースの英語／日本語
最近のインターネットの発達は目覚ましく、人々の生活の中で日増しに重要な役割を占めるようになった。ウェブ上では英語で書かれたテキストの占める割合が多く、それをうまく使いこなしていくことが今まで以上に意味を持つ。本セミナーでは、インターネットの検索ツールとしてgoogleでどのようなことができるか、またインターネット上のテキストデータベース、ソーシャルメディアネットワークなどを活用して、現在進行中の英語や日本語の変化、あるいは地域による変化について、どのような調査が可能か研究する。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP4（自発性・積極性）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。
（１）インターネットの仕組みについて理解する。
（２）インターネット上にある英語または日本語のテキストデータベースについて知り、活用出来るようになる。
（３）英語または日本語についてテーマを見つけ、調査したことをわかりやすく伝え、他の人の発表を理解して積極的に意見を述べる事ができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介 インターネットとは何か？	
	【予習・復習】教科書（相澤他） 1、2章を読み、重要な事柄をまとめる。	60分
第2回	Googleを使ってインターネット上の言語をしる Google Advanced Search	
	【予習】教科書（衣笠） 1章を読み、重要な事柄をまとめる。 【復習】練習問題をやる。	90分
第3回	コーパスとは何か？ コーパス言語学について知る	
	【予習・復習】『ベーシックコーパス言語学』 1章を読む	90分

第4回	BYUのテキストデータベースを使う(1)	
	【予習】教科書（衣笠）2章を読み、重要な事柄をまとめる。 【復習】練習問題をやる。	90分
第5回	BYUのテキストデータベースを使う(2)	
	【予習・復習】練習問題をやる。	90分
第6回	BYUのテキストデータベースを使う(3)	
	【予習・復習】練習問題をやる。 研究発表のテーマを決める。	90分
第7回	コーパスとしてのウェブ	
	【予習・復習】教科書（相澤他）5章を読む	60分
第8回	翻訳ソフト今昔	
	【予習・復習】教科書（相澤他）4章と教科書（衣笠）2章を読み、重要な事柄をまとめる。	90分
第9回	日本語のテキストデータベースを使う(1)	
	【予習・復習】教科書の指定された箇所を読み、練習問題をやる。	90分

第10回	日本語のテキストデータベースを使う(2)	
	【予習・復習】教科書の指定された箇所を読み、練習問題をやる。	90分
第11回	学生による発表(1)	
	【予習】各自の研究テーマについて発表できるように用意をする。	120分
第12回	学生による発表(2)	
	【予習】各自の研究テーマについて発表できるように用意をする。	120分
第13回	学生による発表(3)	
	【予習】各自の研究テーマについて発表できるように用意をする。	120分
第14回	学生による発表の講評とレポート作成の準備	
	【予習】各自の発表を振り返り、改善点を考える。 【復習】各自のレポートのまとめ方を検討し、執筆の準備をする。	60分
第15回	まとめ	
	【予習・復習】授業を振り返り、サイバースペースのテキスト情報について自分の知識を確認し、レポートを完成させる。	60分

授業の方法

講義とPC教室における実習を伴う演習形式。各自がテーマを選び、授業で得た知識を元に調査を行い、授業内にプレゼンテーションを行う。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）30%、発表20%、レポート50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。課題、研究発表、レポートは以下の点に着目して、その到達度により評価する。

- （１）インターネットの仕組みやテキストデータベースについて十分な知識を持っている。
- （２）英語または日本語のデータベースの検索方法を身につけ、意味のある調査を行うことができる。
- （３）英語または日本語に関して、複数の調査結果をまとめて、他者にわかりやすく説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

相澤 彰子、内山 清子、池谷 瑠絵『からくりインターネット アレクサンドリア図書館から次世代ウェブ技術まで』丸善ライブラリー、2010。821円、ISBN-13: 978-4621053799。

衣笠忠司『英語学習者のためのGoogle・英辞郎検索術』開拓社、2014年、1800円＋税、ISBN 9784758925488。

参考書

「購入の必要なし」

石川慎一郎『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房、2012年、ISBN-13: 978-4894765474。

リンドクヴィスト著 渡辺秀樹他訳『英語コーパスを活用した言語研究』大修館書店、2016年、2800円＋税、ISBN 9784469246001

荻野綱男、田野村忠温編『コーパスとしてのウェブ』講座ITと日本語研究、明治書院、2017年、2400円＋税、ISBN 9784625434433。

荻野綱男著『ウェブ検索による日本語研究』朝倉書店、2014年、2900円＋税、ISBN 9784254510447。

David Crystal, Language and the Internet>, CUP, 2001, ISBN 0521802121.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	成蹊教養セミナー <2>		
教員名	李 静和		
科目ナンバー	1101415020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
「文化」から「政治」を読む。 そのための方法論として映像分析を集中的に行います。			
到達目標			
映像分析を集中的に行なうことによって映像を“読める”ことを目指す。 それを通じて以下の到達目標も目指す。 政治学的視座に基づいて、現代社会が抱える諸問題を構造的に理解する力を養成すること（DP1） 批判的、論理的思考力、課題探求・問題解決力、コミュニケーション能力に基づいた総合的判断力を養成すること（DP5）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業の計画・内容については受講メンバーおよび人数によって変更する場合があるのでイントロダクションには必ず出席すること。		
	関連資料を読む（復習）	60～120	
第2回	映像と言葉 1		
	関連資料を読む	60～120	
第3回	映像と言葉 2		
	関連資料を読む	60～120	

第4回	映像と言葉 3	
	関連資料を読む	60～120
第5回	映像と出来事 1	
	関連資料を読む	60～120
第6回	映像と出来事 2	
	関連資料を読む	60～120
第7回	映像と出来事 3	
	関連資料を読む	60～120
第8回	映像と傷 1	
	関連資料を読む	60～120
第9回	映像と傷 2	
	関連資料を読む	60～120

第10回	映像と傷 3	
	関連資料を読む	60～120
第11回	映像の魅惑 1	
	関連資料を読む	60～120
第12回	映像の魅惑 2	
	関連資料を読む	60～120
第13回	映像への問い 1	
	関連資料を読む	60～120
第14回	映像への問い 2	
	関連資料を読む	60～120
第15回	全体討論（ラウンドテーブル）	
	関連資料を読む	60～120

授業の方法

選んだ映像と一緒に見て、その都度与えられたテーマに即して分析を行ないます。
基本的には講義形式ですが、ときには、ゼミ形式を用いることもあります

成績評価の方法

授業への参加および応答の度合いを大切にします。
授業中に行なった各テーマごとの内容をめぐって、多様な形式による提出が求められるので、【出席】が問われます。
おおまかな評価割合（%）としては、以下のようになります。
平常点（授業参加の度合い）50%
課題提出状況（回数および内容）50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

みなさんの持っている考え、選んだ授業から関連性を見つけてほしいです。

テキスト

『津波の後の第一講』（岩波書店／2012年／編：今福龍太、鶴飼哲）
その他、授業中にお知らせします。

参考書

授業中にお知らせします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトでお知らせします。

科目名	武蔵野地域研究		
教員名	高田 昭彦		
科目ナンバー	1101416010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
今回は、武蔵野地域でユニークな活動をし、かつボランティアを受け入れ易い団体に焦点を当てました。 これまで本講義では、2010年度以来「武蔵野市」のエリアにおいて、武蔵野市で活動する「市民活動団体・NPO」の代表や事務局長の方にその活動を紹介していただき、それを冊子にまとめてきました。その冊子は2018年度までで8冊になります。 今回はその中から6団体を選びました。そしてそれらの団体のリーダーに授業に来ていただいて講義をしてもらいます。 それと同時に、受講生の学生諸君には、ここで取り上げた団体のうち関心を持った団体を訪問して、その活動にボランティアとして参加してもらいます。但しこれは義務ではありません。 地域の問題に取り組む市民団体のお話を聞くと共に、その活動に実際に参加して生きた知識を身につけるという両面から、みなさんが通っている武蔵野市における市民活動の実像に迫ることを本講義の目的にしています。 その結果として、学生諸君は、単に机の上の勉強だけではなく、様々な人々が住んでいる地域社会をリアルに把握できるようになり、視野が広がり、将来の生き方に悔いのない選択ができるようになることを期待しています。			
到達目標			
受講する学生諸君には、住みたい町トップの吉祥寺をもつ武蔵野市にも、地域には様々な問題があること、そしてその解決に自主的に取り組んでいる様々な人々がいることを知ってもらいます。そういう方々とボランティアとして実際に行動を共にすることによって、武蔵野市という街を、実感として理解することを目指します。 なお、市民活動団体の方の教室での講演は、来年3月末に冊子としてまとめますので、希望者は4月になってから成蹊大学ボランティア支援センター（本館1階）に受け取りにきてください。無料です。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業全体のやり方の説明と、外からの講師の講義日程表を配布する。テーブル起こしのグループを決める。		
	各自、自分の周りにどのような地域の問題があるかを考えてきてください。	30分	
第2回	「ボランティアとは。ボランティアの心得等。」成蹊大学ボランティア支援センターの方がお話ししてくれます。		
	事前に、本館1階北側の成蹊大学ボランティア支援センターを見学に行っておいてください。	60分	
第3回	子どもたち自身によるまちづくり、「むさしのミニタウン」の活動を読みます。		
	『武蔵野地域研究報告書』（2013）の該当部分をコピーして配布します。	60分	

第4回	講師として、4年前に終了した「むさしのミニタウン」の復活を企画している学生に話してもらいます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第5回	幼児と若いお母さんのための「子育てひろば・みずきっこ」の活動を読みます。	
	『武蔵野地域研究報告書』（2018）の該当部分をコピーして配布します。	60分
第6回	講師として、「子育てひろば・みずきっこ」の代表の方に講義をしていただきます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第7回	市民が設計した「木の花小路公園」を管理している「生きものばんざいクラブ」の環境保全の活動を読みます。	
	『武蔵野地域研究報告書』（2018）の該当部分をコピーして配布します。	60分
第8回	講師として、「生きものばんざいクラブ」の方に講義をしていただきます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第9回	武蔵野市で農業を支援している「むさしの農業ふれあい村」の活動を読みます。	
	『武蔵野地域研究報告書』（2014）の該当部分をコピーして配布します。	60分

第10回	講師として、「むさしの農業ふれあい村」の代表の方に講義していただきます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第11回	誰でも自由に集まれる地域の居場所を提供している「みどりの縁側」の活動を読みます。	
	『武蔵野地域研究報告書』（2018）の該当部分をコピーして配布します。	60分
第12回	講師として、「みどりの縁側」の代表の方に講義していただきます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第13回	音楽療法というユニークな方法で高齢者に元気を与えている「高齢者の音楽を考える会」の活動を読みます。	
	『武蔵野地域研究報告書』（2012）の該当部分をコピーして配布します。	60分
第14回	講師として、「高齢者の音楽を考える会」の代表の方に講義していただきます。	
	各自1つだけ質問を準備しておくこと。	60分
第15回	授業のまとめ。（高田） 学生諸君のボランティア参加のレポートの提出。	
	試験問題の解答の仕方についての質問を受け付けます。	40分。

授業の方法

上記の活動団体の『武蔵野地域研究報告書』にある講演録と、その現在のリーダーの講義を組み合わせています。受講生は、まず団体の活動を読み、続いて現在の活動状況のお話を聞くことになります。その活動について、どんどん質問して理解を深めてください。各講師による講義では、受講生の中から希望者5～6人を選んで、各自講演者のお話をスマホで録音して、分担してテープ起こしをします。また学生は、気に入った市民団体にボランティアを希望して、市民団体に参加し経験を深めることができます。

成績評価の方法

学期末のテスト（問題を事前に発表します）50%、ボランティア参加度20%、講演者のテープ起こし20%、出席点10%。熱心に取り組んだ学生には、特別点を加算します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は、文学部後期火曜3限に開講している「ボランティア・NP0の社会学」。
これは「武蔵野地域研究」の理論編になっています。市民活動に関心のある学生には履修を薦めます。

テキスト

コピーして配布します。

参考書

『“吉祥寺人”が語る吉祥寺の魅力』（2010年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『コミセンによるコミュニティづくり』（2011年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（1）』（2012年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（2）』（2013年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（3）』（2014年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（4）』（2015年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（5）』（2016年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNP0・市民活動（6）』（2018年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
高田昭彦『政策としてのコミュニティ——武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ』風間書房、2016年3月。
これらは、本館1階北側 成蹊大学ボランティア支援センターで閲覧することができます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に直接、あるいは電話やメールでアポイントメントを取ってから、質問や相談をしてください。歓迎します。

科目名	地域福祉論		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1201416030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
地域福祉は、どこで、誰と、どのように暮らしていこうとするのかに深く関わる領域である。今の日本の社会福祉は、経済構造や社会状況の変化に合わせてさまざまな改革が試みられているが、その中で、生活の基盤である地域は重視され、在宅福祉サービス、ボランティア活動の推進など、住民を主体にした福祉のあり方が模索されている。この授業では、地域福祉の理念とその歴史について学び、自分と関わりのある地域で、住民が連携してお互いを支え合う仕組みがどのように作られているのかを考える。			
到達目標			
DP2「課題の発見と解決」とDP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実践するため、以下の2点を到達目標とする。 ①地域福祉が重視されるようになった経緯や地域福祉の考え方、その実践の仕組みを理解する。 ②自分と関わりのある地域で、具体的にどのような試みがなされているのかを知る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	地域福祉とは？		
	プリントの復習	60	
第2回	地域福祉の歴史と理念①		
	プリントの復習	60	
第3回	地域福祉の歴史と理念②		
	プリントの復習	60	

第4回	地域の特性を知ること	
	自分と関わりのある地域について調べる。	60
第5回	社会福祉協議会の仕事	
	自分と関わりのある地域について調べる。	60
第6回	地域福祉計画とは？	
	自分と関わりのある地域の福祉計画を見る。	60
第7回	地域福祉とソーシャルサポートネットワーク	
	授業の内容に即して自分の意見をまとめる。	60
第8回	ボランティアとボランティア	
	授業の内容に即して自分の意見をまとめる	60
第9回	ヤングケアラーと若者ケアラー	
	授業の内容に即して自分の意見をまとめる	60

第10回	地域のつながりを作る	
	授業の内容に即して自分の意見をまとめる	60
第11回	子どもの貧困	
	到達度確認テストに向け、情報を収集する。	60
第12回	民生委員・児童委員の仕事	
	到達度確認テストに向け、情報を読み込む。	60
第13回	子どもの貧困対策	
	到達度確認テストの論述構成を考える。	60
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

授業の方法

プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

成績評価の方法

到達度確認テスト（50％）と、平常点（授業中の課題など）（50％）で、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、「社会福祉概論」「社会福祉事業史」「老人福祉論」がある。

テキスト

授業で配布するプリント

参考書

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編、2012、『よくわかる地域福祉 第5版』ミネルヴァ書房。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	武蔵野市寄附講座（ITとルールの今・未来）		
教員名	塩澤 一洋		
科目ナンバー	1101416110	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：ITとルールの今を知り、近未来社会に対する法的パースペクティブを養う			
現在のルール（法律）はIT化が進む近未来の社会に適合しているでしょうか。 AI（人工知能）やIT（情報技術）によって、社会が急速に変化しています。社会が変わればルール（法律）を変える必要も生じます。この先、はたして我々のルール（法律）はどうあるべきなのか。			
この講座では、ITやAIの分野で最先端のテクノロジーを開発・利用している方々、その経済的価値を高めたり分析をしている方々、IT関連の訴訟を扱っている方々、そしてその法制度を研究している方々を招き、ITとルールの「今」を知るとともに「未来」に対する視野を広げ、ルールのあり方をみなさんと一緒に検討したいと思います。未来のルールを作るのはあなたです。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）、7（法的素養に裏打ちされた判断力）を実現するため、①授業中に描かれるITを含む近未来像からルール（法律）に関する課題を見つけ、②それについて各自レポートを作成し、③ITとルール（法律）の現状と課題に関する知見と見解を明らかにすることにより、「論理的な文章表現ができるようになる」とともに、現行法令系的に読み、解釈し、事実に応用できるようになる」ことを到達目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ITとルールのパースペクティブ 塩澤 一洋（成蹊大学 法学部 教授）		
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える		90分
第2回	模倣と創造と知的財産～健全な文化の発展のために 遠山 勉（秀和特許事務所 相談役・弁理士）		
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える		90分
第3回	ハイパフォーマンスコンピューティングと社会——ハイパフォーマンスコンピューティングがもたらす社会に人の意識や法律が追い付かない！ 西川 武志（公益財団法人計算科学振興財団 共用専門員・主任研究員）		
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える		90分

第4回	個人情報とマネタイズ 太田 康広（慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第5回	暗号通貨とブロックチェーン 首藤 一幸（東京工業大学 情報理工学院 数理・計算科学系 准教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第6回	AI創作物と知的財産権 玉井 克哉（東京大学 先端科学技術研究センター 教授・弁護士）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第7回	身体の未来 稲見 昌彦（東京大学 先端科学技術研究センター 教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第8回	ネットでの権利侵害と救済、匿名発信の危険性について事例検討 甲本 晃啓（甲本総合法律事務所 所長・弁護士）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第9回	ITの変化が引き起こす働き方のルールの変化 西尾 泰和（株式会社サイボウズ・ラボ 主幹研究員）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分

第10回	「法律」が変わると「働き方」も変わる？－「働き方改革」の意義と課題－ 原 昌登（成蹊大学 法学部 教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第11回	不動産×金融×IT ～地域共生社会の実現に向けて～ 杉山 ひろみ（SMB信託銀行 不動産コンサルティング部付部長）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第12回	企業と労働者のマッチング支援 安藤 至大（日本大学 経済学部 教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第13回	バーチャル株主総会 北川 徹（成蹊大学 法学部 教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第14回	国境を越える情報と法 巽 智彦（成蹊大学 法学部 准教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分
第15回	テクノロジーと金融規制 湯原 心一（成蹊大学 法学部 准教授）	
	授業の内容に対応したITとルールの今と未来について検討を加える	90分

授業の方法

オムニバス講義形式です。ITと法律、双方における最先端の研究者、実務家から、最先端の現状と課題をご紹介いただき、それに対して
ルールのあり方をみなさんと検討していきます。

成績評価の方法

1. 授業中の質問等、発言の回数
 2. 毎回授業の最後にご記入いただく、その授業に関する短いレポート
 3. 最終回（2020年1月16日）の1週間後（2020年1月23日23:59）を締め切りとして提出していただく最終レポート
- この3つを総合して成績評価をします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし

テキスト

法令集が必要ですが、下記のwebサイトですべての法令を参照できますので冊子を持参しなくても受講できます。
e-Gov法令検索 <http://elaws.e-gov.go.jp/>

参考書

必要に応じて授業中に各ご担当者から適宜ご紹介があります。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	武蔵野地域連携セミナー（吉祥寺ツアープログラム開発）		
教員名	光田 剛		
科目ナンバー	1001416090	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
この講義では、魅力的なツアープログラムの開発を通じて、調査・分析、コンテンツの創作、発表の技法などを学びます。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、成蹊大学のある武蔵野市にも国内外から多くの観光客がやってくることが予想されます。このクラスでは、武蔵野市の歴史や文化がもつ魅力を発見し、それを来街者に伝えるためのツアープログラムを開発します。さまざまな年齢層や文化圏に属する来街者を想定しながらプログラム開発を進めることで、武蔵野市の歴史や文化がもつ魅力を複眼的に発掘します。 この目標を達成するため、受講者は文献調査や取材を通じて発見した武蔵野市の魅力についてプレゼンテーションを作成・実施し、それに関して議論を行います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5(表現力、発信力)、DP7(総合マネジメント力)を実現するために、この講義を通じて、コンテンツ（ツアープログラム）を企画・創造し、それを他者に適切に伝達するスキルを育成します。 具体的には、以下の目標が達成できればよいと考えています。 ①成蹊大学の位置する武蔵野市の歴史や文化に関する理解を深め、魅力を発見し、それを国内外から訪れる人たちに伝えられるようになること。プレゼンテーション・スキルを向上させ、パワーポイントの使い方について習熟する。DP5（表現力、発信力） ②特に国外から武蔵野市を訪れる人に街の魅力を伝えるための工夫を通じて、自分が慣れ親しんでいる文化とは異なる文化に対する関心や理解を深めること。DP2（課題の発見と解決） ③グループ・ワークを通じて、チームでの学習活動において各自がどのような貢献が果たせるか、果たすべきかを理解する。同時に、ディスカッションの技術を向上させる。DP3（他者との協働）、DP7(総合マネジメント力)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（この講義の位置づけ、受講にあたっての心構え、登録手続き）		
	【予習】情報教育用施設利用資格を取得し、大学の情報環境を利用できるようにしておくこと。		120
第2回	個別オリエンテーション 講義の進め方の説明とグループ分け 個人発表実習（1）		
	【予習】個人発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】自分の発表の長所短所を整理しておくこと。		60
第3回	個人発表実習（2）		
	【予習】個人発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】自分の発表の長所短所を整理しておくこと。		60

第4回	個人発表実習（3） 個人発表のふりかえり	
	【予習】個人発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】自分の発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第5回	グループ発表の準備 まず、吉祥寺の街を知ろう	
	【予習】吉祥寺について自分が何を知っているか、各自整理しておく。 【復習】各グループで何を新しく知ったかを整理する。	60
第6回	グループ発表実習（1）	
	【予習】第5回で知ったことをグループごとに発表できる形式にまとめておく。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第7回	グループ発表実習（2）	
	【予習】第5回で知ったことをグループごとに発表できる形式にまとめておく。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第8回	グループ発表実習のふりかえり	
	【予習】第6～7回の内容を整理しておく。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第9回	ツアープログラム作成に向けて 季節も変わったのでもう一度吉祥寺の街を知ろう	
	【予習】第5～8回の内容をグループごとに整理しておく。 【復習】各グループで何を新しく知ったか、どこか見直すべき点があるかなどを整理する。	60

第10回	ツアープログラムの提案・検討（１）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第11回	ツアープログラムの提案・検討（２）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第12回	成果報告会を前にした情報交換・検討	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理しておくこと。	60
第13回	成果報告会（１）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理すること。	60
第14回	成果報告会（２）	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理すること。	60
第15回	全体のまとめ、ふりかえり	
	【予習】グループ発表実習のコンテンツを準備しておくこと。 【復習】各グループの発表の長所短所を整理すること。	60

授業の方法

主として個人またはグループ・ワークでのプレゼンテーション作成と報告、それに対するディスカッションという形で講義が行われます。希望者にユニバーサルマナー検定などの関連講座を受講してもらう可能性があります。

成績評価の方法

成績評価は、クラス（グループワーク）に対する各参加者の貢献度にもとづいて行います。ゼミナール（演習）形式の講義なので、受講者側の積極的な取り組みを前提とします。
平常点70%（個人30%＋グループ点20%）、レポート課題等30%。
次項目「成績評価の基準」も参照してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度で総合的に評価します。

- ①発表内容がしっかり準備されたものであったか。
- ②表現スキルが身に付いているか。
- ③グループに対する貢献がじゅうぶんなされていたか。
- ④クラス全体に対する貢献がじゅうぶんになされていたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特にありません。

参考書

特にありません。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	武蔵野地域連携セミナー（ルーマニア語入門）		
教員名	関口 コルネリア ラルカ		
科目ナンバー	1001416092	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
ルーマニアと聞くと、どんなイメージが浮かびますか？日本の方にはあまり知られていない国の一つかもしれませんが、1976年に開催されたオリンピックの舞台で初めて10点満点を出したナディア・コマネチは、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。サッカー選手のハジ、作曲家のエネスクなどもよく知られています。ルーマニアのドラキュラ伝説はあまりにも有名ですね。また、ルーマニアワインの歴史は4000年前に遡ることができ、独自の伝統的製法による上質なワインは、近年日本にも輸入されています。 ラテン語から発展してきたルーマニア語はローマ字が使われます。いくつかのローマ字にない音の表記はあるものの、基本的にはイタリア語とスペイン語と同じく、書いてある通りに読みます。地域による発音やアクセントの違いは多少ありますが、日本の方には発音しやすい言語の一つです。 本科目では、ルーマニア語をきっかけに、長い歴史のある東欧の国ルーマニアを多面的に紹介する事を目的としています。ルーマニア語（ラテン語起源でフランス語、イタリア語、スペイン語と同類）の初歩を学ぶだけでなく、毎回伝統的な歌やダンス、衣装や風習に触れる機会が得られるので楽しく受講できると思います。 ルーマニアは、日本の皆さんにはまだまだ知名度の低い国ですが、近年両国の経済協力も活発になってきています。この機会にぜひ、ルーマニア語と文化と一緒に学びましょう！ 予習には60～90分、復習には20～30分かかると想定されます。			

到達目標			
・ルーマニアの歴史、文学、文化、社会等について多面的に理解を深める。 ・ルーマニア語の初級文法を習得し概要を理解する。 ・ルーマニア語で簡単な会話ができるようになる。 ・ライティングスキルが獲得できるようになる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の全体像、進め方、予習、復習の仕方など説明する。 ルーマニアとはどんな国？ ルーマニア語はどんな言語？		
	シラバスをよく読んで授業の進め方を理解する。授業内容の復習		60
第2回	現在のルーマニア ルーマニア語：発音、挨拶		
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える。		90
第3回	伝統的な音楽・踊り ルーマニア語：動詞A Fi 「である」		
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える。宿題		90

第4回	オペラ：有名な歌手 ルーマニア語：動詞A Fi 「である」と関連する表現	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第5回	現代音楽 ルーマニア語：動詞A Avea「持つ」と関連する表現	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第6回	民族衣装 ルーマニア語：動詞A Fi 、A Aveaと関連する表現	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第7回	ルーマニア料理（I） ルーマニア語：動詞A Vrea「欲する」と関連する表現	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第8回	ルーマニア文化 ルーマニア語：動詞A Fi 、A Avea、A Vreaと関連する表現、敬語	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第9回	有名な観光地（I） ルーマニア語：レビュー（第2課～8課）	
	2～8課までの学修内容を復習、 授業に備える。宿題	90

第10回	有名な観光地（II） ルーマニア語：クイズ（第2課～9課）	
	2～9課までの学修内容を復習、 授業に備える。宿題	90
第11回	有名な観光地（III） ルーマニア語：動詞A DA（与える）と関連する表現、敬語	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第12回	ルーマニア文学 ルーマニア語：動詞A LUA（取る）と関連する表現、敬語	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第13回	スポーツ ルーマニア語：動詞A STA（立つ、泊まる、滞在する）と関連する表現	
	前回の授業で学んだことを復習、 授業に備える。宿題	90
第14回	ルーマニア語：レビュー（第11課～13課）	
	11～13課までの学修内容を復習、 授業に備える。宿題	90
第15回	ルーマニア語：クイズ（第2課～14課）とフィードバック	
	これまでの学修内容を総復習、 到達度確認テストに備える。	90

授業の方法

授業はパワーポイント、スライド等の映像、画像を多く用いて、積極的に参加しやすい内容で進めていく。授業用教材、及び予習復習用として、プリント資料を事前に配布する。

毎回5分程度、ルーマニアの文化、料理、踊り、映画、民族衣装、観光などに関するYouTube やGoogleのビデオを紹介する。ビデオに関する意見、感想を発表する等、授業への積極的な参加を期待する。

レポートの提出はないが、毎回宿題を課す。また、レビュー及びクイズを各2回実施する。
毎回レッスン終了前の5分間を質疑応答の時間として設ける。

成績評価の方法

中間試験、及び宿題等により評価する。

小テスト（2回×30%）、宿題（20%）、授業中の積極的な発言、質問、及び参加状況（20%）による評価

最終テスト必修

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

資料は授業時に配布する。

参考書

適宜、辞書を用意してください。各スマートフォンアプリケーション辞書等利用可。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回レッスン終了前の5分間を質問、コメントの時間とする。
また、随時メールでも受け付ける。

科目名	武蔵野地域連携セミナー（「おもてなし」のルーマニア語）		
教員名	シェルブレア ミハエラ		
科目ナンバー	1001416093	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
武蔵野市は、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックでルーマニア国のホストタウンとなりました。２０２０年には、いよいよたくさんさんのルーマニア人が武蔵野市を訪れます。そこで、武蔵野市を訪れたルーマニアの方と交流する実際の場面を提供し、“おもてなし”の心を大切にしながら、ルーマニア語を実践的に学ぼう。というのはこの授業の目的です。“ルーマニアの方が成蹊大学を訪れたら”、“ルーマニアの方と一緒に観戦するとしたら”、“ルーマニアの方に武蔵野市を案内するとしたら”、“東京を案内するとしたら”、“ルーマニア文化について質問するとしたら”、“日本の文化を紹介するとしたら”。。。と色々な場面で使えるフレーズやボキャブラリーを覚えましょう。そして、２０２０年にはそれを使う機会を積極的に求めて、ぜひ武蔵野市のルーマニア関連のイベントなどに参加して下さい。			
到達目標			
ルーマニア語で簡単な会話ができるようになる ルーマニアの文化を知る			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の全体像、進め方、予習、復習の仕方を説明する。ルーマニア語はどんな言葉？ 挨拶		
	シラバスを読んで、授業の進め方を理解する		60
第2回	自己紹介（勉強、趣味などについて）		
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える		90
第3回	日常生活について（食べる、飲む）		
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える		90

第4回	どこかへ行きたい	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第5回	道案内（主な建物）	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第6回	お店に行く、買い物	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第7回	町を歩く	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第8回	身体について	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第9回	スポーツ、観戦	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90

第10回	数字（時間、曜日）	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第11回	家族について、出身地について	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第12回	形容詞	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第13回	生活習慣、文化的なアドバイス	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第14回	復習、趣味	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90
第15回	まとめ、Q&A、クイズ	
	前回の授業で学んだことを復習、授業に備える	90

授業の方法

会話中心に、発音多く練習行う
映像

成績評価の方法

授業中の参加状況、クイズ

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	人権とジェンダー		
教員名	堀川 祐里		
科目ナンバー	1301417010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
現代社会における人権に関する課題をジェンダーの視点から考察します。受講生には、物事をジェンダーの視点から考察するという思考における“武器”を手に入れ、「あたりまえ」を疑う批判的思考を身につけてほしいと思います。本講義では、さまざまな人権に関する事柄について歴史的に考察した上で現状を分析することにより、受講生1人1人がその問題点について説明できるようになるよう、授業を展開していきます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP3（他者との協働）に基づき、以下の3点を到達目標とします。 ・人権に関する課題をジェンダー視点から考察するために、必要な基礎的知識を身につける。 ・想像力を培い、「あたりまえ」を疑う批判的思考力を向上させる。 ・講義で取り扱うそれぞれのテーマの論点について、自分の言葉で説明できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション		
	授業の計画、成績評価、注意事項等に関する説明を行います。		
	予習として、シラバスをよく読み、特に「授業の方法」と「成績評価の方法」について理解しておいてください。	60	
第2回	「性」について学ぶ（１）「ジェンダー」とは何か		
	身近な概念である「性」や「常識」とは何かについて考えていきます。		
	「性」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90	
第3回	「性」について学ぶ（２）「セクシュアリティ」とは何か		
	身近な概念である「性」や「常識」とは何かについて考えていきます。		
	「性」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90	

第4回	ジェンダーからみた家族と人権（１）日本における歴史 家族と人権についての歴史をたどります。	
	「家族」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第5回	ジェンダーからみた家族と人権（２）労働力の再生産との関係性 現代社会において家族が生活していくために必要な「労働力の再生産」をジェンダーの視点から考えます。	
	「家事」や「育児」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第6回	ジェンダーからみた家族と人権（３）現代日本における課題 現代日本における家族と人権の課題について考察します。	
	現代日本における「家族」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第7回	恋愛における人権とジェンダー 身近なテーマにおける人権とジェンダーについて考えます。まずは恋愛におけるジェンダーについて学びます。	
	「恋愛」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第8回	教育における人権とジェンダー 教育におけるジェンダーについて考えます。	
	「教育」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第9回	マスメディアにおける人権とジェンダー 誰もが手軽に情報を手に入れられる時代における、マスメディアとジェンダーの関係性について考察します。	
	「メディアリテラシー」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90

第10回	これまでの学習内容に関するまとめ ジェンダーと人権について持論を展開できるよう、これまでの学習内容について、知識の整理を行います。	
	これまでの授業で扱った範囲について復習を行い、知識を整理して、疑問点を解決しておいてください。	90
第11回	労働者の人権とジェンダー（１）日本における歴史 労働者の人権について歴史をたどります。	
	「労働」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第12回	労働者の人権とジェンダー（２）労働時間、賃金との関係性 労働時間と賃金について、ジェンダーの視点から考察します。	
	「労働時間」や「賃金」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第13回	労働者の人権とジェンダー（３）社会保障との関係性 社会保障とジェンダーの関係性について考えます。	
	「社会保障」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第14回	労働者の人権とジェンダー（４）現代日本における課題 現代日本における労働者の人権についてジェンダーの視点から考察します。	
	現代日本における「労働」に関する話題について新聞やニュースから情報収集を行ってください。また、授業で扱った範囲について復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しましょう。	90
第15回	まとめ これまでの学習内容から、ジェンダーフリーと人権について考えます。	
	これまでの授業で扱った範囲について復習を行い、人権とジェンダーについて自分の考えを説明できるようにしましょう。	90

授業の方法

講義を中心としますが、受講生の理解を促進するために映像資料を使用した授業も行います。また、全15回の授業のうち複数回において「予告なし」の小テストを行います。なお、受講生の人数に応じてグループワーク等を実施する場合もあります（授業内容は、受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがあります）。

本講義は、受講生が将来社会人として自立する力を身につけるために、自己学習の習慣をつけることを推奨します。新聞やニュース等で報道される人権とジェンダーに関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけましょう。

また、授業内に行う小テストや課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておきましょう。

なお、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎んでください。特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがあります。

※注意点※

授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、原則として第1回目の授業に出席してください。

成績評価の方法

学期末試験、授業内に実施する小テスト（全15回の授業のうち複数回において「予告なし」で行う）、その他（課題に対する回答、グループワーク等）の総合評価とし、総合評価割合は学期末試験50%、小テスト30 %、その他20%とします。

本講義では、授業に出席し、受講生自身が講義内容について能動的に考えをめぐらせ、身につけた知識や持論をアウトプットする能力を身につけることを重要視します。皆勤が原則ですので出席自体は評価の対象とはなりません、授業内に実施する課題に積極的に取り組むことが必須です。

たとえ学期末試験を受験して満点を取ったとしても、授業内に行う小テスト、その他での得点がない場合は単位が付与されないことに留意してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

《関連科目》家族社会学、ジェンダーに関する科目

テキスト

教科書は指定せず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進めます。配布するレジュメ等を土台に各自の受講生がメモをとることによって、自分だけのノートを作成していくことに重きをおきます。

参考書

各授業において適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	青年の心と身体		
教員名	林 潤一郎、岩田 淳子		
科目ナンバー	1101417020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
本講義では、青年期を生きる大学生の多くに生じる様々な悩みや取り組む課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、その特徴を理解するとともに、それらに備えるべく必要な知識を得ることを目的としている。 本講義は本学学生相談室との連携科目であり、各テーマを専門とする外部講師による講演や大学カウンセラーによる講義を中心としたオムニバス形式で行われる。前半は主に「大学生の生活」にまつわるテーマを扱い、後半は主に「大学生が体験することの多い困難・問題とその対策」にまつわるテーマを扱う。 また、本講義は、聴講するのみならず、各テーマについて自らの体験を振り返るとともに、受講生一人一人が積極的に向き合い、自分自身で考え、（受講生同士の匿名性は保持される形ではあるものの）その考えを表明することを重視する場としたい。こうしたお互いの考えや経験を他人と共有する機会を通して、他者の意見や考えを尊重し、それに対して理解を深めるとともに、自分自身の見解を育て、一層深めていくことを経験する機会にしたいと考えている。 なお、外部講師（授業計画における※印）の都合や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。			

到達目標			
DP1（教養の習得）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、を実現するために、以下を達成目標とする。 （１）各テーマを積極的に聴講し、それぞれの専門領域における基礎的な知識を得ること。 （２）知識の習得にとどまらず、自らの実体験と照らし合わせながら理解を深めること。 （３）各テーマにおける自分自身の経験や意見を大切にしながら、他人の経験や見解にも積極的に耳を傾けることを通じて、自らの見解をさらに深め、精緻化すること。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を知る。 大学における学びの意義とアイデンティティ形成 ・大学での学びの特徴と意義を理解する。 ・大学での学びとアイデンティティ形成の関係を理解する。		
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60	
第2回	大学生と学修スキル ・大学生が卒業までに獲得していくことが望まれている8つの学修スキルを理解する。 ・8つの学修スキルのエッセンスとそれらを獲得するためのコツや留意点を学ぶ。		
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60	
第3回	大学生と学修スキル（続き） ・大学生が卒業までに獲得していくことが望まれている8つの学修スキルを理解する。 ・8つの学修スキルのエッセンスとそれらを獲得するためのコツや留意点を学ぶ。		
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60	

第4回	大学生と友人関係 ・大学生における友人関係の特徴や影響を理解する。 ・大学生にみられる友人関係の変遷を理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第5回	大学生と睡眠 ・大学生活を送る上で知っておくとい睡眠についての知識を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第6回	大学生と親との関係 ・大学生における親子関係の特徴や影響を理解する。 ・大学生にみられる親子関係の変遷を理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第7回	大学生と恋愛にまつわるトラブル（※） ・大学生も経験する可能性のある恋愛にまつわるトラブルについて学ぶ。 ・デートDVを含む代表的な恋愛トラブルに対する予防的知識および対策を学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第8回	大学生とライフプランニング・妊娠不妊（※） ・大学生が知っておくといライフプランニングに関する知識を得る。 ・妊娠・不妊とライフプランとの関係性について理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第9回	大学生と法律（※） ・大学生活を送る上で知っておくとい法律に関する知識を得る。 ・大学生が直面することのある法律的課題を含むトラブルについて理解する。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60

第10回	大学生とインターネット依存（※） ・大学生を送る上で知っておくべき依存の問題について学ぶ。 ・インターネット依存の特徴とその対策について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第11回	大学生と障害理解 ・大学生が理解しておくべき障害に関する知識を得る。 ・発達障害やその支援策についての知識を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第12回	大学生と精神医学（※） ・大学生が知っておくべき精神医学の知識について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第13回	大学生と自殺予防 ・大学生も経験しうる自殺およびその予防に関する正しい知識と理解を得る。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
第14回	大学生とこころの健康の守り方 ・大学生を送る上で知っておくべきこころの健康とその守り方について学ぶ。	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深め、説明できるようにするとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60

第15回	大討論会 ・授業で扱ったいくつかのテーマを題材として、レスポンスシートにみられた様々な意見や見解を振り返り、その多様性を共有する。 ・他人に意見や見解を尊重して積極的に耳を傾けるとともに、自分の見解をさらに精緻化する。 ・必要に応じて、いくつかのテーマにおける更なる問題提起や情報提供を行う。 授業のまとめ	
	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、そうしたトピックに対する自分なりの意見や見解を整理する。	60
授業の方法		
授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。「大検討会」では、それまでのレスポンスシートをもとに、いくつかのテーマについて紙上討論を行う。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。 なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次回の講義にて実施予定である）。 ・期末レポート：授業での学修内容および授業を通して得られた自分自身の見解（意見）を確認する。 また、出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。		
成績評価の方法		
授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末レポート（60%）、により総合的に評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 （1）各テーマを積極的に聴講し、それぞれの専門領域における基礎的な知識を得ること。 （2）知識の習得にとどまらず、自らの実体験と照らし合わせながら理解を深めること。 （3）各テーマにおける自分自身の経験や意見を大切にしながら、他人の経験や見解にも積極的に耳を傾けることを通じて、自らの見解をさらに深め、精緻化すること。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
関連科目：自己理解の心理学／心理学の基礎		
テキスト		
特になし。各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるか講義時に配布される。事前にSeikei Portalにアップロードされる資料は各自プリントアウトして持参すること。		
参考書		
授業の中で紹介する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	こどもと社会 <1>		
教員名	駒谷 真美		
科目ナンバー	1201417030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
・現代社会は、21世紀に入り高度情報化が加速している“メディア社会”でもある。しかし、私たちは普段の生活の中で、メディア社会がどのような構造で形成されているのか、意識する機会は滅多にない。特に、子どもたちはメディア社会の中で、大量の玉石混合の情報に無防備に晒され彷徨っている。そこで、本授業では、メディア社会を生き抜くために、その様相について深層（behind the scenes）を読み解いていく。 ・具体的には、子どもたちの日常生活に密着しているメディアが、どのような社会現象を引き起こしているか、注目すべきissueを例として取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで、思考の共有を促進する。講義を通して、学生自身が情報社会に参画するための基盤となるメディア情報リテラシー（Media and Information Literacy）を育成し、メディアに対する抵抗力をつけていく。			
到達目標			
DP1（教養の修得）・DP3（他者との協働）・DP5（表現力・発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。			
①子どもに関わるメディアの特性と役割について適切な理解ができるようになる			
②高度情報社会の光（利便性）と影（危険性）について認識できるようになる			
③学生自身がactive audienceとして、メディア社会に参画する意識を高めることができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	【ガイダンス】		
	・シラバスに沿った講義概要の説明を行う		
	・成蹊ポータルによる学修方法（クラスプロフィールの授業資料や課題管理、アンケート機能）を説明する		
	・本講義に関連するメディア観や行動に関する事前アンケートを実施する		
	【予習】		30
	・成蹊ポータルで本時のシラバスと授業資料をチェックし熟読する		
	【復習】		
	・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングし、振り返る		
第2回	【稠密化・重層化・複合化する間メディア社会】		
	（例）アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ		
	・「間メディア社会」のリフレクションシートNo.1を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する		
	【予習】		90
	・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する		
	・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する		
	【復習】		
	・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする		
	・「間メディア社会」のリフレクションシートNo.1を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する		
第3回	・「間メディア社会」のリフレクションシートNo.1をフィードバックする		
	【消費を享受する社会（1） クロスメディア】		
	（例）「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」？		
	【予習】		60
	・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する		
	・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する		
	【復習】		
	・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする		

第4回	【消費を享受する社会（2） キャラクタービジネス】 （例）「初音ミク」「くまモン」が愛される理由 ・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2を成蹊ポータルアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90
第5回	・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2をフィードバックする 【消費を享受する社会（3） 広告とマーケティング】 （例）「アド・ミュージアム東京」学芸員授業 「子どもと広告について」 ・課題レポート①を成蹊ポータルに設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・課題レポート①を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90
第6回	【疎外される社会（1） 表現の自由】 （例）「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第7回	【疎外される社会（2） 報道被害】 （例）「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰？その時家族は？子どもたちは？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第8回	【疎外される社会（3） 情報操作】 （例）東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第9回	【疎外される社会（4） 情報格差】 （例）「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者一巻き込まれた子どもたち ・「疎外される社会」のリフレクションシートNo.3を成蹊ポータルアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「疎外される社会」のリフレクションシートNo.3を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90

第10回	【疎外される社会 (5) メディアのチカラ】 (例) テレビ局の出勤授業 「子どもとテレビについて」 ・課題レポート②を成蹊ポータルで設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・課題レポート②を書いて、成蹊ポータルで期限内に提出する	90
第11回	・「疎外される社会」のリフレクションシートNo. 3をフィードバックする 【現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ】 (例) 「アナ雪」に見る女性像の変容・JS (女子小学生) プームに見る読モ (読者モデル) 願望 ・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第12回	・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4をフィードバックする 【メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症】 (例) やめられないっ! 「ゲーム依存は病気!？」 ・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第13回	・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5をフィードバックする 【つながりを模索する社会 (1) メディア・コミュニケーションの絆】 (例) SNSでつながるもの・将来の夢はYouTuber!	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第14回	【つながりを模索する社会 (2) メディア・コミュニケーションの落とし穴】 (例) リベンジポルノ・デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去 ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第15回	【総括】 ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6をフィードバックする ・課題レポート①②をフィードバックする ・事後アンケートを実施する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで今までの授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・リフレクションシートNo. 1～No. 6と課題レポート①②を振り返る ・到達目標と自分の理解度を点検する ・不足している知識を再確認し、学修する	60

授業の方法

- ・本授業は、講義中心に進める。ネットやDVDなどの視聴覚教材と成蹊ポータルにアップした授業資料を元に講義内容を詳説する。
- ・本授業は、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。授業前のイントロアンケート・授業中のブレイクアンケート・授業後のリフレクションシートや課題レポートがある場合は、成蹊ポータルを利活用し、学生の主体的な活動を促し、知識の定着を図る。
- ・ゲストスピーカーの都合により、シラバスの内容を変更することがある。その場合は、事前に成蹊ポータルや授業で告知する。
- ・授業の進捗や時々話題に応じて、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

- ・平常点（第1週から第15週までリフレクションシート6回）60%＋活動点（課題レポート①②）40%により、総合的に評価する。
- ・点数に関わらず、リフレクションシート4回以上未提出、or/and 課題①②とも未提出は、F評価となる。
- ・リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは第15回にフィードバックを行う。
- ・リフレクションシートと課題レポートは、成蹊ポータルで機械的に処理される。1回のみ提出と期限を設定されている。よって、複数回提出しようとしても、設定された期限を過ぎてから提出しようとしても、シートとレポートは絶対に受理されない。教員の指示方法以外での提出は無効となる。
- ・教員の「他大学」メールアドレスに、シートやレポートに関してメールをするのは、不適切な方法であるので慎む。
- ・リフレクションシートと課題レポートは、必ずポータル提出前にバックアップを取っておく。学生個人の提出確認の問い合わせには応じられないので、各自で提出時チェックする。
- ・期限前にポータルから提出できない場合は、早めに大学の情報システムに各自で問い合わせ、自己責任で対応する。

成績評価の基準

- ・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
 - ・次の点に着目し、その達成度により評価する。
- ①子どもに関わるメディアの特性と役割について適切な理解ができるようになる
 - ②高度情報社会の光（利便性）と影（危険性）について認識するようになる
 - ③学生自身がactive audienceとして、メディア社会に参画する意識を高めることができる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・テレビやゲーム・スマホ・ネットなどのメディアと子どもに興味がある学生の受講を期待する。
- ・本授業では、Enjoyment・Edutainment（Education＋Entertainment）・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。ただし、授業中の私的SNSや雑談は厳禁である。

テキスト

- ・授業資料を成蹊ポータルのクラスプロフィール「授業資料」に適宜アップするので、必ず授業前にチェックして予習する。
- ・授業資料は、USBなどの記録メディアに保存したりプリントアウトしたり、学生自身で判断して情報収集に努める。

参考書

授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室か、教務課を通して受け付ける。

科目名	こどもと社会 <2>		
教員名	駒谷 真美		
科目ナンバー	1201417030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
・現代社会は、21世紀に入り高度情報化が加速している“メディア社会”でもある。しかし、私たちは普段の生活の中で、メディア社会がどのような構造で形成されているのか、意識する機会は滅多にない。特に、子どもたちはメディア社会の中で、大量の玉石混合の情報に無防備に晒され彷徨っている。そこで、本授業では、メディア社会を生き抜くために、その様相について深層（behind the scenes）を読み解いていく。 ・具体的には、子どもたちの日常生活に密着しているメディアが、どのような社会現象を引き起こしているか、注目すべきissueを例として取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで、思考の共有を促進する。講義を通して、学生自身が情報社会に参画するための基盤となるメディア情報リテラシー（Media and Information Literacy）を育成し、メディアに対する抵抗力をつけていく。			
到達目標			
DP1（教養の修得）・DP3（他者との協働）・DP5（表現力・発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①子どもに関わるメディアの特性と役割について適切な理解ができるようになる ②高度情報社会の光（利便性）と影（危険性）について認識するようになる ③学生自身がactive audienceとして、メディア社会に参画する意識を高めることができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	【ガイダンス】 ・シラバスに沿った講義概要の説明を行う ・成蹊ポータルによる学修方法（クラスプロフィールの授業資料や課題管理、アンケート機能）を説明する ・本講義に関連するメディア観や行動に関する事前アンケートを実施する		
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時のシラバスと授業資料をチェックし熟読する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングし、振り返る	30	
第2回	【稠密化・重層化・複合化する間メディア社会】 （例）アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ ・「間メディア社会」のリフレクションシートNo. 1を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する		
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「間メディア社会」のリフレクションシートNo. 1を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90	
第3回	・「間メディア社会」のリフレクションシートNo. 1をフィードバックする 【消費を享受する社会（1） クロスメディア】 （例）「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」？		
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60	

第4回	【消費を享受する社会（2） キャラクタービジネス】 （例）「初音ミク」「くまモン」が愛される理由 ・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2を成蹊ポータルアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90
第5回	・「消費を享受する社会」のリフレクションシートNo.2をフィードバックする 【消費を享受する社会（3） 広告とマーケティング】 （例）「アド・ミュージアム東京」学芸員授業 「子どもと広告について」 ・課題レポート①を成蹊ポータルに設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・課題レポート①を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90
第6回	【疎外される社会（1） 表現の自由】 （例）「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第7回	【疎外される社会（2） 報道被害】 （例）「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰？その時家族は？子どもたちは？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第8回	【疎外される社会（3） 情報操作】 （例）東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか？	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第9回	【疎外される社会（4） 情報格差】 （例）「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者一巻き込まれた子どもたち ・「疎外される社会」のリフレクションシートNo.3を成蹊ポータルアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中にとったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「疎外される社会」のリフレクションシートNo.3を書いて、成蹊ポータルアンケート機能で期限内に提出する	90

第10回	【疎外される社会 (5) メディアのチカラ】 (例) テレビ局の出勤授業 「子どもとテレビについて」 ・課題レポート②を成蹊ポータルで設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・課題レポート②を書いて、成蹊ポータルで期限内に提出する	90
第11回	・「疎外される社会」のリフレクションシートNo. 3をフィードバックする 【現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ】 (例) 「アナ雪」に見る女性像の変容・JS (女子小学生) プームに見る読モ (読者モデル) 願望 ・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第12回	・「現実と仮想を彷徨う社会」のリフレクションシートNo. 4をフィードバックする 【メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症】 (例) やめられないっ! 「ゲーム依存は病気!？」 ・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第13回	・「メディアに依存する社会」のリフレクションシートNo. 5をフィードバックする 【つながりを模索する社会 (1) メディア・コミュニケーションの絆】 (例) SNSでつながるもの・将来の夢はYouTuber!	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする	60
第14回	【つながりを模索する社会 (2) メディア・コミュニケーションの落とし穴】 (例) リベンジポルノ・デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去 ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6を成蹊ポータルのアンケート機能に設定する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで本時の授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・講義中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6を書いて、成蹊ポータルのアンケート機能で期限内に提出する	90
第15回	【総括】 ・「つながりを模索する社会」のリフレクションシートNo. 6をフィードバックする ・課題レポート①②をフィードバックする ・事後アンケートを実施する	
	【予習】 ・成蹊ポータルで今までの授業資料をチェックし熟読する ・イントロアンケートがある場合は、成蹊ポータルで事前に回答する 【復習】 ・リフレクションシートNo. 1～No. 6と課題レポート①②を振り返る ・到達目標と自分の理解度を点検する ・不足している知識を再確認し、学修する	60

授業の方法

- ・本授業は、講義中心に進める。ネットやDVDなどの視聴覚教材と成蹊ポータルにアップした授業資料を元に講義内容を詳説する。
- ・本授業は、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。授業前のイントロアンケート・授業中のブレイクアンケート・授業後のリフレクションシートや課題レポートがある場合は、成蹊ポータルを利活用し、学生の主体的な活動を促し、知識の定着を図る。
- ・ゲストスピーカーの都合により、シラバスの内容を変更することがある。その場合は、事前に成蹊ポータルや授業で告知する。
- ・授業の進捗や時々話題に応じて、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

- ・平常点（第1週から第15週までリフレクションシート6回）60%＋活動点（課題レポート①②）40%により、総合的に評価する。
- ・点数に関わらず、リフレクションシート4回以上未提出、or/and 課題①②とも未提出は、F評価となる。
- ・リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは第15回にフィードバックを行う。
- ・リフレクションシートと課題レポートは、成蹊ポータルで機械的に処理される。1回のみ提出と期限を設定されている。よって、複数回提出しようとしても、設定された期限を過ぎてから提出しようとしても、シートとレポートは絶対に受理されない。教員の指示方法以外での提出は無効となる。
- ・教員の「他大学」メールアドレスに、シートやレポートに関してメールをするのは、不適切な方法であるので慎む。
- ・リフレクションシートと課題レポートは、必ずポータル提出前にバックアップを取っておく。学生個人の提出確認の問い合わせには応じられないので、各自で提出時チェックする。
- ・期限前にポータルから提出できない場合は、早めに大学の情報システムに各自で問い合わせ、自己責任で対応する。

成績評価の基準

- ・成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
 - ・次の点に着目し、その達成度により評価する。
- ①子どもに関わるメディアの特性と役割について適切な理解ができるようになる
 - ②高度情報社会の光（利便性）と影（危険性）について認識するようになる
 - ③学生自身がactive audienceとして、メディア社会に参画する意識を高めることができる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・テレビやゲーム・スマホ・ネットなどのメディアと子どもに興味がある学生の受講を期待する。
- ・本授業では、Enjoyment・Edutainment（Education＋Entertainment）・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。ただし、授業中の私的SNSや雑談は厳禁である。

テキスト

- ・授業資料を成蹊ポータルのクラスプロフィール「授業資料」に適宜アップするので、必ず授業前にチェックして予習する。
- ・授業資料は、USBなどの記録メディアに保存したりプリントアウトしたり、学生自身で判断して情報収集に努める。

参考書

授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室か、教務課を通して受け付ける。

科目名	老人福祉論		
教員名	姫野 宏輔		
科目ナンバー	1201417040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるよう試行錯誤を繰り返す他はありません。 そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。 今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。			

到達目標			
DP1（教養の習得）およびDP2（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （１）老いがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。 （２）自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 イントロダクション——「老い」とは何か ・ひとが「老いている」と見なされることについて、多角的に考えてみる。		
	復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30
第2回	老いとディスアビリティ（１）		
	復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。		60
第3回	老いとディスアビリティ（２）		
	自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60

第4回	老いと家族・血縁（１）	
	復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた老人福祉の歴史について理解を深める。	60
第5回	老いと家族・血縁（２）	
	自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。	60
第6回	老いと経済・年金（１）	
	復習・授業中の配布資料を読み返し、経済活動と老いの関係性について理解を深める。	60
第7回	老いと経済・年金（２）	
	自分ならばどのような年金制度が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。	60
第8回	授業の小括 ・第2回～第6回の授業で提出されたコメントカードを振り返る。	
	復習・自分の理解度を確認し、他の受講生の意見を参考に自分の考えを深める。	30
第9回	老いと地域社会（１）	
	復習・授業中の配布資料を読み返し、農村部と都市部それぞれの老いをとりまく環境について理解を深める。	60

第10回	老いと地域社会（2）	
	自分ならばどのような「終の棲家」が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。	60
第11回	老いと人間関係（1）	
	復習・授業中の配布資料を読み返し、社会的孤立と老いの相関関係について理解を深める。	60
第12回	老いと人間関係（2）	
	自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。	60
第13回	老いと生きがい（1）	
	復習・授業中の配布資料を読み返し、生きがいの多義性について理解を深める。	60
第14回	老いと生きがい（2）	
	「生きがいをつくる」ことの多義性について、どのように他者と関わればよいか、自分なりに考えてみる。	60
第15回	授業の総括 ・第8回～第14回の授業で提出されたコメントカードを振り返り、期末レポートの準備をする。	
	復習・自分の理解度を確認し、他の受講生の意見を参考に自分の考えを深める。	30

授業の方法

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。正しい解決策といったものではありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

成績評価の方法

2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

参考書

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	福祉社会に生きる		
教員名	姫野 宏輔		
科目ナンバー	1201417050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
本科目は、現代社会におけるさまざまな福祉制度について、武川正吾『福祉社会——包摂の社会政策』（有斐閣）をテキストに用いて学んでいきます。社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。授業では社会学（特に福祉社会学）的な観点から福祉社会を捉える視点・思考方法を扱い、福祉制度が必要とされる現場から社会のデザインについて考えていきます。受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。			
到達目標			
DP1（教養の習得）およびDP2（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （１）現代の福祉社会の設計とその思想的な背景について、基本的な知識を身に付けて理解することができる。 （２）現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、成績評価について説明する。 イントロダクション——「福祉」とは何か ・「福祉」概念とそれを達成するための制度の多面性について学習する。		
	授業中の配布資料を読み返し理解を深める。	30	
第2回	マイノリティと社会		
	授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。	60	
第3回	ディスアビリティと社会		
	授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。	60	

第4回	ニーズとシーズ	
	授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。	60
第5回	資源の再分配	
	授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配について理解を深める。	60
第6回	専門主義と官僚制	
	授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的な背景について理解を深める。	60
第7回	到達度の確認（１） ・第2回～第5回の授業の内容にもとづいた論述問題に回答する。	
	第2回～第5回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60
第8回	福祉国家の成立	
	授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の歴史的な背景について理解を深める。	60
第9回	福祉国家の国家間比較	
	授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。	60

第10回	貧困と社会	
	授業中の配布資料を読み返し、貧困者の包摂に関する福祉制度について理解を深める。	60
第11回	医療制度と福祉	
	授業中の配布資料を読み返し、医療制度にまつわる福祉政策についての理解を深める。	60
第12回	福祉の担い手（１）	
	授業中の配布資料を読み返し、これまでの日本社会における福祉制度の担い手について理解を深める。	60
第13回	福祉の担い手（２）	
	授業中の配布資料を読み返し、今後不足する福祉制度の担い手について、自分なりに解決策を考えてみる。	60
第14回	到達度の確認（２） ・第8回～第13回の授業の内容にもとづいた論述問題に回答する。	
	第8回～第13回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60
第15回	授業の総括 ・2回の到達度確認テストの問題を振り返り、回答例を提示する。	
	自分の理解度を確認し、他の受講生の回答を参考に自分の考えを深める。	60

授業の方法

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除く講義回（第2回～第5回、第8回～第13回）では毎回、授業終了時にその授業に関するコメントカードを提出してもらいます。授業前半の終了時（第6回）および後半の終了時（第14回）にはそれまでの授業の内容についての理解度を確認する論述式のテストを実施します。テスト問題についてはそれぞれ前半・後半の授業内で触れますので、毎回の授業に出席し内容を復習していれば決して難しいことはありません。プリントを丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。

成績評価の方法

毎回の授業時に課されるコメントカード提出を平常点として50%、計2回実施する到達度の確認テストを50%の配分で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『福祉社会——包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN-10: 464112406X）

参考書

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	情報保障とボランティア		
教員名	倉谷 慶子、小林 千恵、長野 留美子、光岡 芳宏		
科目ナンバー	1401417060	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
大学に学ぶ障がい学生が年々増えており、法的な整備もあって、大学においては障がい学生の受入れや修学支援体制の整備を求められている。 一口に障がいと言っても聴覚、視覚など多くのケースがあるが、共通するのは授業をはじめ学生生活のさまざまな場面で情報取得のために多くの困難に直面せざるを得ないことである。例えば、聴覚障がいの場合には、情報保障がないために授業やゼミに出席していても「参加」し「理解」することができない状況が生じる。この困難を軽減するために、ノートテイクのような支援、つまり「情報保障」が積極的に行われる必要がある。 学生は授業に参加する権利があり、これを保障する取り組みがなされなくてはならず、実際に、多くの大学で支援体制の構築が進んでいる。 この授業では、障がいごとに授業に「参加」するために必要な支援方法の実際について体験を加えながら紹介する。			
到達目標			
障がい学生にとって学びやすい環境は、一般学生にとっても学びやすい環境だといえる。体験を通してコミュニケーションの大切さを実感し、さらに学んだ支援方法を、授業期間を問わず、またキャンパスの内外や卒業後の地域・職業生活で活用できることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	・オリエンテーション 情報保障とは		
	シラバスを読み、あらかじめ講義の目的を理解しておく	30	
第2回	・聴覚障がいの理解と支援方法① ノートテイク		
	テーマに応じて指示	30	
第3回	・聴覚障がいの理解と支援方法② ノートテイク		
	テーマに応じて指示	30	

第4回	・聴覚障がい理解と支援方法③	
	テーマに応じて指示	30
第5回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法①	
	テーマに応じて指示	30
第6回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法② 車いす等の体験	
	テーマに応じて指示	30
第7回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法③	
	テーマに応じて指示	30
第8回	・視覚障がい、肢体不自由の理解と支援方法④	
	テーマに応じて指示	30
第9回	・聴覚障がい理解と支援方法④ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	毎日10

第10回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑤ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	毎日10
第11回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑥ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	毎日10
第12回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑦ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	毎日10
第13回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑧ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	毎日10
第14回	・聴覚障がいの理解と支援方法⑨ 手話	
	テーマに応じて指示 学習内容を繰り返し練習する	60
第15回	・まとめ	
	第1回～14回の内容について確認しておく	60

授業の方法

・障がいの特性を理解し、情報保障のために必要な支援方法、コミュニケーションの方法などを具体的に紹介し、体験する。特に聴覚障がい
の支援及びコミュニケーション方法には多くの時間をかけて実施する。
・支援を利用している方から経験談を伺う機会を設け、利用者主体のあり方を学び、理解を深める。
・授業はテーマに合わせて講義や実技を行う。支援の実際も体験する体験を通じて自ら取り組む姿勢を身に着けるよう工夫する。毎回各自
の体験を小レポートやワークシート作成で振り返りをおこない、体験を共有する。当事者の立場を尊重し、コミュニケーションを通して相
手を理解する。

成績評価の方法

出席を重視（50%）する。そのうえで毎回の小レポート・ワークシート・講義中の参加状況（40%）、期末の試験（10%）をプラスに評価
する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University
Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	成蹊グローバルセミナー A		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1101417070	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

Welcome to Seminar on CS A.
This is an Transcultural Understanding course. Students are expected to develop self-monitoring communication strategies through various kinds of activities.
このコースは異文化（いぶんか）コミュニケーションを目的（もくてき）とするコースです。学生はさまざまな活動（かつどう）で自分（じぶん）のコミュニケーションを客観的（きやっかんてき）に観察（かんさつ）する力を養（やしな）います。

A teacher's role is to aid students by various kinds of activities.
講師は学生がコースの目的を達成するために様々な活動を提供します。

Students are required to participate in group activities, discussion and other activities.
学生はグループ活動、話し合い、その他の活動に参加しなければなりません。

到達目標

DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発進力）を達成するため、次を到達目標とします。

At the end of this course, the student will be able to :
improve their communicative competence
be a good facilitator

コミュニケーション能力（のうりよく）を高（たか）めます
ファシリテーター（促進者そくしんしゃ）としての技術（ぎ）も身につきます

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1 introduction to the course クラスについて What is a facilitator?ファシリテーターについて 2 icebreaker1 クラスメートを知るための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第2回	introduction to the course クラスについて four types of icebreakers クラスメートを知るための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第3回	four types of icebreakers クラスメートを知るための活動	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分

第4回	Team building activity1 チームワークを作る活動1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第5回	Team building activity2 チームワークを作る活動2 individual homework: Search for an icebreaker through books and online and so on. 個人（こじん）の宿題：課題をするために、アイスブレイキングとなる活動をさがす。	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第6回	Task1: co-facilitator [for preparation] 課題（かだい）1: ファシリテーターにってください。（準備） Examine the icebreakers suggested by all members and choose one. グループメンバーの選（えら）んだアイスブレイカーをやってみて、課題でやるアイスブレイキングを1つ選ぶ。	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第7回	task1 You are facilitators today! ファシリテーターを体験（たいけん）しよう。	
	Each member is supposed to explain how to play the icebreaker in English and Japanese. ファシリテータとしてクラスでアイスブレイキングをするためメンバー全員が英語と日本語で説明ができるよう準備する。	30 minutes 30分
第8回	task1 You are facilitators today! ファシリテーターを体験しよう。	
	Each member is supposed to explain how to play the icebreaker in English and Japanese. ファシリテータとしてクラスでアイスブレイキングをするためメンバー全員が英語と日本語で説明ができるよう準備する。	30 minutes 30分
第9回	Communication Game	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分

第10回	Unfair Trade Game	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第11回	Fair Trade Game Challenge	
	Students are expected to read reference as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第12回	Task2 :co-facilitator [for preparation] 課題（かだい）2: ファシリテーターにしてください。（準備） Examine the icebreakers suggested by all members and choose one.	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第13回	task2 You are facilitators today! ファシリテーターを体験（たいけん）しよう。	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第14回	task2 You are facilitators today! ファシリテーターを体験（たいけん）しよう。	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分
第15回	Team Challenge: Brain Teasers チームで創造力テストに挑戦（ちょうせん）！	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30 minutes 30分

授業の方法

participatory activities. Attendance to all classes is strongly recommended and active participation is encouraged.
参加型（さんかがた）の授業です。出席は重要です！ また、授業への積極的（せっきよくてき）な参加が必要です！

If you have a dictionary, bring it to every class.
辞書を持っていたら、毎回持ってきてください。

Homework is due at the beginning of the class period noted in the syllabus.
宿題は予定表（よていひょう）に書いてあるクラス時間の最初（さいしよ）に出してください。

Please avoid disrupting other students by arriving late or leaving early.
他の学生の迷惑（めいわく）になるので、遅刻（ちこく）、早退（そうたい）はしないでください。

成績評価の方法

70% of reflecting sheets + 12% short messages + 18% Portfolio(scrapbooking) =100%

活動報告（かつどうほうこく）など：70%
ショートメッセージ12%
ポートフォリオ（スクラップブックのようなもの）：18%
合計（ごうけい）：100%

* If you are in class, but asleep or obsessed with laptop or cell phone, I will assess your participation in each class negatively. 教室にいるが、寝ていたり、ノートパソコンやスマートフォンに夢中（むちゆう）になっていたら、参加度が下（さ）がります。

* It is strongly recommended that the student keep all graded assignments through the end of the course.
返却（へんきゃく）された宿題は保存（ほぞん）しておいてください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A student's overall letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし。Printed matters only

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

5:00 pm – 6:00 pm on Wednesday
毎週水曜日5時から6時

科目名	成蹊グローバルセミナーB		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1101417080	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
Welcome to Seminar on CS B. This is an transcultural Understanding course. Students are expected to develop self-monitoring communication strategies through various kinds of activities. このコースは異文化（いぶんか）コミュニケーションを目的（もくてき）とするコースです。学生はさまざまな活動（かつどう）で自分（じぶん）のコミュニケーションを客観的（きゃっかんてき）に観察（かんさつ）する力を養（やしな）います。 A teacher's role is to aid students by various kinds of activities. 講師は学生がコースの目的を達成するために様々な活動を提供します。 Students are required to participate in group activities, discussion and other activities. 学生はグループ活動、話し合い、その他の活動に参加しなければなりません。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発進力） At the end of this course, the student will be able to : improve your communicative competence play a different role which focuses on the mechanics of tasks build trusting relationships コミュニケーション能力（のうりよく）を高（たか）めます 課題により臨機応変（りんきおうへん）にさまざまな役割（やくわり）を担（にな）うことができます 信頼（しんらい）のある関係を築（きず）くことができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1 introduction to the course クラスについて		
	2 icebreaker1 クラスメートを知るための活動		
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください		30minutes 30分
第2回	introduction to the course クラスについて three types of icebreakers クラスメートを知るための活動		
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください		30minutes 30分
第3回	icebreaker		
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください		30minutes 30分

第4回	Team building activity1 チームワークを作る活動1	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第5回	Team building activity2 チームワークを作る活動2	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第6回	Diversity activity 多様性（たようせい）を考える活動	
	icebreaking activity and facilitate a 15 to 20 minutes icebreaking. ファシリテータとしてクラスでアイスブレイキングをする	30minutes 30分
第7回	communication acitivity1 コミュニケーションのための活動	
	Each group is supposed to choose one icebreaking activity and facilitate a 15 to 20 minutes icebreaking. ファシリテータとしてクラスでアイスブレイキングをする	30minutes 30分
第8回	communication acitivity2 コミュニケーションのための活動	
	icebreaking activity and facilitate a 15 to 20 minutes icebreaking. ファシリテータとしてクラスでアイスブレイキングをする	30minutes 30分
第9回	Unfair Trade Game	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分

第10回	Introduction to the project work これから参加するプロジェクトワークについて	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第11回	Project Work1 プロジェクトワーク 1	
	Students are expected to read reference as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第12回	Project Work2 プロジェクトワーク 2	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第13回	Project Work3 プロジェクトワーク3	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第14回	Making a portfolio ポートフォリオ作成	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分
第15回	short presentation using a portfolio in a new group 作成したポートフォリオを新しいグループの中で発表	
	Students are expected to read references as required by the instructor. その時、その時に講師が指示する物を読んでください	30minutes 30分

授業の方法

participatory activities. Attendance to all classes is strongly recommended and active participation is encouraged.
参加型の授業です。出席は非常に重要です！ また、授業への積極的な参加が必要です！

If you have a dictionary, bring it to every class.
辞書を持っていたら、毎回持ってきてください。

Homework is due at the beginning of the class period noted in the syllabus.
宿題は予定表（よていひょう）に書いてあるクラス時間の最初（さいしょ）に出してください。

Please avoid disrupting other students by arriving late or leaving early.
他の学生の迷惑（めいわく）になるので、遅刻（ちこく）、早退（そうたい）はしないでください。

TURN OFF CELLULAR PHONES, ETC. UPON ENTERING CLASS!!! 教室（きょうしつ）では携帯電話（けいたいでんわ）のスイッチを切（き）ってください。

成績評価の方法

70% of reflecting sheets + 12% short messages + 18% Portfolio(scrapbooking) =100%

活動報告（かつどうほうこく）など：70%
ショートメッセージ12%
ポートフォリオ（スクラップブックのようなもの）：18%
合計（ごうけい）：100%

* It is strongly recommended that the student keep all graded assignments through the end of the course.
返却（へんきゃく）された宿題は保存（ほぞん）しておいてください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A student's overall letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

指定せず。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

5:00 pm – 6:00 pm on Wednesday